高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第２０号
２０１８年
（2017年度自己点検評価資料）

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515　高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）
http://www.u-kochi.ac.jp/

学部理念・目的・ポリシー

【理念・目的】

教育理念

福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって､社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成する。

教育目的

（１）地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

（２）社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的技能を修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

（３）保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）

1　現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。

2　人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

（汎用的・実践的技能）

3　多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。

4　コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

（態度・志向性）
5　社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6　ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）
7　個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8　総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1　共通教養教育科目
（1）共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
（2）英語コミュニケーションは１、２年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
（3）可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2　専門教育科目
（カリキュラムの構造・教育内容）
専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために１１科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。
基礎段階では、１１科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだとこころの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「相談援助基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「相談援助実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

（履修方法・順序）
基礎段階の科目は、主に１～２年次に履修する。応用段階の科目は、主に２～３年次に履修する。発展段階の科目は、主に３～４年次に履修する。また、社会福祉領域における

相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）
　各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識･技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）
　学部の理念・目標に基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

【アドミッション・ポリシー】

　社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ､社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。
　したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像
１　高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
２　人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔理解力・洞察力・表現力〕
３　自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔理解力・洞察力・表現力〕
４　地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
５　他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲・協働性〕

入学者選抜の基本方針
　社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般入試（前期日程・後期日程)、推薦入試（県内・全国)、社会人入試、私費外国人留学生入試があります。

・一般入試（前期日程）
基礎学力の把握のため､学部が指定する大学入試センター試験教科･科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行

い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・一般入試（後期日程）
基礎学力の把握のため､学部が指定する大学入試センター試験教科･科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・推薦入試（県内・全国）
高等学校からの推薦者を対象として、基礎学力を把握する観点から調査書の評定平均値を点数化するとともに面接を行います。面接は、志望動機書及び推薦書を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・社会人入試
社会人の経験を有する者を対象として､小論文を課すとともに面接を行います｡小論文は、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・私費外国人留学生入試
日本国籍を有しない者を対象として、日本学生支援機構が実施する日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から､受験者の理解力･洞察力･表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

目　　次

Ⅰ．　2017年度を振り返る

１．　2017年度 社会福祉学部活動概括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
２．　2017年度 社会福祉学部主要の行事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
３．　2017年度 社会福祉学部時間割 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅱ．　社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）他

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2017年度） ・・・・・・・・・・・・・・・・6
１．杉　原　俊　二 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
２．田　中　き　よ　む ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
３．長　澤　紀　美　子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
４．丸　山　裕　子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
５．宮　上　多　加　子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
６．横　井　輝　夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
７．鈴　木　孝　典・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
８．中　嶌　洋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
９．西　内　章 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
10．西　梅　幸　治・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
11．三　好　弥　生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
12．山　村　靖　彦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
13．井　上　健　朗・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
14．河　内　康　文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
15．遠　山　真　世 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
16．鳩　間　亜　紀　子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
17．福　間　隆　康・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
18．稲　垣　佳　代 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
19．上　田　恵　理　子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
20．片　岡　妙　子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
21．加　藤　由　衣 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
22．雑　賀　正　彦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
23．鈴　木　裕　介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
24．田　中　眞　希 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
25．玉　利　麻　紀・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65

Ⅲ．　社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧（2017年度） ･････････ 67
１．教務委員会 ･････････････････････････････ 68
２．入試委員会 ･････････････････････････････ 70
３．学生委員会 ･････････････････････････････ 72
４．実習委員会 ･････････････････････････････ 73
５．就職委員会 ･････････････････････････････ 75
６．広報委員会 ･････････････････････････････ 76
７．介護人材確保部会 ･････････････････････････ 77
８．キャリア支援委員会 ･････････････････････････ 83
９．健康長寿センター ･････････････････････････ 85
10．高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 ･････････････ 86
11．災害対策プロジェクト ･････････････････････ 88
12．総務・予算委員会 ･････････････････････････ 90
13．国試対策支援委員会 ･････････････････････････ 91

Ⅳ．　学生を中心とした活動

１．国家試験に向けての取り組み ･････････････････ 93
２．国際交流 ･････････････････････････････ 94
３．学外イベントへの参加 ･････････････････････ 97
４．太鼓部 ･････････････････････････････ 98
５．池手話サークル ･････････････････････････ 99
６．イケあい ･････････････････････････････ 100
７．ハモ☆イケ ･････････････････････････････ 101
８．かんきもん ･････････････････････････････ 102
９．Society For Everyone ･････････････････････ 103
10．ボランティア活動 ･････････････････････････ 104

Ⅴ．　卒業論文題目一覧（2017年度） ･････････････････ 106

編集後記

I

2017年度を振り返る

2017年度 社会福祉学部活動概括

学部長　宮 上　多 加 子

１．教員体制

・2017年度は4月に新採用1名、10月に新採用2名が加わり教員数25名。
　職位構成は教授6名、准教授6名、講師5名、助教8名。
　担当分野構成は福祉基礎4名、社会福祉11名、介護福祉6名、精神保健福祉4名。

２．教育

・2014年度入学生より導入した新カリキュラムをすべての学年で履修。
・授業評価および学部独自の2つのアンケートを実施し、結果を分析したうえで、担当教員の授業方法改善に取り組んだ。
・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーについて、新年度の学部ガイダンス資料に掲載し周知。また、3ポリシーを学部ＨＰに掲載。
・8月から10月にかけて3回生が相談援助実習を、精神･社会福祉コースの4回生が精神保健福祉援助実習を行い、2月に実習報告会、3月に実習先担当者を招いて実習連絡協議会を開催。
・介護･社会福祉コース4回生が2016年度に実施した介護実習Ⅲの介護福祉事例研究報告会を7月に2回開催、実習先担当者を招いての実習連絡協議会を7月に開催。2回生の介護実習Ⅱを8月から9月にかけて行い、10月に実習報告会を開催。1回生の介護実習Ⅰと3回生の介護実習Ⅲを2月から3月にかけて実施。
・４回生の卒業研究では、4月に構想発表会、10月にポスター形式による中間報告会を経て、12月20日締切りで論文提出、卒論発表会を2月に開催。

３．研究

・研究成果としては著書3編、査読付論文25編、その他22編、学会発表等26件。
・「高知県立大学紀要(社会福祉学部編)」第67巻に15編掲載。
・科学研究費は平成29年度9件応募、3件採択で採択率33.3％、平成30年度は9件応募。
・科研費での他大学教員との共同研究は、研究代表者2名、研究分担者4名。

４．自己点検評価とファカルティ･デベロップメント(ＦＤ)

・自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第19号を作成・公表。
・学部教授会終了後に、研究・教育面での学部ＦＤ研修会を8回開催。

５．2017年度入学生と2018年度入学試験

・4月に第20期生74名(県内出身35名、男子13名、社会人2名、私費外国人留学生1名)が入学。
・推薦入試では、県内枠への志願者が37名(+10)で志願倍率1.9倍、全国枠は29名(-1)で2.9倍。県内出願者は昨年度より増加。
・一般入試の志願者数は、前期日程・後期日程ともに増加し、一昨年と同数程度となった。前期日程が128名(+34)で志願倍率3.7倍、合格倍率2.9倍，後期日程が105名(+37)で志願倍率21.0倍、合格倍率9.5倍。
・私費外国人入試に3名の応募があり、3名合格したが入学者なし。
・社会人入試に1名の応募があり、1名合格。

６．卒業生と就職状況

・3月に第17期生68名（男子11名）が卒業。

・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
・就職希望者67名の内66名(99%)の就職が3月末までに決定。
・就職先・進路の内訳は、福祉施設等37%、医療機関27%、社会福祉協議会6%、公務員等15%、一般企業13%、進学1%。

７．３福祉士資格と国家試験

・国試対策支援委員会が４回生に国家試験に関するオリエンテーションや個別面談、日本ソーシャルワーク教育学校連盟の模擬試験を実施。
・国試合宿勉強会を1月に2泊3日で実施。いの町の高知県立高知青少年の家を利用し、4回生47名が参加。
・１月末に実施された第30回介護福祉士国家試験に19名が受験して18名が合格(合格率94.7%／平均70.8%)。2月初めに実施された第30回社会福祉士国家試験に67名受験して51名合格(合格率76.1%／平均30.2%)、第20回精神保健福祉士国家試験に18名受験して18名合格(合格率100.0%／平均62.9%)。
・新卒の合格率は、社会福祉士(受験者50人以上の福祉系大学等)が54校中4位、精神保健福祉士は104校中1位。

８．学部20周年記念事業

・10月8日に学部創設20周年記念事業「社会福祉研究・実践報告会」(高知県立県民文化ホール）を開催し、卒業生約100名、在学生・教員約200名が参加した。

９．地域貢献活動・卒業生への支援

・「社会福祉学部リカレント教育講座」として4講座を10月から1月にかけて開催、延べ94名の福祉関係者等が参加。
・オープンキャンパスを7月30日(日)に開催し、社会福祉学部の参加者322名（うち高校生183名)。
・高知県との連携事業（補助金）として「高知県キャリア教育推進事業」を実施。7月29日と10月28日,3月28日に開催した「高校生と保護者のための公開講座」には合計202名参加。学部提案型出前講座を安芸高校、岡豊高校、高知南高校、山田高校、嶺北高校、中村高校、清水高校、高知東高校で実施。
・健康長寿センター体験型セミナーを看護学部・健康栄養学部と協働して実施。
・学部キャリア支援委員会を中心に卒業生に対する支援を実施。2015年度より実施している領域別リカレント研究会は、継続2分野を含めて5分野で実施。

10．広報活動

・学部広報に活用する社会福祉学部のパンフレット2017版を作成。
・学部の広報委員会に入試広報部会と介護人材確保事業部会を設置し、入試広報担当者を中心に高知県内の高校18校、県外の高校5校に訪問。学部の説明を行うとともに、各校の進路希望状況について情報収集。
・3福祉士国家資格への対応や全国枠の推薦入試などを高校にＰＲするため、県外出身の学生７名が夏休み期間中に出身高校を訪問。
・学部ホームページを大幅改定。

11．国際交流活動

・タイのウボンラーチャタニ大学でのフィールドワークに3回生2名が参加。
・ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学短期研修に1回生1名が参加。
・韓国短期研修（木浦大学）に1回生1名、(慶南科学技術大学）に1回生2名、2回生1名が参加（引率教員1名)。

2017年度社会福祉学部の主要行事

4月	4日(火)	入学式（県民文化ホール、20期生74名）
	5-6日(水-木)	学生ガイダンス
	10日(月)	前期授業開始（～8月7日）
	21日(金)	新入生バスハイク(県立香北青少年の家)
	26日(水)	卒業研究構想発表会
	24日(月)	第1回連絡会・教授会
	28日(金)	第2回連絡会・教授会
5月	1日(月)	介護福祉実習（介護実習Ⅰ）報告会
	17日(水)	第3回連絡会・教授会
	29日(月)	第4回連絡会・教授会／第1回ＦＤ研修会
6月	26日(月)	第5回連絡会・教授会／第2回ＦＤ研修会
7月	2日(日)	学年間交流会
	21日(金)	第6回連絡会・教授会
	24日(月)	第7回連絡会・教授会
	29日(土)	県大生と行く！職場見学ツアー
	30日(日)	オープンキャンパス
	31日(月)	介護福祉実習連絡協議会／介護福祉実習（介護実習Ⅲ）報告会
8月	28日(月)	第8回連絡会・教授会／第3回ＦＤ研修会
9月	25日(月)	第9回連絡会・教授会
10月	2日(月)	後期授業開始（～2月19日）
	8日(日)	社会福祉学部創設20周年記念事業(県民文化ホール及び高知会館)
	21日(土)	第1回リカレント教育講座
	23日(月)	第10回連絡会・教授会／第4回ＦＤ研修会
	25日(水)	卒業研究中間発表会
	28日(土)	高校生と保護者のための公開講座
	30日(月)	介護福祉実習（介護実習Ⅱ）報告会
11月	16日(木)	第11回連絡会・教授会
	18-19日(土-日)	推薦入学試験・社会人入学試験
	27日(月)	第12回連絡会・教授会／第13回連絡会・教授会
12月	2日(土)	第2回リカレント教育講座
	15日(金)	第14回連絡会・教授会
	16日(土)	第3回リカレント教育講座
	18日(月)	第5回ＦＤ研修会
	25日(月)	第15回連絡会・教授会／第6回ＦＤ研修会
1月	8-10日(月-水)	国家試験合宿勉強会（高知青少年の家：いの町）
	20日(土)	第4回リカレント教育講座
	22日(月)	第16回連絡会・教授会
	28日(日)	第30回介護福祉士国家試験
	29日(月)	第17回連絡会・教授会
2月	1日(木)	相談援助実習報告会
	3-4日(土-日)	第 30 回社会福祉士国家試験･第 20 回精神保健福祉士国家試験
	9日(金)	卒業研究発表会／4回生を送る会
	25-26日(日-月)	前期日程入学試験／私費外国人入学試験
	27日(月)	第18回連絡会・教授会／第7回ＦＤ研修会
3月	5日(月)	第19回連絡会・教授会
	6日(火)	相談援助実習連絡協議会
	7日(水)	精神保健福祉援助実習連絡協議会
	12日(月)	後期日程入学試験
	13日(火)	第20回連絡会・教授会
	15日(木)	第21回連絡会・教授会
	19日(月)	第22回連絡会・教授会
	20日(火)	卒業式(県民文化ホール、17期生68名卒業)
	26日(月)	第23回連絡会・教授会／人権研修会
	28日(水)	高校生と保護者のための公開講座

平成29年度　社会福祉学部　時間割　＜前期＞

		1時限			2時限			3時限			4時限			5時限		
		8:50～10:20	教員	教室	10:30～12:00	教員	教室	13:00～14:30	教員	教室	14:40～16:10	教員	教室	16:20～17:50	教員	教室
月	1	英語コミュニケーションIIC 地域学概論	（別途記載） 宇都宮	大講義室	英語コミュニケーションIC	（別途記載）		土佐の食と健康 （介護）こころとからだのしくみⅠ	廣内 横井	A306 D222				法学	田中康	
	2	英語コミュニケーションIIC	（別途記載）		英語コミュニケーションIC	（別途記載）		（介護）介護総合演習Ⅱ	上田・河内・田中眞・三好・片岡	F104						
	3				相談援助演習Ⅲ	中嶌・井上・加藤・鈴木裕・西内	E102・103・204 F110・207	相談援助演習Ⅲ	中嶌・井上・加藤・鈴木裕・西内	E102・103・204 F110・207						
	4							就労支援サービス	遠山・稲垣	大講義室						
火	1	現代社会論 環境衛生 社会理論と社会システム	中嶌 一色 玉里	D221 A318 大講義室	社会調査基礎論 （介護）介護の基本Ⅰ	大井 河内	A318・204 F104	現代社会と福祉Ⅰ	長澤	E103	コンピュータリテラシー(社福)	名和	D207	コンピュータリテラシー(社福) 基礎化学	名和 一色	D207 A318
	2	相談援助演習Ⅰ	西梅・鳩間・福間・遠山・西内	E102・103・204 F110・207	（介護）介護過程Ⅱ	三好・田中眞	F110	（介護）生活支援技術Ⅲ	田中・上田	F110	（介護）生活支援技術Ⅲ	田中・上田	F110	（介護）生活支援技術Ⅲ	田中・上田	F110
	3	精神保健学Ⅰ	横井	D222	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	丸山・鈴木孝・稲垣	E102・F207	（介護）発達と老化の理解Ⅱ	横井	D222	相談援助実習指導Ⅲ	西梅ほか	E103・204 D221・222	面接技法	杉原	大講義室
	4				権利擁護論	田中き	大講義室	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	丸山・鈴木孝・稲垣	E102・F207	精神保健福祉援助演習	丸山・鈴木孝・稲垣	E102・F207	更生保護制度（4月－6月）	加藤誠	E102
水	1	健康スポーツ科学Ⅰ（社福） 健康スポーツ科学Ⅰ（社福）	清原 常行	体育館 体育館	健康スポーツ科学Ⅰ（看護） 健康スポーツ科学Ⅰ（看護） 社会保障論Ⅰ	清原 常行 田中き	体育館 体育館 大講義室	基礎生物学 福祉対象入門 福祉援助入門（*1）	荻沼 福間 福間	A305 F110	日本国憲法 （介護）生活支援技術Ⅰ	岩倉 上田・片岡	大講義室 F110	日本語表現法(留学生) 現代科学文化論 （介護）生活支援技術Ⅰ	井上 一色 田中眞・片岡	A320 A318 F110
	2	保健医療サービス	井上・鈴木	E103	相談援助の理論と方法Ⅰ	加藤	E103	高齢者福祉論Ⅱ ※橋本先生分は集中講義で行う	三好・田中・上田・橋本	E102						
	3	虐待防止論 ※橋本先生分は集中講義	加藤・橋本	E102	相談援助の理論と方法Ⅳ	西梅	E102	精神保健福祉援助技術各論	稲垣	E103	社会福祉専門演習Ⅰ	担当教員				
	4	社会福祉史	中嶌	F110	スーパービジョン	井上	D222	精神保健福祉援助技術各論	稲垣	E103				社会福祉専門演習Ⅲ	担当教員	
木	1	英語コミュニケーションIIIC 基礎ジェンダー学	（別途記載） 野辺	大講義室	英語コミュニケーションIC	（別途記載）		社会保障と生活 家族関係論 基礎統計学	田中き 池添 風間	A318 大講義室 A319・204	政治学	清水	A318	社会福祉入門演習	中嶌・片岡・鳩間・西内	E102
	2	英語コミュニケーションIIIC （介護）介護の基本Ⅱ	（別途記載） 田中眞・三好・横井	F110	英語コミュニケーションIC	（別途記載）		児童・家庭福祉論	中嶌	E102	相談援助実習指導Ⅰ	西梅ほか	E102・103・204 D222			
	3	（介護）介護の基本Ⅲ	河内	F104	（介護）介護の基本Ⅲ 介護技術	河内 田中眞	F104 F110	（介護）障害の理解Ⅰ 精神保健福祉論Ⅱ	田中眞・横井 鈴木孝	F110 E103	（介護）生活支援技術Ⅴ 精神保健福祉援助技術各論	三好 稲垣	F110 大講義室			
	4				実践記録法	杉原	E204	ケアプラン策定法	鳩間	F207	精神保健福祉援助技術各論	稲垣	大講義室			
金	1	コンピュータリテラシー(看護) 健康スポーツ科学I(健栄) 健康栄養学	名和 清原 荒牧	D207 体育館 A318	コンピュータリテラシー(看護) 物理と自然法則	名和 風間	D207 A204・318	居住環境論 地域メディア論	宇野 竹下	A305 A321	（介護）介護の基本Ⅰ	河内	F104			
	2	医療福祉論	井上	大講義室	障害者福祉論	遠山	E102	地域福祉論Ⅰ	山村	E103	（介護）認知症の理解Ⅰ	宮上・片岡	F110			
	3	社会調査の基礎	鳩間・遠山	E102	医療ソーシャルワーク論	鈴木裕	E103	※精神医学Ⅰが入ることもある		E102	※精神医学Ⅰが入ることもある		E102	※精神医学Ⅱが入ることもある		E102
	4				医療的ケアⅡ	片岡・三好	D222	介護総合演習Ⅳ	上田・河内・田中眞・三好・片岡	F110						

		科目名等	教員	開講月日
集中講義	前期	地域学実習I	一色・他	通年
		地域学実習II	一色・他	通年
		現代生活論	菊池	開講時期未定
		介護実習Ⅰ	田中眞・河内・三好・上田・片岡	通年（掲示）
		介護実習Ⅱ	田中眞・河内・三好・上田・片岡	通年（通年）
		介護実習Ⅲ	田中眞・河内・三好・上田・片岡	通年（通年）
		相談援助実習	西梅ほか	掲示
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	丸山・鈴木孝・稲垣	通年（掲示）
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	丸山・鈴木孝・稲垣	通年（掲示）
		精神医学Ⅰ	山崎	掲示
		精神医学Ⅱ	山崎	掲示

[備考]
*1　受講登録は、前期集中ですること
（※1）社会福祉学部学生履修不可

健康栄養学部開講科目
　月曜日　2限　保健医療福祉論（田中きよむ）
　水曜日　2限　介護論（三好・河内）

未開講：子育て支援論、国際福祉論

平成29年度　社会福祉学部　時間割　＜後期＞

		1時限			2時限			3時限			4時限			5時限		
		8:50～10:20	教員	教室	10:30～12:00	教員	教室	13:00～14:30	教員	教室	14:40～16:10	教員	教室	16:20～17:50	教員	教室
月	1	英語コミュニケーションⅡD	（別途記載）		英語コミュニケーションⅡD	（別途記載）		土佐の歴史と文化	橋尾・他	A306	健康スポーツ科学Ⅱ健栄	清原	体育館			
								土佐の自然と暮らし	一色・荻沼・大村・宇野	A319						
	2	英語コミュニケーションⅡD	（別途記載）		英語コミュニケーションⅡD	（別途記載）		福祉研究法入門	丸山	E103						
	3				福祉行財政と福祉計画	田中き	大講義室	コミュニティソーシャルワーク	山村	E102						
	4				事例研究法	西内	E103									
火	1	相談援助の基盤と専門職 ※「人体の構造と機能及び疾病（奥谷）」と入替わり有り	西内・西梅・加藤	E103	現代社会と福祉Ⅱ	長澤	E103	地球の科学	一色・大村	A318	健康スポーツ科学Ⅱ看護	宮本・本間	体育館	健康スポーツ科学Ⅱ社福	宮本・本間	体育館
								現代人権論	田中康	A310	資源とエネルギー	大村	A318	自然災害と防災の科学	大村	A318
								地域とグローバリゼーション	細居	A319						
								心理学理論と心理的支援	杉原	大講義室	相談援助の基盤と専門職	西内・西梅・加藤	大講義室			
	2	（介護）介護過程Ⅲ	三好	F110	（介護）発達と老化の理解Ⅰ	杉原	E102	地域福祉論Ⅱ	山村	E102	相談援助演習Ⅱ	西梅・鳩間・福間・遠山・長澤	D221・222 E102・103・ E204	相談援助実習指導Ⅱ	西梅ほか	E102・103・ E204・D222 F110・207
	3	ケアマネジメント論	雑賀	E102	（介護）介護総合演習Ⅲ	河内・田中眞・上田・三好・片岡	E204	（介護）医療的ケアⅠ	片岡	F104	（介護）医療的ケアⅠ	片岡	F104			
					精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	丸山・鈴木孝・稲垣	F110・207				精神保健学Ⅱ	横井	A306			
	4				チームアプローチ	井上	D222	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	丸山・鈴木孝・稲垣	F110・207	精神保健福祉援助演習	丸山・鈴木孝・稲垣	F110・207			
水	1	対人関係論	内川	A318	社会保障論Ⅱ	田中き	大講義室	情報リテラシー	風間	A318	数学入門	風間	A318	栄養と疾患	隅田	A318
		高齢者福祉論Ⅰ	鳩間	E103				人体の構造と機能及び疾病	谷口	E103	科学と人間	一色	A321			
								※「相談援助の基盤と専門職（西内・西梅・加藤）」と入替わり有り			（介護）生活支援技術Ⅱ	上田・田中眞	F110	（介護）生活支援技術Ⅱ	上田・田中眞	F110
	2	相談援助の理論と方法Ⅲ	加藤	E102	相談援助の理論と方法Ⅱ	西梅	E102	精神保健福祉援助技術総論	丸山	E204						
								（介護）介護の基本Ⅱ	田中眞・三好・横井	F110						
	3	（介護）介護過程Ⅳ	三好・片岡	F110	（介護）介護過程Ⅳ	三好・片岡	F110	福祉サービスの組織と経営	福間	E102	社会福祉専門演習Ⅱ	担当教員	――			
		精神科リハビリテーション学	横井	F207	精神科リハビリテーション学	横井	F207									
	4													社会福祉専門演習Ⅳ	担当教員	――
木	1	英語コミュニケーションⅢD	（別途記載）		英語コミュニケーションⅢD	（別途記載）		倫理学	吉川	A306	哲学	吉川	A306	情報処理概論	名和	A306
		ジェンダーとキャリア	野辺	A306				文学	東原	A318	心の科学	塩坪	A318	社会福祉基礎演習	中嶌・片岡・鳩間・西内	E102
								（介護）こころとからだのしくみⅡ	横井	F110	（介護）介護総合演習Ⅰ	片岡・田中眞・河内・上田・三好	F104			
	2	英語コミュニケーションⅢD	（別途記載）		英語コミュニケーションⅢD	（別途記載）		福祉NPO論	田中き・山村	E102						
	3				（介護）障害の理解Ⅱ	河内	F110	ケアマネジメント演習	雑賀	E103	相談援助演習Ⅳ	西梅ほか	E102・103・ E204・D222 F110・207	女性福祉論	長澤	E103
	4															
金	1	（介護）コミュニケーション技術	河内	E103	（介護）コミュニケーション技術	河内	E103	住まいと健康と安全	宇野	A318	（介護）介護過程Ⅰ	宮上	F110			
	2	（介護）生活支援技術Ⅳ	田中眞・川口・荒牧	F110	（介護）生活支援技術Ⅳ	田中眞・川口・荒牧	F110	（介護）認知症の理解Ⅱ	宮上・上田	F110	公的扶助論	田中き	大講義室			
		精神保健福祉論Ⅰ	鈴木孝	E102	精神保健福祉論Ⅰ	鈴木孝	E102									
	3							※精神医学Ⅰが入ることもある		E102	※精神医学Ⅰが入ることもある		E102	※精神医学Ⅱが入ることもある		E102
	4															

集中講義	後期	科目名等	教員	開講月日
		芸術論Ⅱ	植田	未定
		異文化理解海外フィールドワーク	未定	未定
		地域学実習Ⅰ	一色・他	通年
		地域学実習Ⅱ	一色・他	通年
		専門職連携論	西内・他	12月開講予定
		チーム形成論	山中・他	2月開講予定
		介護実習Ⅰ	田中眞・三好・河内・上田・片岡	通年（掲示）
		介護実習Ⅱ	田中眞・三好・河内・上田・片岡	通年（掲示）
		介護実習Ⅲ	田中眞・三好・河内・上田・片岡	通年（掲示）
		精神医学Ⅰ	山崎	掲示
		精神医学Ⅱ	山崎	掲示
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	丸山・鈴木孝・稲垣	通年（掲示）
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	丸山・鈴木孝・稲垣	通年（掲示）
		地域福祉活動	山村	掲示

[備考]
(※)社会福祉学部学生履修不可

永国寺開講　火曜日　1限　社会保障と生活（田中き）
　　木曜日　1限　現代社会論（中嶌）

看護学部開講科目
　　金曜日　2限　社会保障と看護（田中き）

Ⅱ

社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)他

2017年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職　位	氏　　名	学　　位	専　門　分　野
教　授	杉 原　　俊 二	博　士（医　　学）	児童・家族福祉論／心理療法
教　授	田 中　きよむ	修　士（経　済　学）	福　祉　行　財　政　論
教　授	長 澤　紀 美 子	博　士（学　　術）	福祉政策論／国際比較研究
教　授	丸 山　　裕 子	博　士（社会福祉学）	ソーシャルワーク論
教　授	宮 上　多 加 子	博　士（社会福祉学）	介　護　福　祉　論
教　授	横 井　　輝 夫	博　士（保　健　学）	リハビリテーション科学
准教授	鈴 木　　孝 典	博　士（人　間　学）	精 神 保 健 福 祉 論
准教授	中　嶌　　洋	博　士（医療福祉学）	児 童 ・ 家 庭 福 祉 論
准教授	西　内　　章	博　士（臨床福祉学）	社会福祉援助技術論
准教授	西 梅　　幸 治	博　士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
准教授	三 好　　弥 生	博　士（社会福祉学）	介　護　福　祉　論
准教授	山 村　　靖 彦	博　士（社会福祉学）	地　域　福　祉　論
講　師	井 上　　健 朗	修　士（福祉社会学）	医　療　福　祉　論
講　師	河 内　　康 文	博　士（社会福祉学）	介　護　福　祉　論
講　師	遠 山　　真 世	博　士（社会福祉学）	障 害 者 福 祉 論
講　師	鳩 間　亜 紀 子	博　士（社会福祉学）	高 齢 者 福 祉 論
講　師	福 間　　隆 康	博　士（マネジメント）	社 会 福 祉 運 営 論

教育研究活動報告書（教員一覧）

助　教	稲　垣　　佳　代	修　士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助　教	上　田　恵　理　子	修　士（社会福祉学）	介　護　福　祉　論
助　教	片　岡　　妙　子	修　士（看　護　学）	介　護　福　祉　論
助　教	加　藤　　由　衣	博　士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
助　教	鈴　木　　裕　介	博　士（社会福祉学）	医　療　福　祉　論
助　教	雑　賀　　正　彦	修　士（社会福祉学）	地　域　福　祉　論
助　教	田　中　　眞　希	修　士（社会福祉学）	介　護　福　祉　論
助　教	玉　利　　麻　紀	修　士（人　間　科　学）	精神保健福祉援助技術論

杉 原　俊 二

Shunji SUGIHARA

○ 研 究 活 動

（原著）※査読有り（1 件）

杉原俊二「大学教育で使用するＫＪ法―インタビュー調査における元ラベル作成を中心として―」『ＫＪ法学会会報　積乱雲』107.（2018 年 2 月受付）

（研究ノート、事例報告など）（12 件）

（１）研究ノート

１．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（Ⅷ）－Ｓさんの修士修了３年目－」『人間科学』68，2-7.（2017 年 5 月）

２．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（Ⅸ）－Ｓさんの修士修了４年目－」『人間科学』68，8-13.（2017 年 5 月）

３．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（Ｘ）－Ｓさんの修士修了５年目－」『人間科学』69，2-7.（2017 年 7 月）

４．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（ＸⅠ）－Ｓさんのその後－」『人間科学』69，8-13.（2017 年 7 月）

５．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（ＸⅡ）－ＴさんのＢ短大講師時代（前篇）－」『人間科学』70，2-7.（2017 年 9 月）

６．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（ＸⅢ）－ＴさんのＢ短大講師時代（中篇）－」『人間科学』70，8-13.（2017 年 9 月）

７．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（ＸⅣ）－ＴさんのＢ短大講師時代（後篇）－」『人間科学』71，2-7.（2017 年 11 月）

８．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（ＸＶ）－ＴさんのＢ短大助教授－」『人間科学』71．8-13.（2017 年 11 月）

９．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（ＸⅥ）－ＴさんのＣ短大助教授－」『人間科学』72．2-7.（2018 年 1 月）

10．杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（ＸⅦ）－Ｔさんの年表を通しての語り（補足説明とＸ＋35 年から現在まで）－」『人間科学』72．8-15.（2018 年 1 月）

11．杉原俊二「友人のことを通して語られた自分史（Ⅲ）－Ａ牧師の中学時代から大学入試まで－」『人間科学』73．2-7.（2018 年 3 月）

12．杉原俊二「友人のことを通して語られた自分史（Ⅳ）－Ａ牧師の大学時代（前篇）－」『人間科学』73．8-13.（2018 年 3 月）（原著）※査読有り（1 件）

（２）学会発表等（3 件）

１．杉原俊二「『虐待リスク』を抱える保護者支援法（7）－追跡調査による検討－」日本家族研究・家族療法学会第 34 回つくば大会（つくば国際会議場）2017 年 8 月 18 日

２．杉原俊二「４テーマ分析法を用いた虐待予防（１）－研究計画と実施の準備－」第 40 回ＫＪ法学会（川喜田研究所）2017 年 10 月 14 日
３．杉原俊二「大学院教育の中でのＫＪ法―試案―」第 40 回ＫＪ法学会掲示発表（川喜田研究所）2017 年 10 月 14 日

○ 教 育 活 動
（１）学部：「心理学理論と心理的支援」（１年後期、看護学科とも）、「発達と老化の理解Ⅰ」（２年後期）、「面接技法」（３年前期）、「実践記録法」（４年前期）、「社会福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（３年生２名）、「社会福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（４年生５名）
（２）大学院　人間生活学研究科（博士前期課程）：「児童福祉論」「課題研究演習」（主指導１名）「データ解析論（７コマ分）」、（博士後期課程）「障害者福祉学（15 コマ分）」
（３）大学院「社会福祉学特別研究Ⅱ・Ⅲ」（主指導２名、副指導１名※）他に前年度学位取得の河内さん

○ 委 員 会 活 動
（１）全学
「人間生活学研究科長」（部局長会議、教育研究審議会、大学院入学試験実施委員会、自己点検・評価運営委員会、非常勤講師資格審査委員会、人事委員会、入学試験委員会、発明委員会、研究倫理委員会、大学院研究助成金審査委員会、奨学金返済免除学内選考委員会、高大接続連携委員会、学術研究戦略委員会、国内・国外研修審査委員会）
「全学紀要委員長」「動物実験委員」
（２）学部
「紀要委員長」「人事関係検討会委員」「自己点検委員」

○ 社 会 的 活 動
（１）社会活動
高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー、高知県教育委員会高知県いじめ問題調査委員、高知県社会福祉協議会理事選考委員
（２）学会など
日本人間科学研究会中国四国地域担当理事、ＫＪ法学会運営委員・編集委員、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック運営委員（監事）、所属学会などの学会誌編集協力（査読者）
（３）講演など
１．香美市教育委員会スクールソーシャルワーカー研修（単独事業）（7 月 18 日、11 月 6 日各 3 時間）。高知県立大学
２．平成 29 年度地域型保育事業人材育成研修会（認定研修）「子ども家庭福祉（社会福祉関連）」「子ども家庭福祉（児童福祉関連）」（9 月 23 日：各２時間）、「子どもの安全と環境（社会的養護）」（10 月 1 日：4 時間）。本学
３．シーズ研究内容紹介（9 月 6 日 1 時間半）。ココプラ

○ 総 合 評 価 と 課 題

人間生活学研究科長の 4 年目であったが、入院を 3 度してしまい、学生たちに多くの迷惑をかけてしまった。学部や大学院の多くの先生や職員の方に助けられて、何とか任期を終えることができた。

教育に関しては赴任９年目になり、第十七期生を卒業させることができた。授業では、「心理学理論と心理的支援」「実践記録法」の２つの新科目と、開講時期の変更になった「面接技法」を担当することになったが、その準備でいろいろと勉強になった。講義科目については１回ごとのレジュメの配布や、受講生同士（２～４名）討論を入れるなど、一昨年度から導入した方法を継続すると同時に、例年通り学生の意見聴取に務めた。ゼミでは、例年通り全体ゼミ（３、４年）に３年ゼミ（講読）と４年個別指導を組み合わせておこなった。会議の時間と回数が多いため、そのしわ寄せがゼミ学生に及んだことは否めず、卒論や就職指導の時間はなんとか確保できたが、十分とは言えない。

研究に関しては、本年度から科学研究費補助金基盤研究（C）「４テーマ分析法を用いた虐待予防－「虐待リスク」を抱える保護者支援法（２）－」が採択された。ただ、入院や通院をしたため、十分な時間を取ることができず、1 年目の研究が不十分になってしまった。

委員会等については、研究科長の業務として全学委員会への参加が増えた。その分、学部での負担は減らしてもらっていたが、それでも週単位で見れば学期期間中も授業の時間よりも会議の時間が多いということも時々あった。学部の紀要委員としては、これまでの最大である 15 編の論文を掲載することができた。特に、大学院生と修了生が 2 編あり、今後もこのように社会福祉学領域の大学院生・修了生の論文が掲載されることを望む。また、査読委員として学部の先生方にはご活躍いただいた。

大学院の教育として、博士後期課程 2 人の学生を指導していた。ゼミが 75 回、授業も 90 分授業を博士後期課程で 15 回分、博士前期課程で 27 回分おこなった。特に後期は、土・日曜日がつぶれることも多く、科研費の調査もおこなうとほとんど休みがとれなかった。その中で、博士後期課程の学生を送り出し、私立大学へ就職してくれたことは良かったと思う。

社会的な活動については、地域貢献として高知県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）をおこなった。また、いじめ問題調査委員も深刻な事態（１件）のため、多くの会議に出席した。さらに難病連から「ピアサポーター」の講義も担当した。学会では、これまでの活動に加えて日本社会福祉学会中国四国部会の委員（監査）となった。大学内での仕事は多いが、それでも、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。

学会等の活動では、ここ数年、所属学会だけでなく、他の学会（研究会）からも研究論文の査読や講演依頼が来るようになった。研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。特に、今年度も他大学の博士論文審査に加わることができた。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

○ 研 究 活 動

（１）著書

・田中きよむ編著『小さな拠点を軸とする共生型地域づくり―地方消滅論を超えて―』（晃洋書房、2018 年）〔はじめに、序章、第 1 章 2、第 2 章、第 4 章、第 6 章、おわりに〕

（２）論説

・田中きよむ「住民主体の共生型地域づくり」北隆館『地域ケアリング』Vol.19 No.10、2017 年 9 月（74～77 頁）

・田中きよむ「共育・共感・共生と住民主体の支事・至事・地域づくり」全国コミュニティライフサポートセンター『月刊 地域支え合い情報』Vol.63、2017 年 11 月(8 頁)

・田中きよむ「自治体で取り組む子ども医療費無料化は過剰受診を招くか？」自治体問題研究所『住民と自治』2017年11月号（36～37頁）

・田中きよむ「『地方創生』と地域の課題― 住民の支えあいと住民主体のまち・むらづくり ― 」基礎経済科学研究所『経済科学通信』第 144 号、2017 年 12 月（34～39 頁）

（３）研究報告

・田中きよむ「高知県における介護保険サービスの利用動向と意識」高知県自治研究センター『「高知の介護保険地域ケアシステムの実態調査研究」報告書』、42～96 頁 2017 年 12 月

・田中きよむ「ホームレス、ひきこもり等の生活困窮者支援の先進的取り組み―大阪におけるNPO・企業・市民活動団体の場合―」『ふまにすむす』2018年3月、47～71頁

・田中きよむ「地域拠点を軸とする域学共生の可能性―佐川町加茂地区を事例として―」『地域連携事業報告集』第 4 号、2018 年 3 月（1～11 頁）

（４）学会報告

・田中きよむ「自治型総合的地域づくりの要因と課題　―愛媛県内子町と高知県梼原町の事例から―」第63回四国財政学会（香川大学経済学部交友会館）2017年5月

・田中きよむ「ホームレス、ひきこもり等の生活困窮者支援の先進的取り組み―大阪におけるNPO・企業・市民活動団体の場合―」2017年度社会政策学会中四国部会（高知県立大学永国寺キャンパス）2018年3月

（５）研究助成（研究代表者 田中きよむ）

・「『小さな拠点』を軸とする共生型地域づくり―その形成要因の分析と持続モデルの構築―」（文部科学省科学研究費基盤研究（Ｃ）一般：平成27～30年度）

○ 教 育 活 動

（１）学部

（専門教育）

１.社会保障論Ⅰ・Ⅱ　２.福祉行財政と福祉計画　３.公的扶助論

４．権利擁護論　５．福祉ＮＰＯ論　６.社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ

７．福祉研究演習ⅢD　８．社会保障と看護

（共通教育）
１.社会保障と生活　２．地域学概論
（２）大学院
（修士課程）
１.福祉行財政論　２.社会保障論　３．社会福祉課題研究演習

〇委員会活動

・（学部）教務委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員長、人事委員会委員、
・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、入試監査委員会委員長（大学院入試）、
　　地域教育研究センター地域課題研究部会部会長
・（大学院）学位審査委員会委員

〇社会的活動

（委員等）
・社会政策学会秋期企画委員会委員
・高知県運営適正化委員会委員
・高知県老人クラブ連合会理事
・高知県地域年金事業運営調整会議委員長
・高知県青年農業士認定委員会委員長
・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
・高知県介護ケア研究会会長
・全国障害者問題研究会高知支部長
・高知県社会保障推進協議会会長
・高知県保育運動連絡会会長
・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
・高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長
・高知市国民健康保険運営協議会委員
・高知市福祉有償運送運営協議会委員
・高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー・策定委員
・高知市生活困窮者支援運営委員会委員、セーフティネット連絡会委員
・高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
・公益財団法人ひかり協会救済対策委員
・学校法人太平洋学園高校「多様な学習検討委員会」委員
・社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「ファミーユ高知」各第三者委員
・NPO 法人「福祉住環境ネットワークこうち」「未来予想図」「あさひ会」「あまやどり高知」「ムッターシューレ」および社会福祉法人「さんかく広場」の各理事

（講演等）
・ひきこもりの子どもをもつ親の会主催研修講師「障害者の所得保障―障害年金と生活保障―」（2017 年 5 月）
・日韓社会政策学会（明星大学）座長（2017 年 6 月）
・自治体問題研究所主催講演講師「子どもの貧困の現状と今日的な諸課題（2017 年 6 月）
・佐川町地域福祉地域福祉計画アドバイザー（2017 年 6 月・7 月・9 月・10 月・12 月・2018 年 1 月・2 月・3 月）
・四万十町老人クラブと田中ゼミの地域福祉学内交流会（2017 年 6 月）
・北川村地域福祉計画アドバイザー（2017 年 6 月・8 月・9 月・12 月）

・高知県立小津高校出前講座（2017 年 6 月）
・土佐清水市地域福祉計画アドバイザー（2017 年 6 月・7 月）
・社会福祉学部 11 期生リカレント研究会（2017 年 6 月・7 月・8 月・9 月・11 月・2018 年 1 月・2 月）
・社会福祉法人南海学園法人研修講師「社会福祉法人制度改革と地域福祉」（2017 年 6 月）
・こうちネットホップ主催シンポジウム・コーディネーター「国民健康保険から見る貧困問題」（2017 年 7 月）
・高知市民生委員児童委員協議会主催研修講師「新介護保険法の仕組みと民生委員活動」（2017 年 7 月）
・高知県公立学校事務職員研修講師「子ども・青年の貧困と教育費問題」（2017 年 7 月）
・高知県母親大会分科会助言者「障がいのある子どもや人々のくらし」（2017 年 7 月）
・本山町地域福祉計画アドバイザー（2017 年 8 月・9 月・11 月）
・高知市秦地区社会福祉協議会シンポジウム・コーディネーター「2025 年問題と地域福祉」（2017 年 8 月）
・社会福祉法人高知福祉会法人研修講師「社会福祉法人の公益的な取り組みと地域共生」（2017 年 9 月）
・土佐市オレンジカフェ主催講演「住民主体の地域づくり」（2017 年 9 月）
・四万十町地域福祉計画アドバイザー（2017 年 9 月）
・「高知県立大学と県民の平和を求める有志の会」主催シンポジウム「平和・民主主義と大学の使命」野田正彰氏・松崎淳子氏との鼎談・コーディネーター（2017 年 9 月）
・第 34 回本山町・高知県立大学・高知短期大学公開講座講師「高齢者が支え、若者が共感・共生する地域づくり―少子・高齢化を逆手にとって―（2017 年 10 月）
・高知県立大学社会福祉学部 20 周年シンポジウム・コーディネーター（2017 年 10 月）
・四万十町老人大学講師「住民主体の地域づくりと域学共生 ― 少子高齢化を逆手に取って ― 最初の一歩から」（2017 年 10 月）
・高知県立山田高校出前講座講師「住民主体の地域づくりと域学共生― 少子高齢化を逆手に取って ―」（2017 年 10 月）
・「もやい」貧困セミナー、こうちネットホップ活動報告（2017 年 10 月）
・本山町社会福祉大会講演講師「つながりを大切にする住民主体のまちづくり」（2017 年 10 月）
・第 135 回社会政策学会「医療」分科会座長（2017 年 10 月）
・生活困窮者自立支援全国研究大会分科会コーディネーター（2017 年 11 月）
・仁淀川町地域福祉計画アドバイザー（2017 年 11 月・12 月・2018 年 1 月・2 月）
・高知市秦地区社会福祉協議会地域福祉計画ワークショップ・コーディネーター（2017 年 11 月）
・高知県社会福祉大会シンポジウム「多様な福祉課題に向きあう地域共生社会をめざして―生きづらさを感じる人を見逃さない―」コーディネーター（2017 年 11 月）
・高知県須崎福祉保健所主催あったかふれあいセンター研修講師（2017 年 12 月）
・高次脳機能障害リハビリテーション講習会（高知市・四万十市）Q&A コーディネーター（2018 年 1 月）
・高知県立大学地域教育研究センター主催地域活性化フォーラム「支えあい・地域活動拠点と住民主体の地域づくり」コーディネーター（2018 年 2 月）
・香川ひきこもりの親の会主催講演講師「ひきこもり者・障害者の命と暮らしを支える―生活保護、障害年金、就労支援、そして地域づくり―」及び個別相談（2018 年 2 月）

・高知県須崎福祉保健所主催地域福祉計画研修講師（2018 年 2 月）
・仁淀川町民生委員児童委員協議会研修講師「住民主体の地域づくり―個別支援・地域拠点・地域福祉計画―」（2018 年 2 月）
・協同総合研究所主催「全国よい仕事研究交流集会 2018」分科会コメンテーター（2018 年 3 月）
・憲法 25 条の会主催講演講師「高齢期の社会保障と私たちのくらし―年金・医療・介護―」（2018 年 3 月）

○総合評価と課題

・　研究面では、2017 年度は、高知県内の集落活動センターやあったかふれあいセンターなどの「小さな拠点」を軸とする県内中山間地域や東日本被災地域の共生型福祉システム・地域づくりの形成要因と課題・方向に焦点を合わせた共同研究をとりまとめた。2018 年度は、その追加研究を深める地域福祉の側面と並んで、社会保障制度改革の構造と本質に関する近年の動向分析を進める予定である。

・　教育面では、講義に関しては、社会保障論や公的扶助論、福祉行財政と福祉計画、権利擁護論など、国家資格試験関連授業ということもあるせいか、学生の受講態度はまじめである。ただ、それらの科目に関する知識や理解力は、学期末試験の成績評価による限り十分とは言えないという昨年度の反省に立ち、わかりやすい授業内容を意識した丁寧な話し方を心がけた。福祉 NPO 論も 2016 年度から、２人で担当することになったが、後半の自分の担当部分は実践編のオムニバス講義とグループワークであるが、関心・反応は良かったと受け止めている。

　2018 年度は、福祉 NPO 論が一人で担当することになり、地域福祉論の担当も加わるので、地域福祉面での教育の充実に積極的に取り組みたい。共通教育科目や他学部専門科目に関しても、受講ニーズや関心を確かめながら、関心をもってもらえる授業改善に向け、一層努力する必要がある。

　専門演習に関しては、ゼミ生は主として地域福祉研究に関心をもっており、実態調査に基づき理論化してゆく調査研究能力と地域の現実問題に応えられる課題解決能力が身につけられるように配慮した指導を心がけている。文献研究の基本を身につけつつも、様々な地域福祉領域の中で自分の問題関心を焦点化させて深め、卒論作成ができるような指導を心がけてきた。2018 年度のゼミ４回生は共同研究も 2 組希望していることから、単独研究への個別指導と合わせて、学生相互間で協力できるよう面にも配慮していきたい。ゼミ３回生に対しても、知的関心が深まっていくよう具体的な地域や現場と切り結びつけた調査研究のおもしろさを感じ取れるような配慮を心がけたい。

・　社会的活動は、今年度も地域福祉・地域づくりや社会保障・社会福祉に関連して、自治体、社会福祉協議会、住民組織、非営利組織等との協力関係を持たせていただいた。それに合わせて、学生にも、地域との接点を持ち住民の現実の生活課題を学びつつも、地域の固有価値を実感してもらえるような関係づくりを意識的に進めた。今後、地域と大学の「域学共生」を進める教育体系の進展、学生による主体的な「立志社中」等の地域活動、自治体と大学の包括協定も視野に入れながら、学生と共に積極的な地域アプローチを進め、持続的な地域福祉・地域づくりの形成に研究・教育・実践面から寄与していきたい。

長 澤　紀 美 子

Kimiko NAGASAWA

○研　究　活　動

（１）論文（１件）

・　長澤 紀美子「イギリスにおけるケアの市場化の展開－準市場における構造に着目して－」『高知県立大学社会福祉学部紀要』第 66 巻, p1-11. 2017. 3

（２）学会発表（３件）

・　長澤 紀美子 「イギリスと日本における 介護サービスの疑似市場の検討 -New Public Management 論をもとに-」 韓国社会政策学会 （翰林大学、韓国江原春川市）2016. 5. 27

・　長澤 紀美子「イギリスにおける 社会的ケアの市場化 －準市場の構造に焦点を当てて－」 社会政策学会第 133 回大会 テーマ別分科会③「ケアの市場化と公共圏の再編」（同志社大学、京都）2016. 10. 16

・　Kimiko Nagasawa,The Development of the Marketization of Elderly Care in England and Japan; the Structure and the Impacts of the Quasi-Market Mechanism, The 4th International Conference on Social Policy and Governance Innovation, 香港 The Education University of Hong Kong (11/24) Lingnan University (11/25) 2016.11.25

（３）競争的資金等の獲得状況（２件）

・　科学研究費補助金 基盤（C）（課題番号：26502010）「ケイパビリティ概念に基づく認知症高齢者ケアのアウトカム評価尺度の開発」（平成 26 年度～平成 28 年度）（研究代表者）

・　科学研究費補助金 基盤（B）（課題番号：15H03427）「福祉・介護サービスの市場化とガバナンスの変容に関する国際比較研究」 （平成 27 年度～平成 30 年度）（研究代表者：お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科　平岡公一教授）分担研究者

○教　育　活　動

（１）学 部

「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「国際福祉論」「女性福祉論」

「相談援助実習指導」「相談援助実習」「相談援助演習」「相談援助演習Ⅱ」

卒業研究指導：「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」（受講者６名）

「福祉研究演習Ⅲ」受講者３名

○サークル顧問：いけとべ！、中国語サークル

（２）大学院人間生活学研究科（博士前期課程）

・「研究方法論Ⅱ」（オムニバス）／「国際福祉論」「課題研究演習」

・研究指導：正指導教員として M２生１名、副指導教員として２名（M１生１名、M2 生１名）を担当した。

（３）大学院人間生活学研究科（博士後期課程）

・研究指導：副指導教員として２名（D3 生２名）を担当した。

○委 員 会 活 動

【全　学】（社会福祉学部選出）国際交流センター運営委員 FD 委員
全学防災プロジェクト委員
高知県立大学創基 70 周年記念事業委員、(同) 創基 70 周年記念誌専門委員会委員
【学　部】社会福祉研究倫理審査委員，防災ＷＧ学部委員、入試広報委員
【大学院】（人間生活学研究科博士後期課程）入試実施委員

○社 会 的 活 動

（１）委 員 等
高知市行政改革推進委員／高知市介護保険施設等整備事業者審査委員
高知県社会福祉協議会地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員
第３次高知県ＤＶ被害者支援計画策定委員会
佐川町公文書開示審査会

（２）学会
社会政策学会春季企画委員(保健医療福祉部会選出)

（３）講演等（以下，2017 年）
2/4 チャイルドライン（子ども向け電話相談者研修会)「性の多様性について」
2/9 高知市教育委員会「多様な性のあり方を知る」(中高生対象) 高知市一宮児童館
3/4 「ソーシャル・アライ・コナツハット　キックオフイベント)「多様な性のありよう(SOGI)-」

○総合評価と今後の課題

１．教育活動について

・学部の授業では、毎回リアクション・ペーパーを配布し、次週に学生のコメントを整理して提示し、フィードバックを行っている。一部の授業には、SPOD 研修で学んだ「ジグソー学習法」を導入し、学生の理解度や満足度の向上がみられた。学生の自主的な取り組みを促進する授業に向けて、より工夫を重ねたい。／大学院修士課程の「研究方法論Ⅱ」において、図書館データベースを活用した英文論文の検索・読解を指導した。

２．研究活動について

・科研費の分担研究のグループで学会分科会を開催し、報告した。また成果を国際学会にて英文で報告した。

３．学内業務について

・全学国際交流センター運営委員としてタイのウボンラーチャターニー大学と本学との協定(MOU)締結を行った。また副学長、看護学部長、国際交流センター長らと共に韓国国立木浦大学を訪問、社会福祉学部について報告した（英文)。
・学部懇談会の場を活用し、研究・教育面の学部 FD 研修会を年 4 回実施した。

４．社会貢献について

・LGBT 支援団体「ソーシャルアライ・コナツハット（通称サワチ)」を本学及び高知大学の学生、保健医療福祉専門職、当事者らと共に立ち上げ、3 月に永国寺キャンパスにて設立記念イベントを開催した。その際には高知県知事より挨拶（代読）を頂き，県を含め様々な関連団体より後援・参加を頂いた。以降、ソーレ、県男女共同参画課、県少子対策課等と連携しつつ啓発・支援活動を行っている。

平成 30 年 6 月 27 日

関係各位

お詫びと訂正

『高知県立大学社会福祉学部報第 20 号』につきまして、下記の訂正がございます。お手数をおかけしますが、差し替えて訂正していただきますようお願い致します。関係者の皆様にご迷惑おかけいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。

記

１．誤りがあった箇所：15～16 ページ
２．訂正：以下, 3ページ

以上

高知県立大学 社会福祉学部
編集：社会福祉学部総務委員会
電話：088-847-8757(学部専用)

長 澤　紀 美 子

Kimiko NAGASAWA

○研　究　活　動

（１）論文（１件）

・　長澤 紀美子(2017)「イギリスにおける社会的ケアの市場化－準市場の類型による分析－」（小特集３「ケアの市場化と公共圏の再編」）『社会政策』9(2)（通巻第27 号），p.87-100.

（２）競争的資金等の獲得状況（２件）

・　科学研究費補助金 基盤（Ｃ）（課題番号：26502010）「ケイパビリティ概念に基づく認知症高齢者ケアのアウトカム評価尺度の開発」（平成 26 年度～平成 28 年度）（研究代表者）

・　科学研究費補助金 基盤（Ｂ）（課題番号：15H03427）「福祉・介護サービスの市場化とガバナンスの変容に関する国際比較研究」 （平成 27 年度～平成 30 年度）（研究代表者：お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科　平岡公一教授）分担研究者

（３）その他（１件）

・平成 29 年度こうち男女共同参画センター「ソーレえいど事業」受託
「教育関係者のための SOGI アカデミー－性の多様性を尊重する教育現場の人材育成－」

○教　育　活　動

（１）学 部

「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「女性福祉論」

「相談援助実習指導」「相談援助実習」「相談援助演習」「相談援助演習Ⅱ」

卒業研究指導：「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」（受講者５名）

「福祉研究演習Ⅲ」受講者５名

研究指導：研究生（中国国籍留学生）　１名

○サークル顧問：いけとべ！、中国語サークル

（２）大学院人間生活学研究科（博士前期課程）

・「研究方法論Ⅱ」（オムニバス）／「国際福祉演習」

・研究指導：副指導教員として１名（M２生１名）を担当した。

（３）大学院人間生活学研究科（博士後期課程）

・「国際福祉政策論」

○委 員 会 活 動

【全　学】　FD 委員会（全学委員長）

国際交流センター運営委員、全学防災プロジェクト委員

【学　部】　実習委員長

教育研究活動報告書（長澤 紀美子）

防災ＷＧ委員、入試広報委員、人事関係検討委員、自己点検評価委員
【大学院】入試実施委員（人間生活学研究科博士後期課程）

○社会的活動
（１）委 員 等
高知市行政改革推進委員／高知市介護保険施設等整備事業者審査委員
高知県社会福祉協議会地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員
（２）講演等【会場】
4/17　高知市障害者相談センター南部、地域活動支援センターてく・とこ・瀬戸、地域活動支援センター広場そよかぜによる合同研修【高知市南部健康福祉センター】講師
6/10　平成 29 年度ソーレスキルアップ研修　第２回「LGBT・性的少数者の理解と支援―多様な性のあり方を尊重する―」【ソーレ】・講師
6/16　高知県学校保健会幡多支部養護教諭部会【四万十市防災センター】・講師
8/31　室戸市職員人権問題啓発推進講座第１回【室戸市役所】・講師
9/5　高知県教育委員会事務局高等学校課・特別支援教育課合同職員人権問題研修会職場研修【高知県職員能力開発センター】・講師
9/23「第１回教育関係者のための SOGI（性的指向と性自認）アカデミー」【高知県立大学永国寺キャンパス】シンポジウム・モデレーター
10/27　平成 29 年度ソーレ出前講座事業・高知県立図書館人権研修「LGBT について」・【県立図書館】・講師
11/2　高知県男女共同参画職員研修「多様な性を認め合う「高知家」～私が私でいられるまち～」【高知城ホール】・講師
12/7　高知市教育委員会一宮児童館研修「多様な性を認め合う学校づくり」【一宮児童館】・講師
12/8　高知県隣協人権課題別研修Ⅱ【高知市立朝倉総合市民会館】・講師
2/24　「第２回教育関係者のための SOGI アカデミー」【ソーレ】・モデレーター

○総合評価と今後の課題

１．教育活動について

・学部の授業では、学生一人ひとりが意見を書くリアクションペーパー（教員との往復用）を配布し、次週にコメントを返すと共に、学生の意見を整理して授業で紹介し、フィードバックを行っている。一部の授業に「ジグソー学習法」を導入したことがリアクションペーパーでは評価が高かった。引き続き学生の主体的な参加を促す工夫を各回の授業において取り組みたい。

・学部の授業（女性福祉論：３回生対象）でインドネシア・アンダラス大学短期留学生２名を招き、英語でのプレゼンテーションを聞いて質問する等交流の機会を設けた。英語での授業については、昨年度の国際福祉論で部分的にハンドアウトの一部に英語を記載したが、学生の理解の程度やニーズを踏まえて試行錯誤を続けている。

教育研究活動報告書（長澤 紀美子）

・卒業研究では、４回生５名全員がジェンダーに関係する研究テーマ（セクシュアル・マイノリティ、女性アルコール依存症者、避難所での母子家庭、ダブルケアラー、配偶者に死別された男性）を選び、学生がジェンダー規範に基づく生きづらさについてゼミでの議論を通して深めることができたのではないかと思われる。

・例年通り、大学院修士課程の「研究方法論Ⅱ」において、図書館データベースを活用した英文論文の検索を扱い、要約の課題を課したが、院生自身の修士論文に英文論文を引用・参照するまでには具体的な支援が必要である。

２．研究活動について

・昨年度、科研費の分担研究のグループで行った、社会政策学会での報告を加筆修正して、学会誌に投稿した。またイギリスの自治体を訪問し、ケアに関する新制度についての施行状況や課題等についてヒアリングを行った。

・科研費の研究代表の研究については、高齢者施設の支援者に対してケアの質の尺度の適用に関するヒアリング調査を行った。

以上の調査結果を研究報告として取りまとめていくことが課題である。

３．学内業務について

・国際交流センター運営委員として、韓国の協定校・慶南科技大学校への初の短期派遣研修について、事前訪問や連絡調整を通して先方の社会福祉学科との相互交流を含めた研修内容を計画し、４名の参加学生（社会福祉学部生３名と大学院人間生活学研究科院生１名）と共に引率教員として研修を実施した。その際に先方の学長、副学長、国際交流センター長、社会福祉学科教員や学生と交流を深めた。

・人権委員長として、事務方と協力して人権研修を開催し、また申立された案件について対応を行った。

４．社会貢献について

・昨年度、学生や現場の支援者と共に立ち上げた LGBT 支援団体「ソーシャルアライ・コナツハット（通称サワチ)」として、「平成 29 年度ソーレえいど事業」を受託し、性の多様性に関する啓発活動、とりわけ教育課関係者・行政関係者に対する研修会を実施するとともに、セクシュアル・マイノリティの居場所づくりのための活動や学習会を開催した。さらに県幡多地域の中学校養護教諭と共に、性的少数者の生徒への支援について学習会を行った。また、高知県県民生活・男女共同参画課や「ソーレ」、少子対策課の職員と協働して、多様性に関する啓発チラシや「ソーレスコープ」記事の作成に協力した。

・上記活動への貢献に対して、４回生（社会福祉学部生及び看護学部生）が大学賞を受賞した。

丸 山　裕 子

Hiroko MARUYAMA

○研　究　活　動

1　研究会参加（病後より一時休会中）
エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

2　論文等
なし

3　競争的資金の獲得
科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ）、課題番号　15H03431、平成 27-30 年度）
研究代表者：丸山　裕子
研究課題名「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」

○教　育　活　動

（学部）
・福祉研究法入門
・精神保健援助技術総論
・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
・精神保健福祉援助演習

（大学院）
・精神科ソーシャルワーク論

○委 員 会 活 動

1　学部
・社会福祉研究倫理審査会委員
・入試監査委員
・就職委員

2　大学院
・人権委員

○社 会 的 活 動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー

○総合評価及び今後の課題

着任４年めとなる本年度は、昨年度の病後の体力もある程度回復し、精神保健福祉援助実習巡回指導等も病前とほぼ同様のペースで担当することができた。特に、実習の動機と課題、実習計画書（案）の作成には、グループでの指導とともに個別指導に力を入れ、現場実習へとつなげることを意識的に行った。

演習・実習指導に限らず、授業においては、学生の実習体験を素材にしたグループ学習やＤＶＤなどの視覚教材の活用など、わかりやすい授業というよりは「学生が参加し、主体的に考えてもらうための素材を提供する授業」を基本姿勢としているつもりである。

研究活動については、27 年度採択になった科学研究費補助金基盤（Ｂ）「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」の最終年度をむかえた。27 年度、ツール作成に関して思いがけない事態が発生し、繰越し申請を行った。ようやく、次に進めるめどが立った時点で、研究代表者の病気がわかり、再度中断を余儀なくされた。科研費（基盤Ｂ）が補助金となってから、前例のない２度の繰越申請を行うこととなり、再三に渡る事務局を通しての学術振興会とのやりとりの末繰り越しが認められた。ライフワークでもある研究に本格的に取り組む機会ととらえ、これまでの研究蓄積と他学問の知見を取り入れ、本研究の基盤となるツール開発と精緻化にコンピュータの専門家(ソフト開発業者)の参加を得て進めてきた。しかし、新たなソフト開発への業者への支払い方法に関して、契約窓口の大学事務の検討が進まず、10 月以降は、研究者がそれへの対応に多大な時間と労力を有することとなった。結果として、再々度の中断を余儀なくされることとなり、研究者としては遺憾にたえない。

また、精神・社会福祉コースの教育カリキュラムの検討を進める中で、現任教育も含めた継続的教育過程におけるピアの視点の導入に関する着想を得、多様な方法の開発と体系化をめざし、科研費を申請した。

いずれの研究も教育と密接に結びついた内容であり、次年度こそ教育活動とともに研究活動にも、力を傾注したい。

宮 上　多 加 子

Takako MIYAUE

○研 究 活 動

（１）論　文

・宮上多加子・河内康文・田中眞希(2018) 介護福祉士および准看護師の経験による学びと「仕事の信念」に関する研究『高知県立大学紀要社会福祉学部編』67,1-16.

・田中眞希・宮上多加子(2018) 保育士養成校で学ぶ社会人学生のキャリアと仕事に関する認識『高知県立大学紀要社会福祉学部編』67,147-159.

（２）学会発表

・荒川泰士・宮上多加子・上田恵理子：訪問介護員を対象とした KOMI ケア理論研修の効果，ナイチンゲール KOMI ケア学会第８回学術集会（大阪），2017 年６月.

○教 育 活 動

［ 学 部 ］

（１）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース１回生（後期）の授業を担当した．ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMI ケア理論」の基礎と，事例を用いた介護過程の概要について講義した．教材は，介護福祉コース教員と学生が協同で制作したイラスト入り事例を用いた．

（２）「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」

「認知症の理解Ⅰ」「認知症の理解Ⅱ」ともに学部専任教員とオムニバスで担当した．介護コース以外の学生も履修したため，医学的知識の基礎的理解や，当事者からの発信，地域社会における認知症をもった人への支援などを重点的に取り上げた．

（３）「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」

３回生のゼミ生は４名，４回生のゼミ生は２名（うち留学生１名）であった．ゼミの活動内容については，例年通りゼミ記録として冊子にまとめた．介護コース３回生の実習が夏休みと春休みにあるため，長期休暇中にゼミ活動を行う時間的余裕がなくなり，また講義期間中の土日の活動も教員と学生の日程調整が難しかったため，今後は工夫が必要である．

［ 大学院（人間生活学研究科博士前期課程）］

（１）「介護福祉演習」（多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座(BP プログラム）と一部を重ねて実施）

大学院講義の「介護福祉演習」受講者は９名，BP プログラム受講者は８名であったため，相互の交流とディスカッションができた．

（２）論文指導

正指導教員としてM1 生２名，副指導教員としてM1 生１名を担当した．研究を進めるためのディスカッションの場として，大学院ゼミを毎月１～２回継続的に開催した．

［ 大学院（博士後期課程）］

（１）「介護福祉学」

受講者は１名であり，年間を通して継続的に開講した．受講者の研究テーマに沿った介護福祉分野の理論や研究方法を取り上げ，論文指導と関連付けて講義を行った．

（２）論文指導

正指導教員として院生２名，副指導教員として院生４名を担当した．

○委員会活動

［ 全 学 ］

社会福祉学部長（部局長会議／教育研究審議会／入学試験委員会／研究倫理委員会／自己点検評価運営委員会／非常勤講師審査委員会／学術研究戦略委員会/人事委員会/広大接続を軸とする大学改革プロジェクト/高知医療センター･高知県立大学包括的連携協議会）

［ 学 部 ］

学部総務・予算委員会／学部人事関係検討会／自己点検評価委員会

［ 大学院（人間生活学研究科博士後期課程）］

学務委員

○社会的活動

高知県社会福祉審議会委員／高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員
高知県福祉活動支援基金運営委員会委員／高知市民生委員推薦会委員
高知県社会福祉協議会理事／日常生活自立支援事業契約締結審査会委員（委員長）

○総合評価と今後の課題

（１）教育活動

学部教員の移動により，ここ数年間は担当科目の変動があったが，本年度より介護過程と認知症に関する科目に落ち着いた．ⅠとⅡという科目の関係性や，他の科目の内容との整合性を検討する点など，いくつかの課題がある．

（２）研究活動

科学研究費補助金(基盤(C))「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」（研究期間：平成 29～31 年度）が採択され、１年目は中堅介護職員とその指導者を対象とした面接調査を実施した．介護福祉分野での卒後教育と人材養成について，研究成果を本学での教育にも反映していきたい．

（３）学内業務

学部長の任期 4 年目として取り組んだ事業は，学部創設 20 周年記念事業「社会福祉研究・実践報告会」の開催である．2016 年度から取り組んでいる卒業生対象のキャリア支援事業とも関連させて，学部と卒業生をつなぐネットワークづくりと今後の研究実践活動の基盤づくりを目的に実施した．企画運営を担当してくれた教員の尽力により，卒業生約 100 人を含めて在学生や教員との和やかで活発な交流ができ，次のステップにつながる契機となったと評価できる．なお，今回の事業実施に際しては，本学をはじめ同窓会（しらさぎ会）からも支援をいただいた．改めて謝意を表したい．

昨年度入試の志願者数減少に対して，入試広報担当教員を中心に高知県全域の高等学校への訪問を継続して実施するとともに，県からの補助金を受けて「高知県キャリア教育推進事業」を引き続き実施し，社会福祉学部の広報を積極的に展開した．県立大学全体では志願者数が減少した中で，社会福祉学部は各入試ともに志願者数が増加した結果は，広報活動の成果であると言える．

教員体制に関しては，４月に教授１名，10 月に助教２名が着任して久しぶりに 25 人体制となったが，３月末で准教授１名，講師２名，助教２名の退職があり，次年度前半は専任教員数が減少することが大きな課題である．

横 井　輝 夫

Teruo YOKOI

○研 究 活 動

（１）論文

・Yokoi Teruo, Okamura Hitoshi, Yamamoto Tomoka, et al. Effect of wearing fingers rings on the behavioral and psychological symptoms of dementia: an exploratory study. SAGE Open Medicine 5, 1-11, 2017.

・横井輝夫、石田　光、磯俣志隆・他（2017）「認知症者の睡眠障害に対する運動の効果に関するレビュー」『大阪行岡医療大学研究紀要』第４巻，pp.7-12.

（２）競争的資金

・科学研究費補助金　基盤研究（C）　ことばと自己認識の喪失過程で認知症者の認識世界に何が起きているのか？　研究期間：2016 年 4 月～2019 年 3 月
研究代表者：横井輝夫

・科学研究費補助金　基盤研究（C）　認知症者の行動・心理症状（BPSD）に対するマニキュア療法の有効性の検証　研究期間：2014 年 4 月～2018 年 3 月
研究代表者：佐藤三矢

○教 育 活 動

・精神保健学Ⅰ　・精神保健学Ⅱ
・精神科リハビリテーション学　・発達と老化の理解Ⅱ
・こころとからだのしくみⅠ　・こころとからだのしくみⅡ
・障害の理解Ⅰ　・介護の基本Ⅱ

○委 員 会 活 動

（全学）

・図書委員会　・産官学研究部会

（学部）

・人事関係検討会　・倫理審査委員会
・介護人材確保事業部会　・国際交流委員会

○社 会 的 活 動

（研修会講師・講演等）

・社会福祉学部リカレント教育講座
「認知症をもつ人ともたない人の「今」」（10 月 21 日）

・高校生と保護者のための公開講座
「運動が記憶力を高める－認知症を中心とした世界の研究」（10 月 28 日）

（学外非常勤講師）

・吉備国際大学（「運動発達学」「理学療法技術実習」担当）
・吉備国際大学大学院保健科学研究科修士課程（通信制）（「臨床保健学特論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

前期授業では、講義内容が網羅的になり、学生の理解に即した授業が出来ず、反省点が多い。次年度は、講義資料を厳選し、確認テストを繰り返し、着実に知識が身についたことを確認しながら授業を進めたい。

（２）研究活動について

科学研究費補助金（基盤研究 C)「ことばと自己認識の喪失過程で認知症者の認識世界に何が起きているのか？」の問いが理解できた。特にアルツハイマー病の進行に伴って失っていく能力、それは今までの理解とは異なる能力であった。次年度は、この成果を論文にし、多くの人々と議論をしていきたい。

（３）学内業務について

着任１年目であり、一つひとつ先生方に教えていただきながら、各委員を務めさせていただいた。次年度は、できる業務を広げ学部に貢献したい。

（４）社会貢献活動について

今年度は目立った社会貢献は出来なかったが、次年度は科研研究の成果を英語論文として発表することで、一つの社会貢献をしたい。また新たに担当させていただく「職業実践力育成プログラム」などを通して、地域社会に貢献したい。

鈴 木　孝 典

Takanori SUZUKI

○研 究 活 動

（１）学術論文

・岩崎香、鈴木孝典、大谷京子、松本すみ子、大塚淳子、石川到覚「医療機関に勤務する精神保健福祉士の現状と多職種連携における課題 第２報-多職種と協働するための知識とスキルへの気づきを促す研修プログラム構築と評価」『精神保健福祉学』vol.5、No.1、2017.9、pp.25-37.

（２）著　書

・鈴木孝典「相談援助にかかわる行政組織と民間組織」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『新･精神保健福祉士養成講座６精神保健福祉に関する制度とサービス（第６版）』中央法規出版、2018.2、pp.241-246

（３）学会発表等

・なし

（４）競争的資金の獲得

・科学研究費補助金（基盤(C)、課題番号:16K04169、平成 28 年度-30 年度）
　研究代表者：鈴木孝典
　研究課題名:「内科的管理を要する疾患をもつ高齢精神障害者のセルフケア機能評価支援ツールの開発」

○教 育 活 動

（１）講　義

［学　部］

１.「精神保健福祉論Ⅰ」
２.「精神保健福祉論Ⅱ」
３.「社会福祉専門演習Ⅰ」
４.「社会福祉専門演習Ⅱ」
５.「社会福祉専門演習Ⅱ」
６.「社会福祉専門演習Ⅱ」
７.「精神保健福祉援助実習Ⅰ」
８.「精神保健福祉援助実習Ⅱ」
９.「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」
10.「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」
11.「精神保健福祉援助演習」

［大学院］

１.「研究方法論Ⅱ」
２.「障害者福祉論」
３.「社会福祉課題研究演習」

（２）講義以外

・実習支援
精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

○委 員 会 活 動 等

（１）学 部

１．精神･社会福祉コース主担当
２．実習委員
３．入試委員主担当
４．入試広報ワーキンググループ主担当

（２）全 学

１．学部入試実施委員
２．総合情報センター運営委員（人間生活学研究科選出委員）

○社 会 的 活 動

（１）委 員 等

１．高知県精神保健福祉士協会 新人研修委員会 委員長（2008 年 4 月～）
２．高知県精神医療審査会 委員（2008 年 4 月～）
３．高知県自立支援協議会 副会長（2009 年 2 月～、副会長 2014 年 7 月～）
４．高知県自立支援協議会人材育成部会 部会長（2013 年 9 月～）
５．高知県障害者施策推進協議会 委員（2009 年 4 月～）
６．高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010 年 4 月～）
７．高知市障害者計画等推進協議会 会長（2014 年 11 月～）
８．高知市自立支援協議会 委員（2014 年 4 月～）
９．社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010 年 4 月～）
10．社会福祉法人ファミーユ高知 評議員（2015 年 4 月～）
11．一般社団法人日本精神保健福祉学会 理事（2016 年 6 月～）
12．一般社団法人日本精神保健福祉学会 機関誌査読委員（2015 年 4 月～）
13．公益社団法人日本精神保健福祉士協会 機関誌査読委員（2015 年 4 月～）
14．高知県福祉人材センター･福祉研修センター運営委員会 副委員長（2015年4月~、副委員長2018年3月~）

（２）講 演 等

１．「障がいがある人とご家族のライフプランを考える会シンポジウム」コーディネーター（7 月 15 日）
２．平成 29 年度高知県相談支援従事者研修会「障害者ケアマネジメント概論」講師（7 月 19 日）
３．一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（厚生労働省補助金事業）「実習分野講習会」 講師（8 月 29 日(東京)、9 月 5 日(京都)）
４．県立山田高校出前講座「『こころの健康』と精神医学ソーシャルワーク」(10月25日)
５．「社会資源の上手な使い方ワークショップ」助言者（11 月 9 日、1 月 11 日）

（３）学外非常勤講師

１．高知医療学院（「社会福祉学」担当）
２．土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）
３．大正大学大学院人間学研究科博士前期課程（「M データ分析法」担当）
４．日本福祉教育専門学校通信課程（「精神保健福祉の基盤と専門職」担当）

○総 合 評 価 及 び 今 後 の 課 題

（１）教育活動について

今年度は、稲垣助教の復職と玉利助教の入職により、精神･社会福祉コースの教員体制が充実し、実習事後指導における実習評価のための個別面接を実施することができた。次年度は、精神保健福祉援助実習･演習のための教育プログラムをさらに充実させたい。

また、講義科目については、授業教材の更新に努めた。次年度は、講義科目にアクティブ･ラーニングの要素を積極的に取り入れ、授業の刷新を図りたい。

（２）研究活動について

今年度は､科研費に係る調査研究を中心に活動した.昨年度の遅れを取り戻すために、予備的調査を中心に研究活動を展開した。次年度は、当初計画に基づく調査を全うできるよう研究活動を進めたい。

（３）学内業務及び社会貢献活動について

入試実施委員として、昨年度に引き続き、鳩間講師、福間講師とともに、全学及び学部における入試の運営を担った。また、昨年度に引き続き、入試広報ワーキンググループの主担当として、学部教員と協働しながら、高校訪問を実施し、入試広報とあわせて高校の進路指導の実態把握等に努めた。その結果、入試の志願状況について、昨年度と比較し、志願者数の大幅な増加が見られた。次年度は、今年度に引き続き、県内外での進学ガイダンスへの参加や高校の訪問などの入試広報について、入試課と連携を図りながら進めたい。

中 嶌　洋

Hiroshi NAKASHIMA

○研　究　活　動

1　著書

（図書）

・『図解でわかる！地域福祉の理論と実践』小林出版、2017 年 6 月（共編著）。（編者は中嶌　洋・竹原厚三郎、第 1・2・3・5・7・9 章を担当）。

2　論文

（原著論文）

・「日誌に基づく原崎秀司の人生観――晩年期の思考と苦悩への照射」『社会事業史研究』第 52 号、社会事業史学会、2017 年 9 月（単著）。【査読付】

・「大学生における防災訓練後の意識変化の諸相」『福祉文化研究』第 27 号、日本福祉文化学会、2018 年 3 月（共著、共著者は上田恵理子・西川愛海・村田美穂）。【査読付】

・「小地域福祉活動の促進要因――高知県及び島根県のホームヘルプ事業史を事例として」『高知県立大学社会福祉学部紀要』第 67 巻、2018 年 3 月（単著）。

（実践報告）

・「高知県立大学社会福祉学部 1 回生における体験学習の効果の考察――バスハイク・障害者スポーツ大会ボランティア・留学生交流会を中心に」『高知県立大学社会福祉学部紀要』第 67 巻、2018 年 3 月（共著、共著者は片岡妙子）。

・「避難所運営訓練の影響と今日的課題――防災意識，役割付与，エリア配置に焦点を当てて」『高知県立大学社会福祉学部紀要』第 67 巻、2018 年 3 月（共著、共著者は上田恵理子・長澤紀美子・西川愛海・村田美穂）

（その他）

・「編集後記」『福祉文化研究』第 27 号、2018 年 3 月。

3　発表

（学会）

・「原崎秀司と山崎　等――ホームヘルプ事業前史としての『潮音』及び『湯の里會』活動を中心に」（第 45 回社会事業史学会全国大会口頭発表、於 長野大学、2017 年 5 月 13 日）（単独）【第 5 分科会司会者兼務】

・「高知県立大学社会福祉学部生における防災訓練後の意識変化の諸相」（第 25 回日本介護福祉学会全国大会口頭発表、於 岩手県立大学、2017 年 10 月 1 日）（共同、共同発表者は、上田恵理子・西川愛海・村田美穂）

・「長野県社会部厚生課における『現任訓練』の検討過程分析」（第 65 回日本社会福祉学会全国大会口頭発表、於 首都大学東京、2017 年 10 月 22 日）（単独）【歴史 2 部会司会者兼務】

4　外部獲得資金状況（科研費）

・「長野県社会部厚生課長としての原崎秀司の職務内容とホームヘルプ事業化との関連」（平成 28 年度～平成 30 年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究 C、課題番号 16K04179）（研究代表者）

・「厚生行政のオーラルヒストリー――終戦後の制度再建から介護保険の創設まで」（平成 28 年度～平成 30 年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究 B、課題番号 16H03718）（研究分担者）（研究代表者は、菅沼 隆、共同研究者は百瀬　優、森田慎二郎、中尾友紀、土田武史、山田篤裕、田中総一郎、深田耕一郎、浅井亜希、岩永理恵、新田秀樹、松本由美）

○教　育　活　動

［共通教育科目］
現代社会論（池キャンパス・永国寺キャンパス）

［学部専門科目］
児童家庭福祉論
社会福祉史
相談援助演習Ⅲ
相談援助演習Ⅳ
相談援助実習指導Ⅰ
相談援助実習指導Ⅱ
相談援助実習指導Ⅲ
社会福祉専門演習Ⅰ
社会福祉専門演習Ⅱ

○委 員 会 活 動

学部災害対策委員
学部倫理審査委員
学部学生委員
学部広報委員（介護人材確保事業部会）
健康長寿土佐市連携事業「地域ケア会議推進プロジェクト」委員

○社 会 的 活 動

［委員等］
・生涯教育・社会教育研究促進機構（IPSLA）編集委員会幹事（2006 年～）
・日本介護福祉学会機関誌『介護福祉学』査読委員（2009 年～）
・日本福祉文化学会機関誌『福祉文化研究』編集委員（2013 年～）
・日本福祉文化学会評議員（2014 年～2017 年）
・全日本大学開放推進機構（UEJ）理事（2014 年～）
・日本介護福祉学会評議員（2015 年～）
・福祉哲学研究所研究員（2016 年～）
・日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』査読委員（2018 年～）
・日本福祉文化学会理事（2018 年～）
・平成 29 度日本介護福祉学会評議員会（2017 年 9 月 30 日、於 岩手県立大学）
・平成 29 度日本介護福祉学会総会議長（2017 年 10 月 1 日、於 岩手県立大学）
・平成 29 年度第 2 回日本福祉文化学会編集委員会（2017 年 10 月 14 日、於 新宿駅構内）
・平成 29 年度第 3 回日本福祉文化学会編集委員会（2018 年 3 月 20 日、於 新宿）
・第 45 回社会事業史学会全国大会　第 5 分科会司会者（2017 年 5 月 13 日、全体統括者は中嶌と矢上克己［清泉女学院短期大学］）

・第 65 回日本社会福祉学会全国大会　歴史 2 部会司会者（2017 年 10 月 22 日、全体統括は大友昌子[中京大学]）
・高知龍馬看護ふくし専門学校非常勤講師（担当科目「現代社会と福祉」通年、2017 年 4 月～）
・近畿大学九州短期大学非常勤講師（担当科目「相談援助」集中、2017 年 8 月 23～24 日）

[研修会講師・講演等]
・平成 29 年度高知県立大学健康長寿体験型セミナーin 中土佐町「食から始めよう認知症予防対策」講師 荒牧礼子、社会福祉学部ブース「認知症自己診断テスト」担当（於 中土佐町地域包括支援センター、2017 年 10 月 12 日）
・平成 29 年度高知県立大学健康長寿体験型セミナーin 土佐清水市「物忘れから始める認知症予防」講師 竹﨑久美子、社会福祉学部ブース「認知症自己診断テスト」担当（於 土佐清水市社会福祉センター大会議室、2017 年 10 月 16 日）
・平成 29 年度高知県立大学公開講座講師「“ダブルケア”の観点から見た子育て困難とその支援」（於 高知県立大学池キャンパス、2017 年 10 月 28 日）
・平成 29 年度新高校 2・3 年生のための社会福祉入門講座講師「社会福祉とは何か」（於 高知県立大学永国寺キャンパス、2018 年 3 月 28 日）
・日高市生涯学習まちづくり出前講座「歴史から介護問題を学ぶ」講師（2015 年～）
・秩父まちづくり出前講座講師（2015 年～）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

昨年度の児童家庭福祉論、相談援助実習指導、相談援助演習などに加え、本年度は社会福祉史（4 回生、必修）、社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ（3 回生、必修）、社会福祉入門演習・基礎演習（1 回生、必修）など新たな科目を担当した。社会福祉史では映像や裏話を交えながら、視覚的・思考的に理解が深まる工夫を引き続き行っていきたい。社会福祉専門演習では、卒論完成に向けて実践的な指導を行い、3 回生のⅠ・Ⅱと 4 回生のⅢ・Ⅳとの相互交流（相互批判も含め）を進めていきたい。また、社会福祉入門演習・基礎演習については、この学習経験を基に、新 2 年生が卒業時まで学業に奮闘出来るよう、各自が切磋琢磨してくれることを期待する。

一方、非常勤講師として、高知龍馬看護ふくし専門学校（保育福祉学科）で「現代社会と福祉」（通年科目）を担当し、8 月には、近畿大学九州短期大学において「社会福祉援助技術演習」（集中講義、5 コマ×2 日間）を担当した。また、11 月には 4 回生向けに、国家試験対策講座「児童家庭福祉論」を 3 コマ連続で担当した。

２．研究活動について

本年度は、地域に密着した視点から研究成果を挙げることを念頭におき、ホームヘルプ事業史に加え、大学生の合同災害訓練後の意識変化にも着目し、共編著 1 冊、原著論文 3 本（うち、単著 2 本）、実践報告 2 本（いずれも共著）、学会発表 3 回（うち、単独 2 回、共同 1 回）などの成果を挙げた。外部獲得資金状況は昨年度に続き、【平成 28 年度～平成 30 年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究 C、課題番号 16K04179、研究代表者】及び【平成 28 年度～平成 30 年度 科学研究費助成事業学術研

究助成基金助成金、基盤研究 B、課題番号 16H03718、研究分担者】による研究を継続している。次年度は、ホームヘルプ事業の先覚者である原崎秀司の思想研究に終始せず、高知県内の優れた社会事業家にも焦点を当てながら、歴史的研究を進めていきたい。

３．社会活動について

健康長寿委員及び広報委員（介護人材確保事業部会）として、学内で公開講座（リカレント教育講座）講師を 1 回、学外で社会福祉入門講座講師を 1 回務め、好評を博した。加えて、体験型セミナー時には、社会福祉学部ブースを設置し、「認知症自己診断テスト」を 2 回担当した。認知症予防、子育て支援、ダブルケア、終末期ケアなどをテーマとした講座を今後も展開していきたい。一方、学会関係では、日本社会福祉学会全国大会歴史 2 部会及び社会事業史学会第 5 分科会で司会者を務めたほか、日本介護福祉学会評議員・査読委員、日本福祉文化学会評議員・編集委員として委員会活動にも積極的に参加した。さらに、日本社会福祉学会の査読委員として学術誌刊行の一端に尽力することになった。学会会員数の増加、投稿論文（掲載論文）の質的向上、会員相互の交流促進などのために、次年度以降も精進していきたい。

西 内　章

Akira NISHIUCHI

○ 研 究 活 動

１．著書

西内章(2018)『ソーシャルワークによる ICT 活用と多職種連携－支援困難状況への包括・統合的な実践研究－』明石書店，219 .

２．総説

西内章(2018)「ソーシャルワークにおける多職種連携モデル（試案）の構成子に関する研究」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』67，189-199.

３．研究発表

1）西内章(2018)「ソーシャルワークによる ICT 活用と多職種連携」(平成 29 年度第 2 回（通算第 11 回）高知大学･高知工科大学･高知県立大学医工連携交流会 2018 年 2 月 16 日高知県立大学)

２）小榮住まゆ子・御前由美子・安井理夫・長澤真由子・西内章・伊藤佳代子・溝渕淳(2017)「独立型社会福祉士のソーシャルワーク実践に対するスーパービジョン方法の構築―エコシステム構想による支援ツール開発と試行―」(日本ソーシャルワーク学会【第 34 回】: 2017 年 7 月 23 日，北星学園大学)

３）御前由美子・小榮住まゆ子・安井理夫・西内章・伊藤佳代子・溝渕淳・長澤真由子(2017)「独立型社会福祉士の実践におけるセルフ・スーパービジョンの意義―エコシステム構想による支援ツールの試行にむけて―」(日本社会福祉学会【第 65 回】: 2017 年 10 月 22 日，首都大学東京)

４．科研費

１）(基盤研究(C)) 西内章『ソーシャルワークにおける ICT 活用モデルの構築』
※2014～2017 年度

２）(基盤研究(B)分担研究) 丸山裕子・西内章他『ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究』
※2015～2017 年度

３）(基盤研究(C)・分担研究) 御前由美子・西内章他『独立型社会福祉士の特性と現状にもとづくより効果的なスーパービジョン方法の開発』
※2014～2017 年度

５．研究会

１）ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授、関西福祉科学大学名誉教授　太田義弘主宰）に所属し,コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発を行った.

○ 教 育 活 動

［共通教育科目］

①「専門職連携論」

②「チーム形成論」

［学部専門科目］

①「事例研究法」

②「相談援助の基盤と専門職」
③「相談援助演習Ⅰ」
④「相談援助演習Ⅲ」
⑤「相談援助演習Ⅳ」
⑥「相談援助実習指導Ⅰ」
⑦「相談援助実習指導Ⅱ」
⑧「相談援助実習指導Ⅲ」
⑨「相談援助実習」
⑩「社会福祉専門演習Ⅰ」
⑪「社会福祉専門演習Ⅱ」
⑫「社会福祉専門演習Ⅲ」
⑬「社会福祉専門演習Ⅳ」

［大学院人間生活学研究科］
①研究方法論Ⅱ
②ソーシャルワーク論
③高齢者福祉論
④課題研究演習

○委員会活動

①学部教務委員長
②自己点検評価委員
③大学院入試実施委員
④就職委員会委員
⑤入試広報部会委員

○社会的活動

［委員等］
・高知県行政不服審査会委員
・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
・高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長
・高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長
・高知市社会福祉協議会評議員
・高知市成年後見サポートセンター運営委員
・津野町地域包括支援センター・津野町地域密着型サービス運営協議会委員
・市町村社会福祉協議会地域支援事例研究会アドバイザー

［研修会講師・講演等］
・高知県社会福祉士会基礎研修Ⅲ講師「対人援助と事例研究」，「事例研究の基本枠組み」，「事例研究の方法としてのケースカンファレンス」（7 月 8 日）
・土佐清水市医療・介護連携推進事業研修会講師「高知県における福祉制度政策の展開」（8 月 18 日）
・教育相談の充実（チーム学校）に向けた連絡協議会講師（高吾ブロック 8 月 24 日，幡多ブロック 8 月 25 日）
・高知県相談支援従事者研修講師「面接技術・対人支援技術」担当（9 月 12 日）

・平成 29 年度 高知県立大学職業実践力育成プログラム「多職種連携による保健福祉医・療従事者の力量アップのための講座－高齢者ケア力の向上に向けて－」（9 月 18 日，12 月 17 日）
・あったふれあいセンターテーマ別研修会「利用者理解から課題解決へ」（9 月 20 日）
・高知県医療ソーシャルワーカー協会基礎研修講師「保健医療福祉をめぐる動向、諸制度の変遷」（9 月 24 日）
・高知県介護支援専門員連絡協議会中央東ブロック研修会「医療介護連携システムのあり方」（11 月 10 日）
・高知県隣保館職員等研修事業「人権課題別研修Ⅰ　高齢者保健福祉制度と相談支援」（11 月 17 日）
・高知市健康福祉部・こども未来部局研修「社会福祉援助について」（3 月 2 日）
・高知県社会福祉協議会・高知県市町村社会福祉協議会連絡会「平成 29 年度市町村社協事例検討会」（中央・幡多ブロック 3 月 2 日，安芸ブロック 3 月 7 日）

○総合評価と課題

１．教育活動

「事例研究法」が選択科目になったため，当該科目の位置づけを履修学生と話し合いながら，教材を検討し授業を行った。また，「専門職連携概論」と「チーム形成論」については，看護学部山中福子講師、健康栄養学部廣内智子講師と IPW（Inter-Professional Work）の基礎的理解を中心に授業を実施した。4 学部の学生が履修できる時期を考慮して授業を開講している．2017 年度は，前年度に引き続き「専門職連携概論」が 12 月，「チーム形成論」が 2 月の集中講義で行った．社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳでは，4 回生 6 名の卒業研究論文指導を行った．担当科目については，引き続きリアクションペーパーの内容を検討し，継続的な評価・授業内容の改善を行いたい．

２．研究活動

研究活動では，研究代表者及び研究分担者となっている科研費による研究がいずれも最終年度であった．ICT を活用したソーシャルワークを展開するモデル（試案）を提示することができた．次年度は，実証的な研究に取り組みたい．

また，独立型社会福祉士のセルフ･スーパービジョンの研究についても最終年度であった．今年度は担当しているヒアリング調査を実施し，結果を報告書としてまとめた．

３．委員会活動

委員会活動では、学部教務委員長として，共通教養教育の改正，カリキュラムの実施に伴う科目配置の検討，研究生の受け入れガイドラインの作成，教務関連手続きの改正などについて教務委員会のメンバーとともに日々取り組んだ．

４．社会的活動

社会的活動では、高知県内における高齢者福祉，地域福祉，医療福祉，児童福祉，障害者福祉などの分野において，事例検討やソーシャルワーク研修を行った．また高知県立大学職業実践力育成プログラムの講座を担当し，社会福祉士や精神保健福祉士，医師，保健師，看護師，理学療法士，作業療法士，介護支援専門員等の多職種方々が直面している課題について協議することができ，自らも学ぶ機会となった．

５．今後の課題

これまでの取り組みを包括的に整理し，自らの課題を設定する必要があると考えている．2018 年度 4 月当初はその時間をとりたい．その上で教育活動及び研究活動，委員会活動，社会的活動に継続的かつ積極的に取り組んでいきたい.特に 2018 年度も科研費による研究を継続できることになったため，研究活動の成果を教育活動に還元できるように，今後も尽力したいと考えている。

西 梅　幸 治

Koji NISHIUME

○研 究 活 動

（１）研究会参加

１）エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

（２）研究資金の導入

１）基盤研究（C）「ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践方法とツール開発の研究」（平成 26～28 年度）

２）基盤研究（B）「分担研究：ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」（平成 27～29 年度）

３）挑戦的萌芽研究「分担研究：日本式ソーシャルワーカー教育プログラムの発信」（平成 28～30 年度）

（３）論文等

論文

１）西梅幸治（2018）「ソーシャルワークにおける社会構成主義の意義と課題―エンパワメント実践との関連から―」『高知県立大学紀要』67，41-55.

２）山口真里・加藤由衣・西梅幸治（2018）「コンピテンスを涵養する実習スーパービジョン―ソーシャルワーク教育におけるコンピテンス概念の検討をとおして―」『広島国際大学医療福祉学科紀要』14，41-55.

○教 育 活 動

（１）担当科目

（学部）

「相談援助の理論と方法Ⅱ」「相談援助の理論と方法Ⅳ」「相談援助の基盤と専門職」
「社会福祉専門演習Ⅰ」　「社会福祉専門演習Ⅱ」　「社会福祉専門演習Ⅲ」
「社会福祉専門演習Ⅳ」　「相談援助実習」　「相談援助演習Ⅰ」
「相談援助演習Ⅱ」　「相談援助演習Ⅳ」　「相談援助実習指導Ⅰ」
「相談援助実習指導Ⅱ」　「相談援助実習指導Ⅲ」

（大学院）

「ソーシャルワーク論」

（２）クラブ活動

・グローカルクラブ顧問　・手話サークル顧問

○委 員 会 活 動

全　学

・キャリア支援部会

学　部

・実習委員会（社士主担当）　・総務委員会（長）
・キャリア支援委員会（長）　・大学院広報担当

○社 会 的 活 動

・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業　スーパーバイザー

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟中国四国ブロック　副運営委員長
・四国中央医療福祉総合学院　非常勤講師
・全国社会福祉協議会中央福祉学院　通信課程・相談援助演習講師
・高知県社会福祉協議会　講師「先輩職員研修」(2017 年 7 月 6 日)
・高知県社会福祉士会　講師「基礎研修Ⅲ」(2017 年 7 月 29 日)
・高知県社会福祉協議会　講師「高知県中堅民生委員児童委員研修会」(2017 年 7 月 31 日、８月３日)
・要約筆記者養成講座　講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」(2017 年８月６日)
・高知県隣保館職員等研修事業　講師「人権課題別研修Ⅰ」(2017 年 11 月 17 日)
・要約筆記者養成講座　講師「対人援助」(2017 年 11 月 25 日)
・介護支援専門員実務研修　講師「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」(2017 年 12 月 21 日、12 月 24 日)
・高知南中学校・高等学校大学職業別ガイダンス　講師「幸せに寄り添うソーシャルワーカーの仕事」(2018 年 1 月 30 日)
・高知県社会福祉協議会　講師「新任職員フォローアップ研修」(2018 年３月 7 日)
・学部リカレント研究会事業「スクールソーシャルワーク研究会」(４月～３月：計６回)
・学部リカレント研究会事業「ソーシャルワーク学習会」(３月：計６回)

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

研究活動については十分とはいえないが、継続的に研究を行い、共同研究として著書や実習教育に関する研究成果を公表することができた。しかし科研費を取得した研究に一定の成果は得たが、十分に時間を割くことができなかった。

（２）教育活動について

授業では、毎回の授業開始時に、前回の復習や学習手法などを取り入れ、知識の定着を図った。また授業のなかでは、学生からのフィードバック・コメントに応じて、授業展開の修正ならびに追加資料の配付などを行った。今後も、理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むための工夫を重ねていきたい。実習科目では、個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互いに共感し、考え方を深めることを重視してきた。今年度も積極的にグループスーパービジョンを取り入れ、その過程で自省を深め、社会性や専門職としての姿勢が身につくような指導に努めた。

また今年度は、6 名の学生の卒論指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は特に、文章構成と分析・考察を深められるように指導を行い、個々に応じた成果を出すことができた。

（３）委員会活動・社会的活動について

相談援助実習（社会福祉士）主担当としては、関連授業の効果・効率的、および統合的な授業運営に、総務委員長としては、学部棟などの設備管理や予算執行に、キャリア支援委員長としては、リカレント研究会事業や学部創設 20 周年記念事業を進めることに少なからず貢献できたと感じている。また高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成についても尽力することができたと感じている。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、より貢献できるように取り組んでいきたい。

三 好　弥 生

Yayoi MIYOSHI

○研 究 活 動

1．論　文

・三好弥生（2017）「介護福祉士の看取りへの前向きな意識」『介護福祉教育』中央法規出版 43，12-19.

2．著　書

・なし

3．学会発表

・三好弥生「介護福祉士の高齢者を看取る過程における食事をめぐる葛藤」日本社会福祉学会　中国・四国ブロック　第 49 回広島大会 2017 年 7 月.

・三好弥生・片岡妙子・田中眞希「終末期における食事困難事例の類型化の試み」第 24 回日本介護福祉教育学会発表（埼玉）2018 年 2 月.

4．競争的資金の獲得

・平成 28 年度～30 年度　日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C））「介護者による高齢者の看取り期食事ケアモデル構築に向けた実証的研究」（研究代表者）

○教 育 活 動

1．学部担当科目

・地域学実習Ⅰ
・医療的ケアⅡ
・介護過程Ⅲ
・生活支援技術Ⅴ
・社会福祉専門演習Ⅱ
・社会福祉専門演習Ⅳ
・介護総合演習Ⅱ
・介護総合演習Ⅳ
・介護実習Ⅱ
・介護論
・高齢者福祉論Ⅱ
・介護過程Ⅱ
・介護過程Ⅳ
・社会福祉専門演習Ⅰ
・社会福祉専門演習Ⅲ
・介護総合演習Ⅰ
・介護総合演習Ⅲ
・介護実習Ⅰ
・介護実習Ⅲ

2．大学院担当科目

・介護福祉演習

○委 員 会 活 動

1．全　学

・共通教育部会員

2．学　部

・介護・社会福祉コース主担当

・教務委員
・実習委員

３．大学院

・学生委員

○社 会 的 活 動

１．研修会講師・講演等

・日中高齢化対策戦略プロジェクトにかかる研修会講師「日本の大学における人材育成」中華人民共和国陝西省宝鶏市（4 月）
・高知県立大学講師「介護等体験事前指導」永国寺キャンパス（5 月）
・高知市市民講座講師「コミュニケーション技術－『聞く力』を伸ばす－」江ノ口コミュニティセンター（6 月）
・いのちの電話相談員養成講座講師「コミュニケーション技術－『聞く力』を伸ばす－」高知市保健福祉センター（10 月）
・特別養護老人ホームネムの木職員研修講師「要介護高齢者の看取り－ケアの視点－」香川県（12 月）
・高知県社会福祉法人経営青年会セミナー講師「大学生の進路動向」高知共済会館（2 月）

○総合評価及び今後の課題

１．研究活動について

前期は授業や実習等に多くの時間を費やして纏まった時間が確保できず、科研費助成を受けた研究は、ほとんど進まなかった。夏休み以降、計画的に調査を実施し、2 月にはそれまでの成果を学会で発表することができた。今年度も多忙を理由に先延ばしせず、できるところから少しずつでも研究を進めていきたい。

２．教育活動について

平成 29 年度も担当科目が多く、加えて新しい科目「介護総合演習Ⅳ」や初めて担当する共通教育科目の「地域学実習Ⅰ」、健康栄養学部の「介護論」、大学院の「介護福祉演習」などの授業準備にかなりの労力を要した。次年度は、これらの科目について、さらに教材等を検討し、工夫していきたい。

３．社会的活動について

4 月に JICA 中国より招聘され、陝西省自強中等専業学校で講演を行った。初めて中国を訪れ、高齢化や介護の状況について実際に見聞することができた。

４．その他

介護福祉士養成課程の教育内容が、平成 29 年報告書において示されている求められる介護福祉士像に即した介護福祉士を養成する観点から見直され、平成 31 年度入学制より見直し後の教育内容が適用されることとなった。平成 30 年度は、これに関する準備を行う予定である。

山 村　靖 彦

Yasuhiko YAMAMURA

○研　究　活　動

１．書籍監修

・山村靖彦「地域福祉の理論と方法」医療情報科学研究所編『社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2018』メディックメディア、2017. ４、pp.247-288.

２．書籍執筆

・山村靖彦「地域福祉学と共生型地域づくり」田中きよむ編著『小さな拠点を軸とする共生型地域づくり』晃洋書房、2018.３.

３．書籍概説

・山村靖彦「地域福祉の理論と方法」医療情報科学研究所編『社会福祉士第 26-29 回国家試験問題解説 2018』メディックメディア、2017. ４、pp.136-167.

・田中科研費

４．報告

・山村靖彦「地域における『声をかけ合う存在』の大切さ」日本地域福祉学会第 31 回大会四国企画シンポジウム資料集『地域福祉の遍路道　四国・こんぴら地域福祉セミナーに学ぶ』2017.６pp.51.

５．競争的資金の獲得

・科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号：15K03938、平成 27 年度-30 年度）
　研究代表者：山村靖彦（単独）
　研究課題名：「社会的孤立の防止に資する社会関係資本の形成と評価：弱いつながりに関する実証的研究」

・科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号：15K03939、平成 27 年度-29 年度）
　研究代表者：田中きよむ
　研究分担者：玉里恵美子、水谷利亮、山村靖彦、霜田博史
　研究課題名：「『小さな拠点』を軸とする共生型地域づくり―その形成要因の分析と持続モデルの構築―」

・高知県立大学戦略的研究推進プロジェクト（平成 29 年度-30 年度）
　研究代表者：飯高伸吾
　研究分担者：吉川孝、宇都宮千穂、鈴木康郎、山村靖彦、島田郁子
　研究課題名：「中山間地域における生活圏の確保に向けてー土佐郡大川村における地域創造」

６．その他

・コメント：山村靖彦「地域における『声をかけ合う存在』の大切さ」『日本地域福祉学会第 31 回大会　四国企画セッション実践資料集』2107.６

○教　育　活　動

１．学部担当科目

・地域福祉論Ⅰ　・地域福祉論Ⅱ
・コミュニティソーシャルワーク　・地域福祉活動
・福祉ＮＰＯ論　・相談援助実習指導
・相談援助実習　・福祉研究演習Ⅰ
・福祉研究演習Ⅱ　・福祉研究演習Ⅲ

２．大学院担当科目

・研究方法論Ⅱ

・地域福祉ソーシャルワーク演習

※副指導教員としてＭ１生３名、Ｍ２生１名の計４名を担当した。

３．学生教育活動等

・立志社中「活輝創生委員会」顧問

・男子バレーボール部顧問

○委 員 会 活 動

１．全学

・広報委員会（大学案内・オープンキャンパス等専門委員会）

２．学部

・広報委員会（委員長）、　・学生委員会

・２回生学年担当

３．大学院

・学務委員（委員長）

○社 会 的 活 動

１．委員等

・高知市地域福祉計画推進協議会（委員長）

・高知県地域生活定着支援センタープロポーザル審査委員会委員（委員長）

・高知市社会福祉協議会評議員選定委員会（委員長）

・南国市地域福祉計画策定委員会（副委員長）

・第 15 回四国地域福祉セミナーin 八幡浜市実行副委員長（副委員長）

・高知市健康福祉センター等指定管理者審査委員会委員

・日本地域福祉学会地方委員

・日本地域福祉学会第 31 回大会実行委員

・高知県共同募金会評議員

・高知県共同募金会配分委員

・高知県自立支援協議会　相談支援体制づくり部会委員

・南国市社会福祉協議会評議員選定委員会

・南国ネットワーク連絡会委員

・高知市社会福祉協議会「地域支援事例検討会」スーパーバイザー

・日本コーヒー文化学会地方特別委員

・高知県生活支援コーディネーター指導者養成研修委員

・高知県効率大学生活協同組合総代

２．講演、その他

・平成 29 年度高知市地区社会福祉協議会研修会（４月 20 日）

講演「人が地域をつくり　地域が人を育む　『いいとこ発見』」

・日本地域福祉学会第 31 回大会（６月３日）

セッションⅠ「地域の子ども支援―子育ち支援のあり方を問う―」

趣旨説明、コーディネーター

・平成 29 年度高知県介護支援専門員専門研修課程Ⅰ（６月 10 日）

講師：「対人個別援助及び地域援助技術」（３ｈ）

・徳島県立脇町高校出張講義（８月 23 日）

講師:「現代社会における社会福祉の役割―「生きる」を支える、社会を変える」

70 分×２回　対象計 40 名

・第 15 回四国地域福祉セミナーin 八幡浜市　（７月 22 日）

アドバイザー：第３分科会「地域における福祉活動」

・高知県生活支援コーディネーター指導者養成研修（８月 30 日、９月６日）

講義①：「生活支援コーディネーターに期待される機能と役割について」

講義②：「高齢者に係る地域アセスメントの手法について」

講義③：「研修第１部の振り返り」

講義④：「高齢者の生活支援ニーズと生活支援サービスについて」

講義⑤：「研修の振り返りと全体総括」

・高知県社会福祉士会　基礎研修Ⅲ（10 月 28 日）

講師「地域における福祉活動」（講義：90 分、事例検討：60 分、演習：210 分）

・「平成 29 年度四国ブロック市町村社会福祉協議会研究協議会」（12 月 7 日）

コーディネーター「『他人事』を『我が事』にできる地域づくり」

・平成 29 年度高知市地区社会福祉協議会全体研修会（１月 25 日）

アドバイザー・講演「『情報交換会のまとめ』地域共生社会づくりに向けて」

○総合評価及び今後の課題

教育活動では、例年どおり講義面においては特に、①「資料の作成」と②「視聴覚教材の利用」において工夫を重ねた。資料は毎回Ａ４サイズで概ね４枚用意し、テキストの補足や関連する新聞等の記事、統計等を掲載した。視聴覚教材については、主にテレビのドキュメント番組等を編集し、視聴したあとの解説および学生によるディスカッションを通じて考察を深めた。次年度は上記に加え、③「話し方」について具体的な工夫を凝らしたいと考えている。また、ゼミでは、３回生６名、４回生６名の計 12 名を担当した。卒論指導では、学生個人の状況に合わせ、きめ細かく指導するように努めたことで、個々の論文の質を高めることができたと思っている。本年度に担当した学生は、研究指導、就職支援等を通じて思い出深い学生たちであった。

大学院での講義（「研究方法論Ⅱ」、「地域福祉ソーシャルワーク演習」）ならびに副指導教員（４名担当）としては、もう少し時間的な余裕をもって取り組むことができたら良かったと思う。

学生活動の顧問としては、立志社中「活輝」と男子バレーボール部を担った。「域学共生」や学生の主体的活動のサポートができた意義は大きいと考えるが、本年度も学生の成長が感じとれた年度であったので、そのことが最も嬉しく感じている。

委員会等の活動は全学１つ、学部３つ、大学院１つを担った。業務量の多さと責任の重さとの「戦い」ではあったが、大過なく終了でき安堵している。

社会的活動については、本年度も外部委員や講演等の依頼が多い年であった。大学の一員としてこれらを引き受け還元することで、本学内の活性化にも寄与できるのではないかと思い担ってきた。

最後になるが、本年度限りで本学を退職することになった。自分なりに精一杯努めてきたつもりではあるが、至らぬ点も多かったことについては、先生方、事務の方々にお詫び申し上げたい。18 期生ゼミ生と学年担当であった 19 期生を最後まで見届けることができなかったことが、一番悔やまれ心残りである。

５年間、ありがとうございました。

井 上　健 朗

Kenro INOUE

○研 究 活 動

1. 論文

①井上健朗小原弘子隅田有公子 吉岡理枝 森下安子 池田光徳(2017)「自治体地域ケア会議評価指標の作成の試み」『高知県立大学紀要』高知県立大学社会福祉学部編No.67 pp17-25

２．著書

① 井上健朗（2017）日本社会福祉士会・日本医療社会福祉協会編集『保健医療ソーシャルワーク: アドバンスト実践のために』「第５章 ソーシャルワーカー組織のチームビルドとマネジメント」中央法規出 ISBN：480585524X

②井上健朗(2017) 救急認定ソーシャルワーカー認定機構研修テキスト作成委員会編集『救急患者支援 地域につなぐ-ソーシャルワーク―救急認定ソーシャルワーカー標準テキスト』「救急医療におけるソーシャルワーカーの役割」へるす出版 ISBN:4892699365

３.その他

研究報告

1) 井上健朗「医療ソーシャルワーク領域での専門職ポートフォリオの活用-作成ワークショップ・プログラムの報告」
2) 井上健朗小原弘子隅田有公子 吉岡理枝 森下安子 池田光徳『自治体「地域ケア会議」評価指標の作成の試み』第２２回日本在宅ケア学会（北海道）
3) 小原弘子 井上健朗 隅田有公子 吉岡理枝 森下安子 池田光徳『自治体「地域ケア会議」運営ガイドラインの作成』第２２回日本在宅ケア学会（北海道）
4) 和田真奈美 川上めぐみ 井上健朗 鈴木裕介 他「退院支援加算１算定へ向けての取り組みの現状と課題-質的評価指標の開発」第３７回日本医療社会福祉事業学会（北海道）
5) 藤井しのぶ　井上健朗『発達障害を持つ児童に対する復学を支援するためのカンファレンスに対する意識調査～医療機関と学校の比較から～　』

活動報告

1)第３７回日本医療社会福祉事業学会（北海道）『シンポジウム「MSW による交通事故被害者支援」』シンポジスト

○教 育 活 動

１．学部教育

「社会福祉入門演習」「相談援助演習」「相談援助実習指導Ⅰ」「相談援助実習指導Ⅱ」「医療福祉論」「社会福祉入門演習」「社会福祉基礎演習」「医療保健サービス論」「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」「福祉研究演習Ⅲ」「チーム・アプローチ」「スーパービジョン」担当

２．他学部・他大学

１）「中山間地域等訪問看護師育成プログラム」（全学事業　寄付講座）

２）高知学園短期大学保健師養成コース学生との共同授業

３．　BP　職業実践力育成ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ　講座

平成 28 年度「多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座」
「チーム・アプローチ 1」「チーム・アプローチⅡ」

４． リカレント・一般向け教育

１）高知県社会福祉協議会　福祉サービス第三者委員ブロック別研修会　講師
「当事者・家族からの苦情をどのように受け止め、どう活かしていくか」

２）高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座「人を支援するためのアイデア-理論を基盤としたソーシャルワーク実践-」講師

５． 現任者教育

1)日本医療社会福祉協会主催　ソーシャルワーカースキルアップ研修「交通事故被害者教育支援アドバンス研修」研修会運営及び講師（10 月北海道・11 月愛知・1 月東京・2 月大阪・12 月熊本　５会場開催）

2)香川県ソーシャルワーカー協会主催　研修　講師「専門職が行う研究発表の意義」香川（香川労災病院）平成 29 年 7 月

3)退院支援推進事業「退院支援研修」　田野病院　大井田病院　平成 29 年 8 月ー平成 30 年 3 月

4)日本医療マネジメント学会「医療福祉連携士講習会」講師　平成 29 年 10 月

5)日本臨床救急医学会・日本医療社会福祉学会共催「救急認定ソーシャルワーカー認定研修」講師・ファシリテーター平成 30 年１月

6) 高知県医療ソーシャルワーカー協会専門研修「事例検討会」講師平成 29 年 11 月

7) 日本赤十字社中四国 MSW 研修会　講師　平成 29 年 11 月

8) 高知県幡多保健所　多職種連携研修「退院支援における情報交換」講師　平成 29 年 12 月

9) 高知中央西保健所　多職種連携研修「退院支援の仕組み作り」平成 30 年１月

10) 高知県社会福祉協議会　現認者研修「相談面接」　講師　平成 29 年 10 月

11) 認定救急医療ソ-シャルワーカー認定機構　アドバンス研修　パネルディスカッション　座長　平成 30 年 3 月

12) 高知県医療ソーシャルワーカー協会総会大会　専門研修「事例検討会」講師　平成 30 年 3 月

○委 員 会 活 動

- 健康長寿センター委員　　リカレントセミナー・体験型セミナー開催
- 高知県立大学　高知医療センター連携事業　委員
- 県立大学・医療センター社会福祉連携部会 12 回開催

○社 会 的 活 動

１．委員等

①公益法人社団日本医療社会福祉協会　交通事故被害者生活支援教育研修委員
②認定救急医療ソーシャルワーカー認定機構　研修委員
③高知県立大学健康長寿センター土佐市連携事業地域ケア会議担当メンバー
④高知県委託事業「退院支援推進事業」

○総 合 評 価 及 び 今 後 の 課 題

１．教育活動について

引き続き３回生の学年担当教員として、学生生活のサポートを行った。ゼミ活動の一環

として高知学園短期大学保健師養成コースとの合同授業を実施した。学生からは、他大学や学部との学生との交流や意見交換を行い、チーム・アプローチや専門性について深く考える機会となったとの評価を得た。

２．研究活動について

本学プロジェクトである土佐市との地域ケア会議の活用に関する連携事業のまとめとして、活動の内容や成果物について、プロジェクトメンバー共同での研究発表を日本自宅ケア学会において報告した。引き続き（公益法人社団）日本医療社会福祉協会の「交通事故被害者生活支援プロジェクト」のコアメンバーとして活動した。本プロジェクトでは、医療福祉領域の専門職を対象とした研修事業として、JMOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)の提供する E-ラーニング・フォーマットを活用した研修プログラムを稼働させ、その成果や意義について日本医療社会事業学会においてシンポジウムを開催した。

３．社会活動について

昨年に引き続き、公益社団法人日本医療社会福祉協会での活動として「交通事故被害者支援」などのテーマで全国レベルでのソーシャルワーク現任者の教育研修の活動を行った。また高知県、香川県などの医療ソーシャルワーカー協会また日本赤十字社などからの研修依頼を受け、事例検討や組織の中における実践などの学びをソーシャルワーカーと共に進めることができた。また高知県より委託事業であり本学プロジェクトである「退院支援推進事業」に参加し２つの医療機関と共同して、退院支援推進に関する研修活動を行なった。本研修は退院後の安定した生活を見据えた支援の質を確保するための研修事業として実施された。

河 内　康 文

Yasufumi KOCHI

○研　究　活　動

１．論　文

宮上多加子・河内康文・田中眞希「介護福祉士および准看護師の経験による学びと「仕事の信念」に関する研究」『高知県立大学紀要』67，pp.1-16．2018 年 3 月．

２．著書（分担執筆）

河内康文「社会福祉ニーズと把握方法」西村昇・日開野博・山下正國　編著,『社会福祉概論―その基礎学習のために』，中央法規，2017 年 4 月 1 日，pp.54-65.

３．競争的資金の獲得

（１）科学研究費基盤研究（C）［平成 28 年度～平成 30 年度］「EPA 介護福祉士の介護現場における経験からの学びに関する研究」（代表者：河内康文）

（２）科学研究費基盤研究（C）［平成 29 年度～平成 31 年度］「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」（代表者：宮上多加子）（研究分担者）

○教　育　活　動

１．介護の基本Ⅰ　２．介護の基本Ⅲ　３．コミュニケーション技術
４．介護総合演習Ⅰ　５．介護総合演習Ⅱ　６．介護総合演習Ⅲ
７．介護実習Ⅰ　８．介護実習Ⅱ　９．介護実習Ⅲ
10．障害の理解Ⅱ　11．社会福祉専門演習Ⅰ　12．社会福祉専門演習Ⅱ
13．社会福祉専門演習Ⅲ　14．社会福祉専門演習Ⅳ　15．地域学実習Ⅰ
16．介護論（健康栄養学部 3 コマ担当）
17．介護等体験（教職課程　事前指導　1 コマ担当）

○委 員 会 活 動

１．学部

（１）災害対策　（２）広報委員　（３）介護人材確保事業部会委員長　（４）国際委員

○社 会 的 活 動

１.委員等

（１）いの町社会福祉協議会成年後見運営委員

（２）南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員

（３）外国人介護福祉士候補者学習支援事業 作業部会委員

（４）高知県介護人材確保推進協議会委員

２．講演等

（１）外国人介護福祉士候補者学習支援事業集合研修講師（東京・大阪：2017 年 8 月～2017

年 12 月　　計 10 日）

（２）高校生と保護者のための公開講座　講師（2017 年 7 月 29 日,10 月 28 日）

（３）高知県キャリア教育推進事業高校生講座（高知南高等学校：2017 年 10 月 20 日，山田高等学校:2017 年 10 月 27 日,高知東高等学校:2017 年 11 月 2 日,清水高等学校:2017 年 11 月 10 日,安芸高等学校:2018 年 2 月 15 日,中村高等学校:2018 年 2 月 20 日）

（４）高知県社会福祉協議会　新人職員研修ステップ 1　講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」（両日高知市：2018 年 5 月 31 日,6 月 22 日）

（５）高知県社会福祉協議会　新人職員研修ステップ 2　講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」(香南市:2018 年 10 月 12 日,高知市:11 月 14 日，四万十市：12 月 5 日）

（６）高知県社会福祉協議会　福祉人材確保支援セミナー　講師「福祉事業所の人材確保力を強化する」（高知市：2017 年 11 月 20 日）

（７）高知県社会福祉協議会　人材育成推進セミナー　講師「人材育成研究から育成のポイントを学ぶ」（高知市：2018 年 3 月 5 日）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

担当科目については，タブレット端末等を用いて，視覚的にわかりやすい授業になるように心がけた。加えて，ゲストスピーカーによる講義をしたり，実際に福祉現場を体験したりして，理論と実際が結びつきやすいように意識した。

また，担当授業科目のほとんどは，介護福祉士国家試験の科目である。そのため，授業は受験対策にも対応できるように意識をした．授業評価を見てみると，これらの取り組みは受講生から概ね支持をされていた．この取り組みを継続するとともに，プレゼンテーションやディスカッションなど，内容をより充実させていきたいと考えている．

２．研究活動について

本年度は，外国人介護福祉士候補者が介護現場でどのような経験をしているのかを，質的調査結果としてまとめ学会誌に投稿をした（現在，査読中)。

科学研究費の研究（代表者）としては，外国人介護福祉士の介護現場での経験についてインタビュー調査を実施し，分析中である．次年度は，この結果を踏まえ，学会での発表や論文の投稿を計画している．

３．社会活動について

科学研究費で取り組んでいる研究成果を反映する場として，外国人介護福祉士候補者を対象とした学習支援の企画・講師として活動した。また，同じく科学研究費での研究結果を踏まえ，高知県社会福祉協議会で「新人職員研修」「福祉人材確保セミナー」「人材育成推進セミナー」で講師をする機会が得られた．

いの町社会福祉協議会成年後見運営委員や南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員，高知県介護人材確保推進協議会委を継続しつつ，高知県の福祉介護の課題に対して，少しでも貢献ができるように取り組んでいきたい。

遠 山　真 世

Masayo TOHYAMA

○研　究　活　動

（１）論文（報告）

・遠山真世（2018）「障害者就労継続支援 B 型事業所における就労支援の現状と課題(2)―Z 県内 2 事業所の質的調査から」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』66.

（２）学会発表

・遠山真世（2018）「障害者の就労支援における現状と課題②―就労継続支援 B 型事業所のインタビュー調査から」社会政策学会中四国部会（於：高知県立大学）.

（３）競争的資金の獲得

・科学研究費補助金（若手研究(B)，課題番号 26780314，平成 26 年度－平成 29 年度）
研究代表者：遠山真世
研究課題名：「重度障害者の就労支援システムの再構築に向けた実証研究」

○教　育　活　動

（１）担当科目

・相談援助演習Ⅰ・相談援助演習Ⅱ・相談援助演習Ⅳ
・相談援助実習指導Ⅰ・相談援助実習指導Ⅱ・相談援助実習指導Ⅲ・相談援助実習
・福祉研究演習Ⅰ・福祉研究演習Ⅱ・福祉研究演習Ⅲ
・障害者福祉論・社会調査の基礎（8 回）・就労支援サービス（4 回）

（２）学生支援

・17 期生学年担当・池吹奏楽団顧問

○委 員 会 活 動

（１）全学

・学生委員会・健康管理センター運営委員会

（２）学部

・実習委員会・学生委員会（委員長）・国試対策支援委員会（委員長）
・福祉実習支援室長

○社 会 的 活 動

・高知県要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅱ」担当（9 月 9 日）
主催：高知県地域福祉部　障害保健福祉課
　　特定非営利活動法人　要約筆記　高知・やまもも
場所：高知市障害者福祉センター
・高知県社会福祉士会　基礎研修Ⅱ　講師「実践事例演習Ⅰ」担当（9 月 23 日）

主催：高知県社会福祉士会
場所：高知県立大学 池キャンパス
・高知県隣保館職員等研修事業　人権課題別研修Ⅱ　講師
「障害のある人との相談支援」担当（12 月 8 日）
場所：朝倉総合市民会館
・高知県立高知丸の内高等学校　模擬授業　講師
「『障害』を知り、新たな世界をひろげよう」（12 月 11 日）
・高知県社会福祉士会理事（国家試験対策委員会）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

科学研究費補助金を受け、重度障害者の雇用・就労における問題整理と課題抽出に取り組んできた。本年度は、昨年度実施した障害者就労継続支援 B 型事業所 2 か所へのインタビュー調査の分析結果をまとめ、論文（報告）を執筆するとともに、社会政策学会中四国部会で発表を行った。次年度は、引き続き B 型事業所へのインタビュー調査を実施し、これまでの研究成果をもとに B 型事業所を対象としたアンケート調査の企画も進めていきたい。

（２）教育活動について

講義では、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。課題や小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。演習では、グループでのディスカッションや発表、ロールプレイを取り入れ、自ら考えたり意見を出し合ったりして議論を深める機会を多く設けた。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深めたりできるよう努めた。今後も引き続き多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

4 回生の学年担当としては、とくに国試対策および就職活動に関する支援に力を入れた。卒業研究も含め、学生の悩みや希望を聞き、気もちを整理し方向性を見出すことができるようサポートした。今後もゼミ学生や実習担当学生を中心に、ひとりひとりと丁寧に関わり成長を支えるとともに、ゼミ活動や実習指導に加え、就職活動や国家試験に向けた支援も行っていきたい。

（３）委員会活動・社会活動等について

学生委員長として 1～4 回生の学年担当教員と連携し、学生支援に携わった。国試対策支援委員会では、過去問を解く機会を増やしたり、個別面談を通した相談や学習指導を強化したりした。就職委員会では、ワクワク Work!!との連携を図り、学生が必要な情報を探しやすくなるよう、また、内定報告がしやすくなるよう工夫した。

学外では高知県要約筆記者養成講座・高知県社会福祉士会基礎研修・隣保館職員等研修で講師を担当し、地域の人材育成に携わることができた。また、高校生に対する模擬授業も担当し、「障害」をテーマとしつつ、福祉が身近であることや、大学で福祉を学ぶことのおもしろさを伝えることができたのではないかと考える。

鳩 間　亜 紀 子

Akiko HATOMA

○ 研 究 活 動

［論文］

・ 鳩間亜紀子（2017）「ブール代数アプローチによる訪問介護サービスのアウトカムの統合」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』67，125-131.

［競争的資金等の獲得状況］

・ 日本学術振興会平成 29 年度科学研究費助成事業，基盤研究（C），「ホームヘルパーが生活援助サービスのなかで用いる援助方略の可視化」研究代表者
・ （受託研究）「居宅サービスの連携体制によるサービス提供の試行的実施に関するヒアリング調査」（厚生労働省平成29年度老人保健増進等事業在宅高齢者を支える介護人材のあり方等についての調査研究事業の一部）

○ 教 育 活 動

［学部科目］

・ 社会福祉入門演習（オムニバス）
・ 社会福祉基礎演習（オムニバス）
・ 高齢者福祉論Ⅰ
・ ケアプラン策定法
・ 社会調査の基礎（オムニバス）
・ 相談援助演習Ⅰ，相談援助演習Ⅱ，相談援助演習Ⅳ
・ 相談援助実習指導Ⅰ，相談援助実習指導Ⅱ
・ 相談援助実習指導Ⅲ
・ 相談援助実習
・ 福祉研究演習Ⅰ，福祉研究演習Ⅱ
・ 福祉研究演習Ⅲ，福祉研究演習Ⅳ

［その他］

・ 平成 29 年度多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座（BP 講座）「高齢者福祉の現状と実践のための講座」（2018 年 1 月 20 日，2 月 3 日）

○ 委 員 会 活 動

［全学］

・ 入試実施委員会

［学部］

・ 広報委員会
・ 教務委員会
・ キャリア支援部会
・ 実習委員会

○ 社会的活動

・ 日本介護福祉学会評議員

○ 総合評価及び今後の課題

「高齢者福祉論Ⅰ」では，これまで授業内容と方法の見直しを継続的に行ってきたが，アクティブラーニングを意識した授業の完成度をある程度整えることができたと思われる．河内康文講師からのご要請もあり，授業を公開することもできた．第三者的な視点で授業を確認できたこと，教員間で授業方法や学生の傾向など意見交換ができたことは，大変貴重だった．また今年度は「社会調査の基礎」や「相談援助実習」での地域福祉分野の担当等，新たに担当した科目等が複数あった．授業準備の負担はあったものの，視野が広がるとともに授業方法を意識する機会となり，よい刺激となった．

研究活動については，厚生労働省老健事業の一部を受託し，研究調査事業に携わることができた．力不足もあり委員会全体に貢献することは難しかったが，大学事務局に相談しながら手続きを進めつつ，受託した研究事業についても完遂することができた．三好弥生講師に法人へのヒアリング調査の同行にご協力いただき，全国の熱意ある法人を見学できたこともありがたい経験だった．一方で，自分の研究については，遅れている点が課題である．家庭の都合や体調を壊したこともあり，論文執筆をあきらめざるを得なかった．研究計画を見直しつつ，論文の発表を継続できるよう努力したい．

福 間　隆 康

Takayasu FUKUMA

○研　究　活　動

（１）論　文

１．福間隆康「中間的就労の活用による生活困窮者雇用拡大の方策―就労支援組織の実践と効果の検証」『生協総研賞・第 14 回助成事業研究論文集』pp. 26-45, 2018 年２月。

２．福間隆康「知的障がい者の動機づけと生産性向上に関する事例研究―職務設計を中心に」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第 67 巻, 161-176 頁, 2018 年３月。

（２）その他

１．福間隆康「農業分野での障がい者就労支援の取り組み―岡山県内の就労継続支援Ａ型事業所を対象とした質的調査から」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第 49 回広島大会（広島国際大学）, 2017 年７月。

２．福間隆康「障がい者の動機づけと生産性向上に関する研究―就労継続支援Ａ型事業所を対象とした質的調査から」第 25 回職業リハビリテーション研究・実践発表会（東京ビッグサイト）, 2017 年 11 月。

（３）競争的資金の獲得状況

１．平成 29 年度公益財団法人ひと・健康・未来研究財団研究助成金「精神障がい者の就労継続に関する研究―自己効力感に着目して」（共同研究）

○教　育　活　動

１．福祉対象入門
２．福祉援助入門
３．福祉サービスの組織と経営
４．社会福祉専門演習Ⅰ
５．社会福祉専門演習Ⅱ
６．社会福祉専門演習Ⅲ
７．社会福祉専門演習Ⅳ
８．相談援助演習Ⅰ
９．相談援助演習Ⅱ
10．相談援助演習Ⅳ
11．相談援助実習指導Ⅰ
12．相談援助実習指導Ⅱ
13．相談援助実習指導Ⅲ
14．相談援助実習
15．地域学実習Ⅰ

○委 員 会 活 動

（１）全　学

１．地域教育研究センター生涯学習部会委員
２．職業実践力育成プログラム（ＢＰ）実施委員会委員
３．入試実施委員会委員
４．センター試験実施委員会委員

（２）学　部
１．介護人材確保事業部会委員

○社 会 的 活 動

１．特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク地域連携事業部委員

○総合評価及び今後の課題

１．研究活動

学術研究助成基金助成金（基盤研究(Ｃ)）の研究代表者として，研究成果の一部を学会報告するとともに，研究紀要に掲載することができた。また，生協総研賞・助成事業助成金の研究代表者として，論文を生協総研賞・第 14 回助成事業研究論文集に掲載することができた。次年度は，科学研究費補助金（若手研究(Ｂ)）の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し，研究成果の一部を学会で報告するとともに，学術雑誌に投稿する予定である。

２．教育活動

授業では，アクティブ・ラーニングや協働学習に重点を置き，学生に主体性をもって答えのない問題に答えを見いだしていくよう努めた。また，ＩＣＴを活用した授業を実施し，学生により発展した疑問を考えさせたり，自分の意見を発表させたりするよう思考の可視化を行った。次年度は，課題解決型学習や学外での実践活動を取り入れ，学生の主体性を引き出せる産学共同授業を実施していきたい。

３．委員会活動

本年度は，職業実践力育成プログラム（ＢＰ）実施委員会委員として，履修証明プログラム「多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座」を円滑に実施することができた。入試実施委員会委員およびセンター試験実施委員会委員として，入試業務を円滑に行うことができた。介護人材確保事業部会委員として，高校生と保護者のための公開講座において講義を行った。

４．社会的活動

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク主催の第４回生活困窮者自立支援全国交流大会第２分科会において，コメンテーターを務めた。また，特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク主催の定例講演会で講演を行い，参加者とのつながりをつくることができた。今後は，高知県内の企業等との共同研究や産学官民の交流の場への参加等を通じ，産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

稲 垣　佳 代

Kayo INAGAKI

○研　究　活　動

（１）論 文・報 告 書・著 書・発 表

・なし

（２）学内外の競争的資金の獲得状況

・科学研究費補助金（若手研究(B)、課題番号 26780315、平成 26 年度―30 年度）
　研究代表者：稲垣佳代
　研究課題名：「精神保健福祉士がもつ就労イメージの変容プロセスと支援への影響に関する研究」

○教　育　活　動

（１）講義

・精神保健福祉援助技術各論
・精神保健福祉援助演習
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
・就労支援サービス

（２）講義以外

１．国家試験受験生への学習支援
２．太鼓部顧問

○委 員 会 活 動

・実習委員会
・入試委員会
・教務委員会
・キャリア支援委員会
・国試対策支援委員会

○社 会 的 活 動

・なし

○総合評価と今後の課題

（１）教育活動について

今年度の教育活動については、精神保健福祉士養成に係る実習（指導）・演習科目に焦点を当てたい。

精神保健福祉士養成に係る実習（指導）・演習科目は、精神・社会福祉コース（以下、コース）の教員が担当しており、現場実習をはさんで実習前後に組まれている。現場実習に出る前の学習では、学生が演習課題に取り組むことを通して、大学の講義で習得した「価値」「倫理」「知識」「技術」をどのように応用し、具現化していくか疑似体験する。まだ現場で精神保健福祉士として働いた経験がない学生は、自分が演習事例に登場する精神保健福祉士だったら何をどう捉え、どう行動するのか考えることが求められる。

演習課題はテーマごとに担当を決めて準備しているが、授業にはコース全教員が参加し、学生の課題への取り組みについて講評を行う。そのため、各教員がどのようなことを意図して演習課題を設定しているのか、どう演習を展開させるのか、学生の取り組みに対してどのようにフィードバックして学びの深化を促すのかなど、私自身が教員として学ばせていただく側面も非常に大きい。また、現場実習後の学習では、学生が実習中に印象に残った場面を切り出して事例検討を行っている。事例検討は、進行など学生が主体となって行い、教員は事例検討を通して感じた学生の実践課題についてフィードバックを行う。そこでも、教員は学生の向こう側に、学生が将来現場へ出たときにかかわる利用者をも意識しながらフィードバックしている。

このように、実習（指導）・演習に携わることは、他の教員が何を意図しながら学生への教育を行っているかを私自身が学ぶ機会となっている。先生方と教育に携わることができる幸運を嬉しく思う一方で、自分の未熟さや不勉強を痛感することも多い。私自身の課題が山積みであることを痛感しながらも、自分自身の教員としての力量が向上するよう今後も精進したい。

（２）研究活動について

今年度は、科研費を受けている研究テーマをもとにソーシャルワークに関わる文献やソーシャルワーカーの成長にかかわる文献を中心にレビューを行った。今年度から新たに「就労支援サービス」を担当することになったこともあり、授業準備のなかでわが国の労働に係る課題について整理していくなかで、自分の問題意識の整理や研究テーマの位置づけを検討することができた。一方、レビュー等を進めるなかで自分の問題意識と研究テーマがずれていることを認識し、テーマを再検討する必要性を感じている。また、今後取り組んでいく研究の全体像についても引き続き検討する必要がある。

（３）今後の課題

4 月に育児休業から復帰し、学内業務等についてもさまざまな配慮やサポートをいただきながら、何とか１年を終えることができたという印象である。来年度は、科研費の最終年度となるため、タイムマネジメントを意識し、教育や学内業務だけでなく研究にも時間を取りながら研究を進めたい。

上 田　恵 理 子

Eriko　UEDA

○研 究 活 動

1．論文

・ 上田恵理子 ・長澤紀美子 ・中嶌　洋 ・西川愛海・村田美穂（2017）「避難所運営訓練の影響と今日的課題―防災意識，役割付与，エリア配置に焦点を当てて―」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』67，117-124.

・ 中嶌　洋・上田恵理子・西川愛海・村田美穂（2017）「学生における防災訓練後の意識変化の諸相―肯定的な意識変化と否定的な意識変化との比較―」『福祉文化研究』27，71-83.

2．学会発表

・ 荒川 泰士，宮上 多加子，上田 恵理子：訪問介護員を対象とした KOMI ケア理論研修の効果，ナイチンゲール KOMI ケア学会第 8 回学術集会（大阪），2017 年 6 月.

・ 上田恵理子，中嶌　洋，西川愛海，村田美穂：避難所運営訓練の影響と課題―高知県立大学社会福祉学部を中心とした取り組みから―，第 25 回日本介護福祉学会（岩手），2017 年 10 月.

・ 中嶌　洋，上田恵理子，西川愛海，村田美穂：高知県立大学社会福祉学部生における防災訓練後の意識変化の諸相，第 25 回日本介護福祉学会（岩手），2017 年 10 月.

○教 育 活 動

（1）担当教目

・生活支援技術Ⅰ
・生活支援技術Ⅱ
・生活支援技術Ⅲ
・介護総合演習Ⅰ
・介護総合演習Ⅱ
・介護実習Ⅰ
・介護実習Ⅱ
・介護実習Ⅲ
・認知症の理解Ⅱ
・高齢者福祉論Ⅱ

（2）クラブ活動

・映像製作サークル「CUBE」

○委 員 会 活 動

・広報委員会
・学部実習委員会
・学生委員会
・災害対策プロジェクト災害対策連携部会
・健康長寿委員会

・親交会委員

〇社 会 的 活 動

・高知工科大学：介護等体験事前指導：非常勤講師
・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座：講師「介護記録の目的と書き方」

〇総 合 評 価 及 び 今 後 の 課 題

１．教育活動について

（１）介護福祉士養成課程について

講義科目では，前年度と同様，生活支援技術や介護総合演習を担当した．今年度の新たな科目としては，「認知症の理解Ⅱ」をオムニバスで担当した．講義だけではなく，グループワークや調べ学習を取り入れることで主体的な学びをできるように心がけた．

介護実習では，介護実習Ⅰと介護実習Ⅱの巡回や報告会の指導等を行った．

（２）学年担当について

昨年度に引き続き，19 期生の学年担当として学生支援を行った．前期に個別面談や授業料免除の面談を行い，個々の状況を把握した．その後は，学生の状況に応じて個別面談を行ったり，相談を受けたりしながら学生対応をした．大きなトラブルなく，無事に一年を終えられた．

２．研究活動について

防災委員の先生方との共同研究活動が主な一年であった．年々研究を重ねていくうちに，委員会での活動も活発になり，結果，互いに良い影響があったと思われる．

３．その他

この三年間，沢山の経験や体験をさせてもらった．至らない点が多く，ご迷惑をおかけしたことも多かったが，学生や他の先生方からのご支援があり，成長できた.この場を借りて感謝申し上げます.

片 岡　妙 子

Taeko KATAOKA

○研　究　活　動

1．論文

片岡妙子（2018）「介護職による医療的ケア実施に関する文献レビュー」」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』

中嶌洋・片岡妙子（2018）「大学１回生における体験学習の効果-バスハイク・障害者スポーツ大会・留学生交流会を中心に-」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』

2．学会発表

三好弥生・片岡妙子・田中眞希：終末期における食事困難事例の類型化の試み，第 24 回日本介護福祉教育学会（埼玉）2018 年 2 月

○教　育　活　動

・生活支援技術Ⅰ
・介護総合演習Ⅰ
・介護総合演習Ⅱ
・介護実習Ⅰ
・介護実習Ⅱ
・介護実習Ⅲ
・認知症の理解
・医療的ケアⅠ
・医療的ケアⅡ
・介護過程Ⅳ
・社会福祉基礎演習
・社会福祉入門演習

○委 員 会 活 動

・学部実習委員
・学部健康長寿センター委員
・学部入試委員
・学部学生委員会（20 期生学年担当）
・学部国際交流員会

○社 会 的 活 動

1．学外講師等

・健康長寿体験型セミナー講師「地域で取り組む健康づくりと介護予防」佐川町健康福祉センター，2017 年 12 月 6 日

2．平成 29 年度　高知県介護職員等喀痰吸引等研修事業

指導看護師研修（7 月 22 日：高知県福祉交流プラザ）

介護職員研修（8 月 28 日～9 月 9 日：高知県福祉交流プラザ）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

（１）介護福祉士養成課程について

生活支援技術Ⅰと介護総合演習Ⅰを担当し，介護福祉士コースを選択した１回生に対して，支援をうける対象者とその生活について理解できるよう授業を行った．前年度の授業内容や先生方の助言を元に授業を進めたが，生活支援技術Ⅰでは，学期末評価の内容から教員の意図することが学生に十分伝わっていないと感じられることがあったため，次年度は教授方法を検討していきたい．

介護実習ではⅠ～Ⅲを担当し，学内での学びと実習における学生の体験が結び付けられるよう指導を行った．介護実習Ⅲにおいては，今年度より他の教員と共に介護過程の授業を担当し始めた段階であり，学生が行う担当利用者への介護過程の展開に関する指導が十分に行えなかった．また，今年度初めて他の教員からサポートを受けながら介護実習Ⅰの準備・調整を行った．次年度は実習Ⅱを担当し，学生がスムーズに実習の準備・実施・振り返りができるよう支援していきたい．

（２）学年担当について

今年度より，中嶌先生と１回生（20 期生）の学年担当となった．前年度３月より学年担当教員と協力して授業計画及び各行事内容を検討し準備を進めたため，４月当初よりスムーズに学年担当業務が行えたと感じている．また，学生全員の傾向を把握するには至っていないが，年間３回の面談や折々の指導を通して，概ね学生の様子が理解できた．

２．研究活動について

今年度は学年担当の中嶌先生と共同研究を行い，高知県立大学紀要社会福祉学部編に投稿した．また，自身の研究テーマと考えている医療的ケアに関する文献レビューを行った．次年度は，高齢者福祉施設における医療的ケアに関する調査を行い，研究を進めていきたい．

３．委員会活動

委員会活動については，学部健康長寿センター委員として，県内各地域で開催される健康長寿体験型セミナーの認知症に関するブースを担当した．また佐川町において開催されたセミナーでは講師を担当し，高齢の方々が健康を意識する上で知っておくべき課題について，地域住民を対象に講演を行った．今後も機会があれば，地域における健康課題に着目したテーマを地域住民の方とともに考えていきたい．

４．社会活動について

今年度より，高知県介護職員等喀痰吸引等研修事業に参加し，企画会議から研修講師まで担当している．喀痰吸引等研修は，学内で担当している『医療的ケア』の授業と同様の内容であるが，研修対象者は現場の介護職員であり，教育背景や職場経験も多様である．その点に留意しながら研修内容を検討していきたいと考えている．

加 藤　由 衣

Yui KATO

○研 究 活 動

（１）論文・著書

・加藤由衣「省察的実践を促進するスーパービジョン機能の検討－スクールソーシャルワーク実践に特化して－」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第 67 号, 57-71, 2018 年 3 月.

・櫻井慶一・宮﨑正宇編著『福祉施設・学校現場が拓く児童家庭ソーシャルワーク： 子どもとその家族を支援するすべての人に』2017 年 7 月（1 章分担当）

（２）研究会参加

・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（３）競争的資金の獲得状況

・文部科学省科学研究費補助金（若手研究（Ｂ））「省察的実践を志向したスクールソーシャルワーク現任教育方法の研究」（平成 27～29 年度），研究代表者

・文部科学省科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「日本式ソーシャルワーカー教育プログラムの発信－中国・韓国・台湾を中心に－」（平成 28 年～30 年度），研究分担者（研究代表者：中村佐織）

・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ））「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」（平成 27～29 年度），　研究分担者（研究代表者：丸山裕子）

（４）その他

・日本社会福祉士養成校協会編（2017）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2018』中央法規

○教 育 活 動

（１）担当科目

・「相談援助の基盤と専門職」　・「虐待防止論」　・「相談援助実習」
・「相談援助の理論と方法Ⅰ」　・「相談援助演習Ⅲ」　・「相談援助実習指導Ⅰ」
・「相談援助の理論と方法Ⅲ」　・「相談援助演習Ⅳ」　・「相談援助実習指導Ⅱ」

（２）クラブ活動

・バスケットボール部顧問　・ハモ☆いけ顧問　・こどもみらい塾顧問

○委 員 会 活 動

・学部実習委員会　・学部教務委員会　・学部総務・予算委員会
・国試対策支援委員会　・キャリア支援委員会　・入試広報部会

○社 会 的 活 動

（１）学外講師等

・南国市スクールソーシャルワーカー
・学校法人すみれ学園高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）
・高知県福祉研修センター事業　講師「相談援助技術基礎研修」（2017/6/28、7/4）
・高知県社会福祉士会基礎研修Ⅲ　講師「模擬事例検討会（演習）」（2017/9/2）

・要約筆記者養成講座　講師「社会福祉従事者としての専門性」(2017/11/25)
・高知県立大学社会福祉学部リカレント講座　講師「思考しながら実践するソーシャルワークー支援の質を高めるためにー」(2017/12/16)
・高知県立大学職業実践力育成プログラム「多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座ー高齢者ケア力の向上に向けてー」(「高齢者への福祉的支援」担当、2017/12/17)
・高知県隣協人権課題別研修Ⅲ　講師「高知県における子どもの現状と支援ー子ども・家族への相談支援ー」(2018/1/11)
・高知県社会福祉士会基礎研修Ⅱ　講師「実践研究の意義と方法」「実践研究のための記録」「実践評価の方法」(2018/2/24)

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

これまでに引き続き、省察的実践に関する研究を進めた。特に今年度は、スーパービジョン機能にみられる省察の特徴の整理を行い、紀要論文を執筆した。しかし、予定していた調査は計画どおり進めることができなかった。今後は、引き続き省察的実践の理論研究を行いながら、調査研究を計画的に進め、省察的実践を構成する特性を明らかにできるよう取り組んでいきたい。

またエコシステム研究会では、エコシステム理論に基づく実践支援ツールの開発にむけて、理論研究を進めつつ、ソフトウェア開発業者との協議を行ってきた。次年度はツール内容を精緻化しつつ、開発とあわせてツール活用の方法を探究していきたい。

（２）教育活動について

講義・演習では、事例・視聴覚教材の活用やグループワーク等により、学生が実感をもってソーシャルワーク概念を理解できるように取り組んだ。また、意見交換からの授業への導入や、学生同士の相互評価など、学生の主体的な参加と動機づけを高める授業を工夫するとともに、連続性を意識した授業計画を試みた。今後も、学生からのフィードバックをもとに授業内容を改善し、学生の理解を促進できるよう努めていきたい。

実習教育では、福祉実習支援室での学生支援と実習科目での指導に携わった。今年度も、昨年度の成果をふまえつつ、他領域で実習を行う学生同士の意見交換やグループワークにより、ジェネラリストの視点や姿勢が身につくよう意識した。次年度は、特に実習前から実習後までの一連の実習スーパービジョンを意識して、研究と連動させながら教育展開の検討・改善を行っていきたい。また、ソーシャルワークの知識・技術だけでなく、ソーシャルマナーの指導など、実習生に求められる資質や姿勢を高めていくことができるよう、教育内容の改善に取り組んでいきたい。

国家試験対策の支援では､学内模試の実施や個別面談など､年間プログラムの改善し、年間を通して学生の動機づけを高められるよう意識するとともに、福祉実習支援室における支援内容の充実を図った。また個別支援においては、個々の学生の卒業論文や就職活動の状況をふまえて、学習スケジュールを学生と一緒に検討した。今後も学生の受験に対する早期の意識づけ行いながら、全体と個別の状況の把握と支援を心がけ、国家試験合格率の維持・向上に貢献していきたい。

雑 賀　正 彦

Masahiko SAIKA

○研　究　活　動

１．論文

２．学会発表

○教　育　活　動

・ケアマネジメント論
・ケアマネジメント演習
・相談援助実習指導Ⅱ
・相談援助演習Ⅳ

○委 員 会 活 動

・学部実習委員
・学部国家試験対策委員
・学部入試実施委員
・学部広報委員

○社 会 的 活 動

１．学外講師等

・紀美野町保健福祉課等研修　講師　「生活支援体制整備事業について」
紀美野町保健福祉センター，2017 年 12 月 6 日

・介護支援専門員実務研修　講師　「介護保険制度とケアマネジメント」
上富田町文化会館，2017 年 12 月 18 日

・介護支援専門員研修　　講師　「チームマネジメント」
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛，2018 年 1 月 19 日

・田辺圏域医療と介護の連携を進める会　講師「地域包括ケアにおける 3 つの鍵」
田辺市民総合センター，2018 年 2 月 20 日

・介護予防ケアマネジメント　講師　「介護予防プラン策定過程について」
紀美野町総合福祉センター，2018 年 3 月 27 日

平成 29 年度　和歌山県社会福祉士会基礎研修講師
基礎研修Ⅱ（1 月 21 日：県民交流プラザ和歌山ビッグ愛）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

社会福祉士養成課程について

ケアマネジメント論及びケアマネジメント演習を担当し，実務における事例を用いながら理解が促進できるよう授業を行った．

相談援助実習指導及び相談援助演習では、実習後指導であり、実習の場を把握していないため、十分な指導ができなかった．このことについては、来年度の課題とし、教授方法についても検討していきたい．

２．研究活動について

今年度 10 月着任であり、十分な研究活動を行うことができなかった．次年度は，高齢者虐待、中山間地域に関する調査研究、主体性形成についての共同研究を進めていきたい．

３．委員会活動

委員会活動について、入試実施委員としては、入試に伴う準備作業・当日役割・事後業務を担当した．次に、広報委員としては、県内高校の本校への訪問・卒業論文発表会・4 年生を送る会など学部行事等の撮影及びホームページへの掲載を担当した。最後に、国会試験対策委員としては、模試・国試合宿・個別面談を担当した。しかし、十分な役割を遂行できなかったため、来年度は各種委員としてスムーズな対応ができようにしたい．

４．社会活動について

介護保険改正に伴い、地域包括ケアシステムの構築が自治体に求められている。その中で、生活支援体制整備について、自治体職員向けの研修を行った。このことについては、来年度も継続予定である．

また、職能団体での活動として、和歌山県社会福祉士会では、監事・生涯研修委員・地域包括支援センター支援委員として理事会等の会議への参加・研修講師としての活動を行った．次に、和歌山県介護支援専門員協会では、研修部企画員として現任研修及び実務研修の講師・来年度に向けての主任介護支援専門員研修カリキュラムの見直し等を行った．引き続き、来年度も職能団体での活動を行い、実践現場の声を講義・演習に活用したい。

鈴 木　裕 介

Yusuke SUZUKI

○研 究 活 動

・鈴木裕介（2016）「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズと生活満足度の関連」『介護福祉学』23(2)，　128-136.　※2016 年号だが 2017 年発刊

・鈴木裕介（2017）「医療ソーシャルワーカーが行うアドボカシー援助活動の構造」『社会福祉学』58(1)，　26-40.

・鈴木裕介（2018）「医療ソーシャルワーカーが行うアドボカシー実践の対象」『医療社会福祉研究』26，　55-67.

・遠山真世・二本柳覚・鈴木裕介（2018）『これならわかる〈スッキリ図解〉障害者総合支援法改訂版』翔泳社.

○学 会 発 表

・和田真奈美・丁野江里子・井上健朗・鈴木裕介（2017）「退院支援加算 1 算定に向けての取り組みの現状と課題－質的評価指標の開発」日本医療社会福祉協会　第 65 回全国大会

・井上健朗・鈴木裕介（2017）「医療ソーシャルワーク分野での専門職ポートフォリオの活用―作成ワークショップ・プログラムの試作」日本医療社会福祉協会　第 65 回全国大会

○競争的資金の獲得

・科学研究費補助金（若手研究(B)，課題番号: 17K13880，平成 29 年度-31 年度）

研究代表者：鈴木裕介

研究課題名：「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズに対する地域特性を勘案した支援方法」

○教 育 活 動

・医療ソーシャルワーク論

・保健医療サービス

・相談援助演習Ⅲ　　・相談援助演習Ⅳ

・相談援助実習指導Ⅰ・相談援助実習指導Ⅱ

・相談援助実習指導Ⅲ・相談援助実習

・職業実践力育成プログラム（BP）

○委 員 会 活 動

・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会　看護・社会福祉連携部会委員

学部
・学生委員
・実習委員
・情報処理委員
・国試対策支援委員
・17 期生学年担当

○社 会 活 動

（1）委員等
・高知県医療ソーシャルワーカー協会　理事（2016 年 4 月～）
・日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』　査読委員（2018 年 1 月～）

○総合評価と今後の課題

（１）研究活動について

本年度は,新たに科学研究費補助金（若手研究 B)「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズに対する地域特性を勘案した支援方法」を獲得した．現在，市町村と調整しながら調査準備中である．

また,MSW が行うアドボカシー援助を可視化するために，日本医療社会福祉協会全会員にアンケートをした結果を分析中である．

（２）教育活動について

講義は，昨年に引き続きソーシャルワーク理論と実践現場の循環を意識して行った．保健医療サービスも制度紹介に留まらず，制度が制定された背景についてグループディスカッションを行い，制度の基本理念や今後の展開について理解できるように努めた．

実習教育は，実習後教育として実習前と実習後の自身の変化や知識の捉え方について考察し，実習体験の理解を深めた．特に実習報告書にて文章化することによって，実習中の体験を体系的にまとめるように指導した．

（３）委員会活動・社会活動について

日本医療社会福祉協会全国大会において，高知医療センターの医療ソーシャルワーカーとの共同研究の成果について発表した．タイトルは,「退院支援加算１算定に向けての取り組みの現状と課題－質的評価指標の開発」である.発表内容について活発な質疑が行われて関心の高さがうかがえた．現在，高知医療センターの医療ソーシャルワーカーが，同テーマを論文にまとめるサポートを行っている．

学内委員会活動に関しては，相談援助実習のコース助教主担当として円滑な実習が行えるように体制を整えて,実習地と連携をとりながら実習を終えることができた．また，4 回生の学年担当として就職や国試対策等の相談に随時のることができるように体制を整えて，サポートが必要な学生に対して迅速に対応することを心掛けた．

田 中 眞 希

Maki TANAKA

○研 究 活 動

1．論文

・宮上多加子・河内康文・田中眞希(2018)「介護福祉士および准看護師の経験による学びと「仕事の信念」に関する研究」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』67, 1-16.

・田中眞希・宮上多加子(2018)「保育士養成校で学ぶ社会人学生のキャリアと仕事に関する認識」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』67, 147-159.

2．学会発表

・三好弥生・片岡妙子・田中眞希「終末期における食事困難事例の類型化の試み」第 24 回日本介護福祉教育学会発表（埼玉）2018 年 2 月.

○教 育 活 動

・介護の基本Ⅱ
・障害の理解Ⅰ
・高齢者福祉論
・生活支援技術Ⅰ
・生活支援技術Ⅱ
・生活支援技術Ⅲ
・生活支援技術Ⅳ
・介護過程Ⅱ
・介護技術
・介護総合演習Ⅰ
・介護総合演習Ⅱ
・介護総合演習Ⅲ
・介護総合演習Ⅳ
・介護実習Ⅰ
・介護実習Ⅱ
・介護実習Ⅲ

○委 員 会 活 動

・学部総務・予算委員会
・学部実習委員会
・学部学生委員会（18 期生学年担当）
・学部国試対策支援委員会
・学部キャリア支援委員会

○社 会 的 活 動

1．委員等

・社会福祉法人ミレニアム　障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
・高知県立大学同窓会しらさぎ会奨学金担当理事（6 月まで）

2．学外講師等

・平成 29 年度 高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2017 年 5 月 17 日、5 月 24 日）
・平成 29 年度 介護福祉士実習指導者講習会「実習指導の理論と実際」講師（2017 年 11 月 9 日）

・高知県隣保館職員等研修事業「人権課題別研修Ⅲ」講師（2018 年 1 月 11 日）
・平成 29 年度 介護福祉士実習指導者フォローアップ研修「実習生の課題への対応」講師（2018 年 2 月 10 日）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

講義・演習では，事例を用いた説明や視聴覚教材の使用など，学生が主体的に取り組めるように工夫した．また，リアクションペーパーを用いて授業の理解度などを確認し，授業内容や教授方法の改善を図った．学生の主体的な学習へとつながるように心がけたい．

今年度は，介護福祉士国家試験を受験する初年度であり，国試対策委員やコースの教員，学生の意見を聞き，国試対策の環境を整えたつもりであるが，もう少し計画的に取り組む必要があった．次年度以降の課題としたい．

また，介護実習報告会など，新しいカリキュラム内容で取り組む初めてのことへの準備に追われた．特に，介護実習Ⅲ終了後の事例研究においては，手探りでのスタートだったため，非常に労力を要した．しかし，学生が熱心に取り組んでくれたこともあり，学生，教員共に達成感を得ることができる介護福祉実習報告集が完成し，実習指導者からも大変好評であった．

昨年度に引き続き 18 期生の学年担当を行った．井上先生や他の先生方のご助言を得ながら，なんとか務めることができたのではないかと考える．次年度 18 期生は４回生となるため，就職活動などのサポートをしっかりと行っていきたい．

２．研究活動について

昨年度まで行った保育士養成校での調査結果を踏まえ，論文として公表することができた．今年度も科学研究費助成事業の研究分担者として，中堅介護職員や指導的立場の職員に対して調査を行い，結果を分析した．次年度は，これらの分析をさらに進め結果を公表するなど，計画的に進めたいと考えている．

３．社会活動について

今年度は，介護福祉士の実習指導者講習会の講師として，受講生や介護福祉士会とかかわることができた．また，高知県隣保館職員等研修会の講師として，介護福祉分野以外の方々とかかわることができ，福祉を広くとらえるよい機会となった．

玉 利 麻 紀

Maki TAMARI

○研 究 活 動

著書

玉利麻紀 「日本でのヒューマンライブラリーのはじまりー東京大学先端研 中邑研究室，ヒューマンライブラリー導入の経緯と実践.」 坪井健・横田雅弘・工藤和宏編著『ヒューマンライブラリー ―多様性を育む「人を貸し出す図書館」の実践と研究―』明石書店、2018 年 2 月、pp. 12-27.

○教 育 活 動

（１）講義

なし（精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助演習のサポート）

（２）講義以外

・実習支援

精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に備えて、実習の動機と課題、及び、実習計画の作成のための個別指導（サポート）を実施した。

○委 員 会 活 動 等

・学部教務委員　・学部実習委員　・国試対策支援委員　・情報処理委員

○社 会 的 活 動

・東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野 異才発掘プロジェクト ROCKET 編集長（2017 年 9 月末まで）.

○総 合 評 価 及 び 今 後 の 課 題

（１）教育活動について

10 月 1 日から精神･社会福祉コース担当教員に着任した。今年度は精神保健福祉士の実習演習担当教員の資格を取得していないため、精神･社会福祉コースの講義や実習準備には正式な参加ではなく、サポートという形での参加となった。次年度は精神保健福祉士の実習演習担当教員の資格を得る予定だが、担当教員の登録のタイミングが年度途中では難しいため、次年度も同様の参加になると予測される。

一方、次年度は第 21 期生の学年担当や、地域学実習Ⅰ、共通教養科目を担当する予定である。したがって、1 回生を中心とした教育の質向上に努めると共に、学生ひとりひとりと丁寧に関わり、成長を支えていきたいと考えている。

（２）研究活動について

2012 年 3 月～2017 年 9 月末日まで、研究活動から遠のいていたため、今年度は過去の研究活動のまとめと、今後の研究に向けて、関連領域のレビューを行った。2012 年以前の研究活動のまとめの一つとして、著書（研究活動 参照）が出版された。また，新たな科学研究費補助金（若手研究 C）の獲得にむけて申請を行った.

今後は、精神障がい者等、マイノリティへの偏見の軽減に効果的なアプローチの開発と検証をテーマに、調査及び実証による研究を行っていきたい。

（３）学内業務・社会活動について

国試対策委員会では、個別面談を通して学生の相談にのり、効果的な学習法を教授する等を通して学習を支えた。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
（委員会活動年度報告書）

2017年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

全学	学部	構成メンバー					
地域教育研究センター		田中 きよむ（地域課題研究部会長）	横井 輝夫（産官学研究部会）	西梅 幸治（キャリア支援部会）	三好 弥生（共通教育部会）	福間 隆康（生涯学習部会）	
全学プロジェクト	災害対策	長澤 紀美子（学外 部会長）	中嶌 洋	河内 康文（学内連携部会）	上田 恵理子		
	大学改革(高大接続)	宮上 多加子	杉原 俊二				
	職業実践育成プログラム(BP)	福間 隆康					
	人事関係検討会	宮上 多加子	田中 きよむ	杉原 俊二	長澤 紀美子	丸山 裕子	横井 輝夫
	実習委員会	長澤 紀美子（実習委員長）	西梅 幸治（社会福祉士コース主担当）	鈴木 孝典（精神保健福祉士コース主担当）	三好 弥生（介護福祉士コース主担当）	鈴木 裕介（社福 助教リーダー）	稲垣 佳代（精神 助教リーダー）
		田中 眞希（介護 助教リーダー）	加藤 由衣	上田 恵理子	片岡 妙子	雑賀 正彦	玉利 麻紀
	総務・予算委員会	西梅 幸治	宮上 多加子	田中 眞希（助教リーダー）	加藤 由衣		
	キャリア支援委員会	西梅 幸治	鳩間 亜紀子	加藤 由衣（助教リーダー）	稲垣 佳代	田中 眞希	
	国試対策支援委員会	遠山 真世	井上 健朗	加藤 由衣（助教リーダー）	鈴木 裕介	稲垣 佳代	田中 眞希
		雑賀 正彦	玉利 麻紀				
	倫理審査委員会	田中 きよむ	丸山 裕子	横井 輝夫	中嶌 洋		
研究倫理委員会		宮上 多加子					
研究活動不正防止委員会		宮上 多加子					
自己点検・評価運営委員会		宮上 多加子	杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章	西梅 幸治	
教務委員会		西内 章	田中 きよむ	三好 弥生	鳩間 亜紀子	加藤 由衣（助教リーダー）	稲垣 佳代
		玉利 麻紀					
FD委員会		三好 弥生					
入学試験委員会		宮上 多加子					
入学試験実施委員会		鈴木 孝典	鳩間 亜紀子	福間 隆康	稲垣 佳代（学部入試委員）	片岡 妙子（学部入試委員）	雑賀 正彦（学部入試委員）
大学入試センター試験実施委員会		福間 隆康					
入学試験監査委員会		田中 きよむ	丸山 裕子				
学生委員会		遠山 真世	山村 靖彦	中嶌 洋	井上 健朗		
		鈴木 裕介	田中 眞希	上田 恵理子	片岡 妙子（ボランティア担当）		
	就職委員会	遠山 真世	丸山 裕子	西内 章	三好 弥生	井上 健朗	鈴木 裕介
広報委員会	広報委員会	山村 靖彦（大学案内・オープンキャンパス等専門委員会）	鳩間 亜紀子	河内 康文	上田 恵理子	雑賀 正彦	
	入試広報部会	鈴木 孝典	長澤 紀美子	西内 章	鳩間 亜紀子	加藤 由衣	
	介護人材確保事業部会	河内 康文	横井 輝夫	中嶌 洋	福間 隆康		
図書部会		横井 輝夫					
総合情報センター運営委員会		井上 健朗					
情報処理部会	情報処理委員会	井上 健朗	鈴木 裕介	玉利 麻紀			
国際交流センター運営委員会		長澤 紀美子	横井 輝夫	河内 康文	片岡 妙子		
人権委員会		長澤 紀美子					
紀要委員会		杉原 俊二					
健康長寿センター運営委員会		井上 健朗	中嶌 洋	片岡 妙子（助教リーダー）	上田 恵理子		
土佐市連携事業「地域ケア会議推進P」高知県中山間地域等訪問看護師育成講座退院調整体制推進事業		井上 健朗					
医療センター連携事業健康長寿・地域医療連携部会		宮上 多加子					
医療センター連携事業看護・社会福祉連携部会		宮上 多加子	井上 健朗	鈴木 裕介			
健康管理センター運営委員会		遠山 真世					
大学院（M）	講義	宮上 多加子（講義＋主査）	田中 きよむ（講義＋主査）	杉原 俊二（講義＋主査）	長澤 紀美子（講義＋主査）	丸山 裕子（講義＋主査）	西内 章（講義＋主査）
		鈴木 孝典（講義＋主査）	山村 靖彦（講義＋副査）	西梅 幸治（講義＋副査）	三好 弥生（講義＋副査）		
	委員会	田中 きよむ（学位審査/入試監査）	杉原 俊二（研究科長）	丸山 裕子（人権）	西内 章（入試）	鈴木 孝典（情報）	山村 靖彦（学務）
		西梅 幸治（広報）	三好 弥生（学生）				
大学院（D）	講義	宮上 多加子（講義＋主査）	杉原 俊二（講義＋主査）	長澤 紀美子（講義＋主査）			
	委員会	宮上 多加子（学務）	杉原 俊二（研究科長）	長澤 紀美子（入試）			
DNGL（災害看護M+D）		長澤 紀美子					

：全学委員

一重下線　：学部委員長

教　務　委　員　会

西内　章

本年度の教務委員会は，委員長を西内，田中教授，三好准教授，鳩間講師，加藤助教，稲垣助教で構成した．本年度に行った業務は，下記のとおりである．

（１）教務委員会の開催

平成 29 年度は，通常の審議・協議事項である非常勤講師や予算の審議など教務関連の検討の他，以下の（2）～（8）に記載している共通教養教育科目の改正，カリキュラムの実施に伴う科目配置の検討，教務関連手続きの改正等，多方面わたる教務業務について審議・協議を行い，学部教務委員会を平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月までに，計 9 回開催した．

（２）共通教養教育科目の改正

教務委員会（全学）及び共通教育部会と連携して，学生の履修状況，社会福祉学部専門教育との繋がり等を考慮し再編案を検討した．また，平成 30 年度から改編した共通教養教育科目を実施できるように準備を進めた．

（３）カリキュラムの実施に伴う科目配置の検討

平成 30 年度に向けて科目配置を検討した．障害者福祉論や就労支援サービスについて，科目間の関連性を再検討し開講時期を変更した．平成 30 年度 4 月の教務委員会のオリエンテーション資料として，改正した履修モデルを 1～4 回生に配布し，改正点を周知することにした．

（４）卒業研究論文に関する発表会の開催

『卒業研究論文執筆のてびき』を作成し，卒業研究論文の具体的な進め方を示した．また，卒論構想発表会を 4 月 26 日（水），卒論中間発表会を 10 月 25 日（水），卒論発表会を 2 月 9 日（金）に実施した．３回生後期の１月に行っている卒業研究論文の「仮テーマ」の提出時に，学生に社会福祉学部以外の専任教員から指導を受けるか否かの希望をとったが，社会福祉学部以外の希望する学生は 0 名であった．

（５）次年度のゼミ配属についての調整

例年通り，12 月に『平成 30 年度社会福祉専門演習選択資料』を作成し，２回生へ配布と説明を行った．そして 1 月にゼミ希望をまとめた。平成 30 年度の 3 回生は，教員の退職に伴いゼミ担当教員が減るため１ゼミあたり 7 名目安として調整した．また 4 回生についてもゼミを異動する学生が生じたため，学年担当教員が学生と相談しながら調整を行った．

（６）学習到達度アンケート調査の実施

例年通り，2 月に卒業年次生（17 期生）を対象とした「学習到達度アンケート調査」を実施した。おおむね良好な結果であったが，記載のあった授業について必要な箇所を改善することにした．

（７）教務関連手続きの改正

平成 29 年度は「特別の理由による授業欠席者の取り扱いについて（申し合わせ)」,「成績に関する学生の疑義への対応について(申し合わせ)」,「保証人（保護者）への学業成績提供に関する基本方針について（申し合わせ)」について，教務委員会案（全学）をもとに学部教務委員会および教授会にて検討し,平成 30 年度から申し合わせを改正して実施することになった.

（８）学部研究生の受け入れのガイドラインの作成

「高知県立大学研究生規程」に従った研究生受け入れ手続きについて，問い合わせを受ける教員や教務課事務職員の対応や説明が異ならないように，研究生の相談窓口となる教務課と社会福祉学部の連係内容と手順を示した学部研究生の受け入れのガイドラインを作成した.

（９）今後の課題

まず本学部における 4 年間教育カリキュラムを通した学生の学修成果を把握する指標を作成する必要がある．昨年度から取り組んでいる学修成果の評価項目について引き続き検討し，可能であれば平成 30 年度卒業予定学生を対象に試行したい.

また，引き続き履修モデルを検討する必要がある.具体的には授業科目の配置について,継続した検討･改善を行う必要がある.授業評価アンケートや学修成果の結果をもとにした検討を考えたい.

3 点目として平成 29 年度に実施した韓国への短期研修の成果を整理し、研修プログラムや単位認定科目などの検討が必要である．平成 30 年度はこの点にも取り組みたい.

入 試 委 員 会

鈴 木　孝 典

○　委員会の体制

全学入試委員会を宮上多加子学部長，全学入試実施委員を鈴木孝典（学部委員長）・福間隆康講師（センター試験部会委員）・鳩間亜紀子講師，学部入試委員を片岡妙子助教，稲垣佳代助教，雑賀正彦助教が担当した．また，入試広報部会と連携し，進学ガイダンス，高校訪問をはじめとする入試広報を展開した．さらに，全学の入試問題点検体制の強化に伴い，学部入試委員会のワーキンググループとして，入試問題作問部会と入試問題点検部会を発足させ，学部における入試問題の作成と点検の体制を強化した．

○　平成 30 年度入試の概況

区分		募集人員 A	男女別	志願者数 B		受験者数 C		合格者数 D		入学手続者数		入学者数		志願倍率	合格倍率
				全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	B/A	C/D
推薦	一般県内	20	男	8	8	8	8	2	2	2	2	2	2	-	4.0
			女	29	29	29	29	18	18	18	18	18	18	-	1.6
			計	**37**	**37**	**37**	**37**	**20**	**20**	**20**	**20**	**20**	**20**	**1.9**	**1.9**
	一般全国	10	男	7	1	7	1	1	0	1	0	1	0	-	7.0
			女	22	0	22	0	9	0	9	0	9	0	-	2.4
			計	**29**	**1**	**29**	**1**	**10**	**0**	**10**	**0**	**10**	**0**	**2.9**	**2.9**
	計	30	男	15	9	15	9	3	2	3	2	3	2	-	5.0
			女	51	29	51	29	27	18	27	18	27	18	-	1.9
			計	**66**	**38**	**66**	**38**	**30**	**20**	**30**	**20**	**30**	**20**	**2.2**	**2.2**
個別	前期	35	男	36	9	32	9	4	2	4	2	4	2	-	8.0
			女	92	17	86	16	37	8	34	8	34	8	-	2.3
			計	**128**	**26**	**118**	**25**	**41**	**10**	**38**	**10**	**38**	**10**	**3.7**	**2.9**
	後期	5	男	33	8	20	6	0	0	0	0	0	0	-	
			女	72	21	37	13	6	2	4	1	4	1	-	6.2
			計	**105**	**29**	**57**	**19**	**6**	**2**	**4**	**1**	**4**	**1**	**21.0**	**9.5**
	計	40	男	69	17	52	15	4	2	4	2	4	2	-	13.0
			女	164	38	123	29	43	10	38	9	38	9	-	2.9
			計	**233**	**55**	**175**	**44**	**47**	**12**	**42**	**11**	**42**	**11**	**5.8**	**3.7**
社会人		若干人	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	1.0
			女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
			計	**1**	**1**	**1**	**1**	**1**	**1**	**1**	**1**	**1**	**1**		**1.0**
私費外国人留学生		若干人	男	1		1		1		0		0		-	1.0
			女	4		2		2		0		0		-	1.0
			計	**5**		**3**		**3**		**0**		**0**			**1.0**
合計		70	男	86	27	69	25	9	5	8	5	8	5	-	7.7
			女	219	67	176	58	72	28	65	27	65	27	-	2.4
			計	**305**	**94**	**245**	**83**	**81**	**33**	**73**	**32**	**73**	**32**	**4.4**	**3.0**

・前期試験の課題図書：岡田美智男（2017）『〈弱いロボット〉の思考 わたし・身体・コミュニケーション（講談社現代新書）』講談社

・入学手続者の県内率：43.8%

○　平成 30 年度入試の特徴

1．前年度と比べ志願倍率，合格倍率ともに上昇した．ただし，昨年度入試の低調な志願・合格倍率の反動による上昇であることが推察される．入学手続き者の県内率は，年度ご

とに増減を繰り返しているものの，前年度と比べ減少している（下表）.

	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
志願倍率	4.4	3.2	4.7	4.4	5.1
合格倍率	3.0	2.3	2.9	3.2	3.6
手続者の県内率(%)	43.8	47.3	42.1	39.7	46.6

２．推薦入試の全国枠への県内からの出願（平成 23 年度から実施）については，昨年度に引き続き１名の出願があった.

３．社会人入試については１名の出願があり，１名を合格とした.

４．私費外国人留学生入試については５名の出願があり，うち３名が受験した．３名全員を合格としたが，入学者はいなかった.

○　課題

１．本学部の志願数は，昨年度と比較し大幅に上昇したものの，入学手続者の県内率は減少した.その背景として，先述のとおり，昨年度の低調な志願倍率，合格倍率の反動によるものと推測する．他方，昨年度より県外高校への訪問や県外開催の進学ガイダンスへの参加など，県外向けの入試広報を強化したことが，県外受験者の増加に結実したと推察する．次年度は，今年度の志願･合格倍率の上昇を受け，志願者の減少が予測される．そのため，次年度は，過去の出願データを精査し，入試広報の対象とする高校や地域を絞り込み，限られた入試広報予算で最大限の効果が得られるよう，入試広報戦略を学部広報委員会，介護基金事業委員会と協働して立案し，それを実行する.

２．県内外の高校を対象とした入試広報が課題である．学部広報委員会と協力し，引き続き，高校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集し，今後の広報活動に役立てる.

３．昨年度に引き続き，入試の実施体制（試験問題の作成およびチェック体制，入試関係資料の管理方法，当日の運営体制など）に係る課題を検討し，受験者に不利益が生じないよう，継続的な改善を図る.

４．私費外国人留学生入試の実施体制（出願資格のチェック体制，当日の運営体制など）と選抜方法（面接試験の最低評価基準，語学力を試験で確認するための選抜方法など）について，昨年度に引き続き検討する．また，今年度の同入試では，３名の合格者を出したものの，入学者を得ることができなかった．そのため，今年度は，留学生を対象とした入試広報についても，学部国際交流委員会の協力を得ながら検討する.

５．障害を有する受験者への受験上の配慮について，受験者に不利益が生じないよう引き続き検討し，入学後の受け入れ体制の整備に円滑につなげる.

学　生　委　員　会

遠　山　真　世

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の向上、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

１．相談活動

学生のメンタルヘルス、悩み事などの相談は、学年担当教員を中心に、実習担当教員やゼミ担当教員とも情報を共有しつつ対応した。緊急時や対応が困難な場合は、健康管理センターや学生・就職支援課とも連携し、解決に取り組んだ。

健康管理センターが実施する、精神科医師、心理カウンセラー、婦人科医師、保健師、による専門相談について、ガイダンスや掲示を通して学生に利用形態や利用時間等の情報を提供した。

２．経済的援助に関する対応

学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて、学生・就職支援課と連携し、情報提供及び手続き支援を行った。

３．事故・事件への対応

近年、交通事故や事件の多い状況が続いており、交通安全講習会やストーカー・サイバー犯罪対策セミナーの開催など全学的に対応が行われた。今年度は、学部ごと・学年ごとに学生が参加しやすい日程で講習会等を開催した。

４．感染症への対応

配属実習にあたって、四種（麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ）抗体検査、Ｂ型肝炎抗体検査を実施、情報提供を行った。本年度新入生より、入学時のみ抗体検査を行う体制となった。2 回生以上は実習年度に実施する旧体制のため、福祉実習支援室と健康管理センターで対象学生について確認した。また「実習指導Ⅲ」の授業の中で、実習に向けた感染症予防や健康管理について、健康管理センター職員に講義をしていただいた。

５．障害のある学生への支援体制の整備

障害のある学生に対して、学年担当教員を中心に本人との相談を行い、必要な支援について検討・実施した。本年度は、次年度の相談援助実習に向けて、学生・就職支援課とも協議し、必要な支援の明確化と予算の確保に取り組んだ。

○今後の課題

今後も引き続き、学年担当教員を中心に日ごろの関わりを通して学生の状況を把握し、必要に応じて学部教員や健康管理センター、学生・就職支援と連携しつつ、個々の学生に対する支援や体制づくりを行っていく必要がある。学生の交通事故がなかなか減少しない一方で、交通安全講習会その他の講習会への参加者が年々減少している。開催のあり方や効果的な周知方法について、引き続き検討していく必要があると考える。

実　習　委　員　会

長　澤　紀　美　子

１．実習委員会の活動の特徴

実習委員会では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の資格取得に係る各コースの運営及び教育内容については、コース責任者を代表とする各コースの実習・演習担当教員に委託しつつ、３福祉士の実習及び実習関連科目が円滑に実施できるよう、実習に関わる予算の計画や執行、コース相互に関連する実習事務やカリキュラム等の調整、学内外との連絡調整等を実施することを目的としている。

また本年度から、社会福祉学部の学生全員が相談援助実習を３回生で実施することとなり、コースによって実習年次の違い及び実習関連科目の履修年次の違いという問題が解消できた。

２．配属実習の内訳

本年度の配属実習は、相談援助実習で 70 名（昨年度のみ介護コース生の４・３回生が同時期に実習したため 89 名、一昨年度 69 名）、精神保健福祉援助実習が 18 名（同 27 名），介護実習Ⅰは 18 名（同 15 名），介護実習Ⅱが 13 名（同 23 名），介護実習Ⅲが 22 名（同 18 名）であった。

相談援助実習 70 名の内訳は、社会福祉協議会 20 名，病院（精神科除く）13 名，児童相談所 8 名，児童養護施設 11 名，児童自立支援施設 3 名，特別養護老人ホーム 3 名，養護老人ホーム 2 名，小規模多機能型居宅介護 2 名，指定相談支援事業所 1 名，療養介護事業所・医療療養型障害児入所施設 3 名，障害児通所支援事業所 3 名，障害福祉サービス事業所 2 名、障害者支援施設 1 名，相談支援事業所等 2 名であった。

精神保健福祉援助実習の 18 名の内訳は、精神科病院 16 名，精神科病床を有する一般病院 2 名、精神保健福祉センター2 名，障害福祉サービス事業所 5 名，地域活動支援センター6 名，相談支援事業所　5 名であった。

介護実習の内訳は、以下のとおりである。

介護実習Ⅰの 18 名では、特別養護老人ホーム 12 名，介護老人福祉施設 6 名、障害者支援施設 6 名、生活介護事業所 12 名、通所介護事業所 6 名、訪問介護事業所 6 名、小規模多機能型居宅介護事業所 12 名であった。

介護実習Ⅱ　13 名では、特別養護老人ホーム 4 名，介護老人福祉施設 3 名，障害者支援施設 4 名，医療型障害児入所施設　2 名であった。

介護実習Ⅲ　22 名では、特別養護老人ホーム 13 名，介護老人福祉施設 3 名，医療型障害児入所施設 3 名，障害者支援施設 3 名であった。

３．実習連絡協議会

各実習先の実習指導者より配属実習に関する要望や意見を聴取し、率直な意見交換を通じてより良い実習指導体制を整えるために、今年度も下記のとおり、コースごとに実習連絡協議会を開催した。

7 月 31 日（月）　介護実習連絡協議会
参加施設数：13 施設　　参加人数：22 名
3 月 6 日（火）　相談援助実習連絡協議会
参加施設数：41 施設　　参加人数：42 名
3 月 7 日（水）　精神保健福祉援助実習連絡協議会
参加施設数：12 施設　　参加人数　：13 名

４．成果と課題

（１）福祉実習支援室の体制づくり

従来、福祉実習支援室を担う実習担当助教と実習支援室長、実習委員長との連絡会議を月１回実施し、実習事務や福祉実習支援室に関わる業務の充実を図っている。実習担当助教の教員による連携・協働、業務円滑化に向けた努力や創意工夫により、今年度も大きな問題もなく実習業務を実施することができた。また実習支援室は、実習先や所管行政窓口との文書や電話での窓口だけでなく、学生の実習、ボランティア、学習その他学生生活全般に関する相談窓口ともなっている。助教教員、学部事務、学部の教務担当者らと実習事務の役割分担や内容について確認し、負担の偏りがないようにしていきたい。

（２）円滑な実習指導体制の継続および実習先の安定的確保

平成 29 年度後期から年度末にかけて各コースにおいて実習担当教員の異動があった中で、実習指導体制の継続と充実が課題である。

また社会福祉学部の実習の特性を鑑みつつ、卒業生を中心とした有資格者に対し、実習指導者講習会への参加の呼びかけや実習依頼訪問等による新規開拓により、実習指導者を育成しつつ、実習施設（特に県内施設）の安定的確保を図ることが継続的な課題である。

（３）厚生労働省の３福祉士養成課程に関わる規定・指導への対応

平成３０年度末を目途に取りまとめられる予定の社会福祉士のカリキュラム改変の動向等を注視し、３福祉士のカリキュラム全体を視野に入れて、配属実習の時期・実習先・内容について総合的に検討することが必要である。また、平成３１年度より導入予定の介護福祉士養成課程の教育内容の見直しなども含めて、教務上必要な措置を教務委員会とともに検討し、対応を図っていく。

就　職　委　員　会

遠 山　真 世

1　社会福祉学部の就職活動支援

（1）就職ガイダンス等の実施

・オリエンテーション（2017 年 4 月 5 日）
・家庭裁判所調査官職場見学（2017 年 4 月 5 日）

（2）個別相談等

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携しつつ、ゼミ担当教員・学年担当が中心となり、個々の学生の就職希望先に応じて、4 回生の進路相談，履歴書の添削、面接練習等を行った。近年、国家試験の合否によって内定取消になる場合もあるため、国試対策ワーキングとも連携し学生の意識づけを行いつつ、内定先への確認や相談を促すようにした。3 回生以下の学生に対しては，就職ガイダンスへの参加を呼びかけた。

（3）情報提供

学生課ワクワク Work!!が行う情報提供以外に，学部生向けの求人票を 2 階談話コーナーに掲示し，各教員宛に相談があった求人情報もあわせ情報提供した．今年度から、スマートフォン等で求人情報を検索・閲覧できる web システムが導入されたが、学生は必要に応じて掲示と web システムを併用していた様子であった。

３回生になった時点では、卒業論文・就職活動・国家試験を視野にいれつつ、学年担当が全学生と面談した。特に民間企業や公務員をめざす学生には、ワクワク Work!!に情報収集や相談に行くよう働きかけた。

4 回生では、ゼミ担当教員を中心とした社会福祉学科の教員に対し、各学生の職業選択に迷い、悩む過程への支援を依頼した。学年担当も随時学生に声をかけ、進路の方向性や就職活動の進捗状況について情報収集するとともに、必要に応じて相談にのることができるようにした。また、履歴書の書き方や面接のマナー等について、学部教員やワクワク Work!!に相談するよう促した。

2　進路状況

就職希望者：67 名

就職内定先：

①公務員等　10 名（14.9%）	②医療機関　18 名（26.9%）
③社会福祉協議会　5 名（7.5%）	④福祉施設等　25（37.3%）
⑤民間企業　9（13.4%）	

卒後勤務地： 高知県内 32 名（47.8%），高知県外 35 名（52.2%）

3　今後の課題

学生への情報提供や就職支援に関しては、今後も学部教員およびワクワク Work!!との連携が重要である。

広　報　委　員　会

山村　靖彦

○本年度の取り組み

本年度の広報委員会は、山村、鳩間講師、河内講師・上田助教・雑賀助教（10月以降）が担当した。

（１）「大学案内」の編集･製作

2019年度版「大学案内」の作成に伴い、社会福祉学部の紹介ページでは、国家試験合格率および就職状況について最新情報へ更新し、掲載学生や卒業生についても一新した。

（２）オープンキャンパス：７月31日（日）

社会福祉学部では、学部全体説明会、教員／先輩との談話室、体験授業（遠山講師）、ゼミ室訪問、介護体験、サークル紹介、学部棟見学ツアーなどのプログラムを実施した。参加者数は延べ322人で、前年度と比べ128人増加した。

（３）在学生による出身高校訪問

夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部ＰＲを行う取り組みを継続して実施している。本年度は１回生７名が出身高校を訪問して、学部での学習や大学生活などについてＰＲを行った。

（４）キャンパス訪問への対応

高校生や高校進路指導教員による学部訪問９校に対応した。学部紹介、介護実習室の見学､訪問校出身学生によるメッセージ､事例検討のグループワーク体験などを行った。

（５）出向型説明会・講座の実施

県内外７校へ出向き、学部および社会福祉分野の説明・講義等を行った。

（６）学部パンフレットの更新

昨年度から企画していた学部パンフレットを更新した。

（７）学部ホームページの一新

学部ホームページを一新した。計31件の「新着情報」を掲載した。

○今後の課題

昨年度と比べオープンキャンパスへの参加者数が大幅に増加した。近年、オープンキャンパスへの参加状況は、当該年度の受験者数へも影響を及ぼす結果となっていることから次年度も工夫を凝らしたいが、参加者に対応できる教室等の確保が課題となってきている。

今年度も引き続き、入試広報部会と介護人材確保事業部会と協働しながら取り組み、その結果、受験者確保という点では貢献できたと思っている。今後も両部会との綿密な連携は不可欠であり、強化に努めていくべきであると思っている。

また、昨年度の学部パンフレットに続き、本年度はホームページを一新した。広報に関しては、このように毎年何らかの戦略を掲げて取り組んでいくことが重要であると思われる。

介護人材確保部会

河 内　康 文

１．集合型研修　県大生と行く職場見学ツアー

○開催日時：平成 29 年 7 月 29 日（土曜日）　10：00～15：00
○開催場所：介護老人福祉施設　オーベルジュ，障害者支援施設　アドレス・高知
　　高知県立大学池キャンパス　看護福祉棟 F110
○講師：河内康文
○対象：高校生と保護者　○参加者数：52 人（スタッフ等含む）

（１）事業概要

高校生とその保護者等に対して，福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで，長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。大学教員と学生及び高校生が介護現場を訪問し，専門職の役割やキャリアについて具体的事例から学ぶ。

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，すべての参加者が福祉・介護のイメージが良くなったという回答があった。また,同アンケートからは,「将来像として介護を外して考えていたので，イメージの払拭になりました」,「利用者の人や職員の人たちは家族の様だと思いました」などの記述が見られた。

（３）活動評価

実際に介護現場に行くことで，本事業の趣旨が理解しやすく，福祉介護のイメージの転換ができたといえよう。また，高知県立大学の卒業生が活躍する職場を訪問することにより，福祉・介護分野でのキャリアについてもイメージが構築できたと思われる。

参加者は，高校生が主であった。今後は，保護者がより参加できるような内容や広報の在り方の検討が必要である。また，時期/場所については，本企画が今年度初めての試みであったため，より参加がしやすい日程や介護施設との調整などが課題になる。

（４）当日の様子

バスで介護施設へ移動

介護施設の見学

高校生と大学生の交流

熱心に話を聞く高校生

２.集合型研修　高校生と保護者のための公開講座

〇開催日時：平成 29 年 10 月 28 日（日曜日）　11：00～14：45
〇開催場所：高知県立大学池キャンパス　本部・健康栄養学部棟Ａ306 等
〇講師：社会福祉学部：横井輝夫教授，中嶌洋准教授，河内康文講師，福間隆康講師
　　ゲスト講師：福島富雄氏（脳卒中リハビリテーション研究所）
〇対象：高校生と保護者　〇参加者数：154 人（延べ人数，スタッフ等含む）

（１）事業概要

高校生とその保護者等に対して，大学教員が福祉・介護領域の学問的な講義を総論的に行なった。その後，福祉・介護領域の学際的な内容と理解を目的として，高校生の関心に応じた選択制の各論的演習(3 コース)を行なった。

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，「介護や福祉は自立支援を共に考え，支えていくものであることを知ることができた」，「福祉について更に学びたい意欲が高まった」，「今回の講座でより，介護職に就きたいという思いが強くなった」などの記述が見られた。

（３）活動評価

当日は，大学祭期間の開催となった。高校生と保護者は，大学での社会福祉に関する講義・演習の実際と，学生の活気あふれる大学の雰囲気を理解できた。

（４）当日の様子

「運動が記憶力を高める
―認知症を中心とした世界の研究」

「高知県の中山間地域における課題解決」

「ダブルケアの観点から見た子育て困難とその支援」

「脳卒中当事者からの支援論」

３.集合型研修　新高校生２・３年生のための入門講座

○開催日時：平成 30 年 3 月 28 日（水曜日）　10：30～12：00
○開催場所：高知県立大学永国寺キャンパス　教育研究棟Ａ101
○講師：中嶌洋准教授
○対象：高校生と保護者　○参加者数：30 人（スタッフ等含む）

（１）事業概要

高校生とその保護者等に対して，大学教員が福祉・介護領域の学問的な講義を総論的に行なった。その後，福祉・介護領域の学際的な内容と理解を目的として，高校生の関心に応じた各論的演習を行なった。

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，「社会福祉は難しいものだと思っていたイメージが自分自身の生活にひきつけて考えることでより身近で親しみやすいイメージを持てました」，「社会福祉というこれからの時代に必要になっていくものを具体的に学べた。もっと深く勉強していきたい」，「分かりやすい説明で福祉に対するイメージが良い方向に変わったように思います」などの記述が見られた。

（３）活動評価

新 2・3 年生を対象とした講座は初めての試みであったが，参加者から概ね好評であった。高校生が参加しやすいように永国寺キャンパスで開催したが，池キャンパスも見てみたいというニーズもあった．開催場所についての検討が必要である．

（４）当日の様子

中嶌先生による入門講座

大学生から高校生への言葉

大学内設備の見学

大学生と高校生のフリートーク

４．訪問型研修（計８回）

○開催日時：場所

（１）　平成 29 年 10 月 20 日（金曜日）　16：10～17：10　：高知南高等学校
（２）　平成 29 年 10 月 27 日（金曜日）　16：20～17：00　：山田高等学校
（３）　平成 29 年 10 月 27 日（金曜日）　16：20～17：20　：岡豊高等学校
（４）　平成 29 年 11 月　２日（木曜日）16：00～17：00　：高知東高等学校
（５）　平成 29 年 11 月 10 日（金曜日）　16：00～17：00　：清水高等学校
（６）　平成 30 年 ２月 15 日（木曜日）　16：30～17：30　：安芸高等学校
（７）　平成 30 年 ２月 20 日（火曜日）　16：00～17：00　：中村高等学校
（８）　平成 30 年 ３月 13 日（火曜日）　13：00～14：00　：嶺北高等学校

○講師：社会福祉学部：山村靖彦准教授（３）（８）
　　河内康文講師（１）（２）（４）（５）（６）（７）
　　社会福祉学部学生

○対象：高校生・高校教員

○参加者数：　計 125 人（講師・スタッフ等含む）

（１）事業の概要

高校生に対する社会福祉の概要理解を目的に，高知市外の高等学校に訪問し，大学教員が理論，学生が大学での学びの実際を説明した。

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，「大学生や今お仕事をされている人の話が聞けて，介護・福祉に対してのイメージが変わりました」，「講座を開いていただいて，福祉･介護も一つの進路の選択として検討しようと思いました」，「社会福祉の仕事について興味をもつことができました！自分も社会福祉を目指そうと思いました」などの回答が見られた。

（３）活動評価

アンケート集計結果から，高校生からの評価は高い。高校生と年齢が近い大学生が大学で実際に学んでいる内容を伝え，大学教員が理論的な側面を裏づけすることにより，より高い学びの効果が得られたと思われる。

今年度は，本事業が２年目となり，５校から８校へと３校訪問高校が増加した。事業の定着を図るとともに，さらなる対象校の検討が今後の課題になると考える。

（４）当日の様子

大学生による講義

大学生とのグループワーク

平成28年度 高知県キャリア教育推進事業
体験 1
県大生と行く
職場見学ツアー
「高齢・障害施設編」
2017年
7月29日［土］
10:00-15:00
池キャンパス
高知県立大学 看護福祉棟 F110 集合（10:00）
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
教員・県大生と一緒にOB・OGの職場「高齢・障害施設」を見学します。
講座 2
新2・3年生のための
入門講座
2018年
3月28日［水］
10:30-12:00
永国寺キャンパス
高知県立大学 教育研究棟 1F A101
〒780-8515 高知県高知市永国寺町2-22
教員・県大生とコース別に社会福祉士の入門的な内容を体験により学びます。
講座 1
高校生と保護者のための
公開講座
2017年
10月28日［土］
池キャンパス
高知県立大学 本部・総務栄養学部棟 3F A306
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
関心のあるA～Dの講座を選択して受講してください。※B・C・Dは2つ以内選択
特別講義 11:00-12:00
A 運動が記憶力を高める 認知症を中心とした世界の研究
横井 賀孝 先生（社会福祉学部）
選択講義 1部／13:00-13:45 2部／14:00-14:45
B 高知県の中山間地域における地域課題解決
福岡 雅貴 先生（社会福祉学部）
C ダブルケアの観点から見た子育て困難とその支援
中嶋 洋 先生（社会福祉学部）
D 脳卒中当事者からの支援論
河内 薫文 先生（社会福祉学部）
※講座1・2とも、入試相談会を予定しています。
10月28日、29日は紅葉祭（大学祭）を、池キャンパスで開催します。
事前のお申込みが必要です。
締切り／2週間前に必着。参加費無料
別紙を提出申込書に必要事項をご記入の上、高校の先生を通じてお申込みください。
ファックスの場合／Fax.088-847-8672
電話の場合／高知県立大学 〒781-8515 高知県高知市池2751-1
受講申込書の集い方は、学校名、学年、お名前、希望講座を
明記の上、右のQRコードからメールでお申込みください。
※保護者のお申込みは代表でも、ご一緒に参加してください。
高知県立大学 看護福祉センター
高知県立大学 社会福祉学部 お問い合せ Tel.088-847-8610
事前の相談は、高知県立大学一次窓口にご来ください。
http://www.u-kochi.ac.jp/
駐車場はございませんので、公共交通機関でお越しください。

県大生と行く
職場見学ツアー
2017
7.29 sat
高校生と保護者のための
公開講座
2017
10.28 sat
新2・3年生のための
入門講座
2018
3.28 wed
オープンキャンパス
7月30日［日］
9:30～16:00
会場：池キャンパス
わかりやすく
お話し
いたします。
社会福祉の事を
高知県立大学 社会福祉学部

キャリア支援委員会

西梅　幸治

キャリア支援委員会は、委員長を西梅、鳩間講師、加藤助教、稲垣助教、田中助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。

１．活　動　内　容

①学部創設20周年記念事業の開催

今年度は、学部創設から20年の節目の年となる。そこで、卒業生・在学生・在職教員相互のネットワーク化、社会福祉研究や専門性・キャリア形成の進展、卒業生の実践活動の促進などを目標とするキャリア支援の契機として、20周年記念事業を実施した。当日は、総勢約300名の参加を得て成功を収めることができた。

②リカレント研究会事業を中心としたキャリア支援の取り組み

事業名	担当教員	開催日（回数）	内容と成果	参加人数
スクールソーシャルワーク研究会	西梅 幸治 加藤 由衣	４月13日～ ２月22日 （計６回）	本研究会は、スクールソーシャルワーカー相互の情報交換や報告、活動のふり返りなどを年６回に渡り実施した。特に本年度は各市町村の支援体制や組織に関する報告とディスカッションをとおして、所属組織の強みや課題を検討することができた。このような内容により、参加者の力量を高め、メゾレベルの視点をもつ機会となった。	延べ15人
介護コース卒業生を対象とした事例検討会	宮上多加子 三好　弥生 田中　眞希	６月18日 ２月３日 （計２回）	本家事例研究会は、介護コース卒業生がかかわる事例をもとに、課題に対する解決方法について話し合うことを中心としている。６月は神戸なごみの家の見学を行った。２月は事例検討を行った後、次年度以降のリカレント研究会の内容について話し合った。仕事をしていると、自分の職場以外の福祉現場を見る機会がほとんどないため、特色のある取り組みなどを行っている施設･事業所の見学は今後も行ってほしい。また、悩み相談、情報交換、親睦を深めるためにも、事例検討会は継続したいとのことであった。 このような意見から、平成30年度は年２回、施設･事業所見学と事例検討を行うような計画を立てることとする（時期	延べ18人

			は９月と３月の予定）。	
就職後の社会保障制度改正内容の再教育と医療･福祉職における事例検討	田中きよむ	６月28日～ ２月23日 （計９回）	生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、権利擁護・成年後見制度、年金保険制度などに関する卒業後の近年の制度改革内容の再教育による制度理解を図るとともに、病院、児童福祉施設、社会福祉協議会などの医療福祉現場での困難事例等を検討し、相談支援能力の向上を図った。	延べ30人
社会福祉学部16期生リカレント学習会	加藤　由衣	２月10日 ２月11日 ３月３日 （計３回）	本研究会は、昨年度卒業した社会福祉学部第16期生が参会し、業務や支援に関する情報交換と、１年間のふり返りを行った。そのなかで、他分野の活動を相互に把握するとともに、入職１年目に共通する課題や悩みを共有することができた。また中国地方での開催により、様々な県での活動の情報交換をとおして、各地域の特徴を検討することができた。これらの内容をとおして、ソーシャルワーカーや一職業人としての意識や力量を高める機会となった。	延べ14人
ソーシャルワーク学習会	西梅　幸治	３月２日 ３月３日 ３月11日 ３月13日 ３月14日 （計５回）	本学習会は、ゼミ生を中心とした卒業生に対して、個別スーパービジョンや、キャリアに関する相談などを実施した。日々の業務におけるソーシャルワークの意義を見出す機会になり、かつこれまでの業務のふり返りや、将来に向けてのキャリアビジョンを考える機会にもなった。また卒業生同士の業務内容や支援に関する情報交換の場ともなり、有意義な時間となった。	延べ８人

２．今後の課題

キャリア支援委員会が組織されて２年目であったが、委員会を中心に、リカレント研究会開催の促進と学部創設20周年記念事業の準備と運営について、メンバーの協力を得ながら進めることができた。また今年度も継続して、既卒者への国試対策支援を含めて進めることができた。来年度は、今年度の学部創設20周年記念事業契機としたさらなる展開を、活動計画に基づいて、進めていくことができるように検討する必要があると考えている。

健康長寿センター

井上　健朗

○活動内容

1. 健康長寿センター　運営委員会
全学での運営委員会として、平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月において会議を実施した。

2．健康長寿センター運営委員
池田光徳（センター長　看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（中嶌・井上・上田・片岡）・総務部企画課健康長寿担当者

3．平成 29 年度活動実績（社会福祉学部がかかわった主なもの）
①社会福祉リカレント教育講座
②健康長寿センター体験型セミナー　社会福祉学部主催　in 佐川町
③健康長寿センター体験型セミナー　体験ブース「認知症テスト体験」担当

○活動の評価と課題

①社会福祉リカレント講座については４名の教員による講座を行った。受講者アンケートには詳細な感想が多く寄せられており、各講座ともに好評であった。また受講者の多くは SW、CM、CW 等福祉職であったが、一般職や看護職の参加もみられた。

②社会福祉学部主催による体験型セミナーを佐川町で開催した。学部片岡助教による講演と看護学部、健康栄養学部、社会福祉学部の３学部による体験ブースを実施した。事前に健康福祉課の担当者と打ち合わせを行い、町民の健康についての行動を活性化することを目的に行った。

③体験型セミナーの体験ブース「認知症テスト体験」では、体験を希望する受講者が多く、認知症に対する地域住民の意識の高さがうかがえた。

① リカレント教育講座

開催日	テ ー マ	講 師	参加者
10/21	認知症をもつ人ともたない人の「今」	横井教授	27 人
12/2	介護記録の目的と書き方	上田助教	16 人
12/16	思考しながら実践するソーシャルワーク －支援の質を高めるために－	加藤助教	20 人
1/20	人を支援するためのアイデア －理論を基盤としたソーシャルワーク実践－	井上講師	30 人

② 体験型セミナー

開催日	テ ー マ	開催場所	参加者
12/6	地域で取り組む健康づくりと介護予防	佐川町	104 名

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護･社会福祉連携部会

井 上　健 朗

○看護・社会福祉連携部会について

１．組織

１）高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー

２）高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

２．事業

１）学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

２）基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

３）教員によるコンサルテーションの実施

４）臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

５）県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

６）その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

１．平成 29 年度は、昨年に引き続き共同研修会（上記事業３）にあたる）を毎月１回、定期開催した。今年度は、高知医療センターソーシャルワーカーのキャリア形成の段階を示す「ソーシャルワーカー・キャリア・ラダー」の作成に取り組んだ。また今年は医療センターのソーシャルワーカーおよび県立大学教員が合同で研究を行い２学会への研究発表を行うことができた。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

今後の課題としては、前述の「ソーシャルワーカー・キャリア・ラダー」の作成作業は完成をみておらず、引き続き次年度もこの作業に取り組むこととなる。このラダーは完成のみが目的ではなく、今後高知医療センターソーシャルワーク部門または病院組織のなかで日常業務や職員の育成において活用されるようにしていく必要がある。

教員によるコンサルテーションの実施

	実施日･期間	氏名or対象	参加人数	事業内容
1 前期	4月19日（水） 17:30～ 医療センター 2階　やいろちょう	●社会福祉学部教員 （鈴木裕介・井上健朗） ●地域連携室看護師 （松本理恵子） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・西原梓・竹村貴深・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・真辺祐佳・渡邊愛友） ●事務職 （宇井泰之・青木照子・門田賢太郎）	16名	①参加者自己紹介 ②本年度計画の確認 ※司会（渡邊）
2 前期	5月17日（水） 17:30～ 医療センター 2階　やいろちょう	●社会福祉学部教員 （鈴木裕介） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・西原梓・竹村貴深・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・真辺祐佳・渡邊愛友） ●事務職 （青木照子・門田賢太郎）	13名	①日本医療社会福祉協会全国大会・日本医療社会事業学会　予演（和田） 『「退院支援加算Ⅰ」の算定に向けての取り組みの現状と課題』 ～質的評価指標の開発～ ②事例検討①-1（羽方） テーマ『医療費の問題を抱える患者・家族の支援について』 ※司会（西原）
3 前期	6月21日（水） 17:30～ 医療センター 2階　やなせすぎ	●社会福祉学部教員 （鈴木裕介・井上健朗） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・中山真紀・西原梓・竹村貴深・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・真辺祐佳・渡邊愛友） ●事務職 （青木照子・門田賢太郎） ●社会福祉学部学生 （大澤志帆・戸田菜々華・田辺有花・岡本めぐみ・兵頭七海・公文杏奈・増井葵）	20名	①日本医療社会福祉協会全国大会・日本医療社会事業学会　報告（和田） ②退院支援専門ソーシャルワーク研修　報告（丁野） ③事例検討①-2（羽方） ④ラダーの進捗状況を共有（西原、中山） ※司会（真辺）

4 前期	7月19日(水) 17:30～ 医療センター 2階　やなせすぎ	●社会福祉学部教員 （鈴木裕介・井上健朗） ●ソーシャルワーカー （川上めぐみ・中山真紀・西原梓・竹村貴深・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・真辺祐佳・渡邊愛友） ●社会福祉学部学生 （公文杏奈）	12名	①ラダー　グループワーク（西原、中山） ※司会（渡邊）
5 前期	8月16日(水) 17:30～ 医療センター 2階　やいろちょう	●社会福祉学部教員 （鈴木裕介・井上健朗） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・真辺祐佳・渡邊愛友）	10名	①講義 講師：高知県立大学　教員　井上健朗　・　鈴木裕介 ※司会（中山）
6 前期	9月20日(水) 17:30～ 医療センター 2階　やなせすぎ	●社会福祉学部教員 （井上健朗） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・真辺祐佳・渡邊愛友） ●事務職 （青木照子）	10名	②ラダー（西原、中山） ※司会（渡邊）
7 後期	10月18日(水) 17:30～ 医療センター 2階　やいろちょう	●社会福祉学部教員 （井上健朗） ●地域連携室看護師 （松本理恵子） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・真辺祐佳） ●事務職 （宇井泰之・青木照子・門田賢太郎）	12名	①事例検討（丁野） 「クライエントと良好な関係形成ができなかった事例」 ※司会（真辺）
8 後期	11月15日(水) 17:30～ 医療センター 2階　やなせすぎ	●ソーシャルワーカー （川上めぐみ・中山真紀・西原梓・和田真奈美・真辺祐佳） ●事務職 （宇井泰之・青木照子・門田賢太郎）	8名	①事例検討（真辺） 「自宅に帰りたいという希望を叶えられなかったケースより」 ②ラダーの進捗状況を共有（西原、中山） ※司会（川上）
9 後期	12月20日(水) 17:30～ 医療センター 2階　やいろちょう	●社会福祉学部教員 （井上健朗・鈴木裕介） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・真辺祐佳） ●事務職 （宇井泰之・青木照子・門田賢太郎）	12名	①ラダーの進捗状況を共有（西原、中山） ※司会（丁野）
10 後期	平成30年 1月17日(水) 17:30～ 医療センター 2階　やなせすぎ	●社会福祉学部教員 （井上健朗・鈴木裕介） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・西原梓・和田真奈美・真辺祐佳） ●事務職 （青木照子・門田賢太郎）	10名	①全児協発表予演（藤井） 『発達障害を持つ児童の復学を支援するためのカンファレンスに対する意識調査』 ②ラダーの進捗状況を共有（西原、中山） ※司会（和田）
11 後期	2月21日(水) 17:30～ 医療センター 2階　やいろちょう	●社会福祉学部教員 （井上健朗） ●ソーシャルワーカー （藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・西原梓・和田真奈美・真辺祐佳） ●事務職 （宇井泰之・青木照子・門田賢太郎）	10名	①ラダーの進捗状況を共有（西原、中山） ※司会（中山）
12 後期	3月14日(水) 17:30～ 医療センター 1階　研修室2	●社会福祉学部教員 ●地域連携室看護師 ●ソーシャルワーカー ●事務職	名	①本年度の振り返り ②次年度の計画確認 ※司会（藤井）

臨床実践能力及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	平成29年6月3日	井上健朗・鈴木裕介（高知県立大学） 和田真奈美・丁野江里子（ソーシャルワーカー）	4	第65回日本医療社会福祉協会全国大会・第37回日本医療社会事業学会　（発表者：和田） 『「退院支援加算Ⅰ」の算定に向けての取り組みの現状と課題』 ～質的評価指標の開発～
2	平成30年2月2日	井上健朗（高知県立大学） 藤井しのぶ（ソーシャルワーカー）	2	第48回全国児童青年精神科医療施設連絡協議会（発表者：藤井） 『発達障害を持つ児童の復学を支援するためのカンファレンスに対する意識調査』～医療機関と学校の比較から～
3	平成29年度～	高知県立大学 ソーシャルワーカー	12	ソーシャルワーカーラダー作成への取組み

災害対策プロジェクト

中 嶌　洋

○本年度のとり組み

本年度も例年同様、法人災害プロジェクト担当として、学外連携部会に長澤紀美子教授、学内連携部会に中嶌　洋准教授、河内康文講師、上田恵理子助教が参加し、DNGL の大学院生の西川愛海氏を加えた 5 人で構成した。主なとり組みは以下の通りであった。

（1）災害対策プロジェクトの会議及び合同災害訓練打合せ会の開催・参加

合同災害訓練の計画・実施、研修会・避難訓練の計画・検討を平成 29 年 5 月より、月 1 回のペースで行った。あわせて、合同災害訓練の直前期には 3 学部及びボランティアサークル代表による合同災害訓練打合せを開催した。

（2）合同災害訓練の実施

平成 29 年 11 月 5 日（日）に平成 29 年度合同災害訓練を行い、本学部は避難所運営支援を中心に関わった。実績は、参加総数 182 人（要配慮者 27 人、ボランティアスタッフ 10 人）であった。

（3）平成 29 年度避難所運営支援の目標達成度

本年度は主に次の 3 つの目標を立てて避難所運営支援に携わった。その目標達成度にアプローチするべく、浮かび上がった課題を示すと以下のようになる。

目標１：（医療センター経由ではなく）大学に直接避難してくる避難住民の役割を設定（健康栄養学部 3 回生 28 人、社会福祉学部 1 回生約 30 人）
※避難住民の学生の一部は、避難後にボラセンに登録して、支援者役割へ移行する。
→「社会福祉入門演習」や当日に役割付与・説明をしたが、急すぎて、十分な意識付けができなかった。欠席者が 12 人おり、本学部 1 回生全員参加が達成できなかった。ボランティアセンターにおいて、最初にもっと人数がほしかったという意見が出ており、時間軸を考慮すべき。→やはり、事前に合同説明会を開催したほうがよいのではないか。
※避難住民や傷病者役割の学生に対し、避難後の待機時間に研修を実施（西川、神原）
→映像を繰り返し流し（21 分、14 分）、西川さんを中心にグループワークを行い、「リアリティ」「緊張感」の醸成につながり、学びが多かった。学生の反応もよかった。→今後も続けるべきである。
※学生の主体的参加を促すために、合同災害訓練参加学生に「UOKLMS」に登録させ、参加形態（外来患者、傷病者役、避難者・地域住民、支援者、その他）を選択させようとしたが、登録者自体が少なく効果的ではなかった。→方法を再考するべき。

目標２：軽傷者看護エリア（看護学部）、栄養アセスメント（健康栄養学部）との連携、情報共有

→薬や別室対応の件で看護エリアとの関わりはあったが、トランシーバーがなかなかつながらず、スムーズにはいかなかった。また、健康栄養学部とは、アンケートを同時配布（社・福・健栄の 2 種類）したが、アンケート記入と配食の時間帯が噛み合わず、回答率が下がってしまった。余り細かいことまでの共有は避け、定期的にエリア総括者同士で共有を図る。
※全体像・図を示す→事前準備が整いすぎており、実際とかけ離れてしまった。細かく記載しすぎると臨機応変に対応しにくくなる。→当日設営、避難所内の各エリアの連携を強化

目標３：学外より、実際の地域住民（池住民[いけいけサロンが対応]・望海ヶ丘住民、外国人、障害者）が参加。それぞれの対応にあたっての課題を明らかにする。
・病気や怪我をした傷病者が 2 階に上がらなければならないという点（入り口の受付から、救急車の発着場所への移動がスムーズに行えるような場所が望ましい）
・イスラム教徒の外国人の避難者が、「おなかすいた、喉が渇いた」と言ってきたが、豚肉はダメ、アルコールはダメなど、実際の対応に苦慮した。
・イスラム教徒の避難者で「お祈りする場所がほしい」という要望やインフルエンザの母子などに対し、別室対応が遅れた。→さまざまなケースを想定するとともに、個々の具体的事例を積み上げ、次に生かしていくことが大切。

（４）防災訓練前後の意識調査結果の分析・公表

今年度の防災訓練前後の参加者の意識変化を実証的に明らかにすべく、アンケート調査を実施し、その結果を分析・考察した。そしてその成果を、「高知県立大学社会福祉学部生における防災訓練後の意識変化の諸相」（第 25 回日本介護福祉学会全国大会ポスター発表、於 岩手県立大学、2017 年 10 月 1 日）、「大学生における防災訓練後の意識変化の諸相」（『福祉文化研究』第 27 号所収、2018 年 3 月）、「避難所運営訓練の影響と今日的課題――防災意識，役割付与，エリア配置に焦点を当てて」（『高知県立大学社会福祉学部紀要』第 67 巻所収、2018 年 3 月）などを通じて公表した。今後も継続的に実証研究を進め、年度ごとの比較や他要因との比較等、精緻に実態解明及び課題析出することで、実践訓練に生かせるようにしたい。

○次年度に向けて

今年度は次年度に向けて、訓練後の反省を生かしたマニュアルの改訂を行った。エリアごとの具体的な反省や課題をていねいに確認し、実践に生かしたい。学外との関わりや参加者の多様化といった課題にも積極的に取り組んでいきたい。

総務・予算委員会

西梅　幸治

総務・予算委員会は、委員長を西梅、宮上学部長、加藤助教、田中助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。いずれも学部事務職員の協力を得て取り組んだ。

１．活　動　内　容

① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営

・　開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計23回）。

② 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備

・ 社会福祉学部棟３階４階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として、年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保を行った。

・ ４回生の国試準備・卒論作成用に空き教室や福祉情報資料室を自主学習室として使用できるように整備し、使用簿で管理する体制を作った。

・ 学生自習室等の学部共用パソコンについて、情報処理部会とともにハードディスク管理及びウィルス対策ソフトの一括導入を継続し、メンテナンス業務の省力化を図った。

・ E102教室・E103教室に財務施設課、教務課の協力のもと、視覚伝達支援システムの導入を行った。また財務施設課主導でコピー機の入れ替えを行った。

・ 学部事務室（E415演習室）に鍵付き書棚とテレビ台、E110教室に大判プリンタを設置、介護実習室に入浴介助用機器を導入した。また各教室のマイク等の修繕を行った。

③ 学部日常事務の対応

・ 寄贈資料･郵便物の整理、回覧などの仕事に対応した。

④ 『平成28年度社会福祉学部報』発行

・ 平成28（2016）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布した。

⑤ 学生教育用図書・資料等の充実

・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通して定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。

・ 国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書･DVD を選び、福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。

・ 福祉情報資料室で保管している卒業論文の電子化による検索・活用の利便性の向上、学生閲覧用論文資料の充実を引き続き行った。

２．今 後 の 課 題

学部棟内の設備・備品の整備や消耗品補充の対応などについては、予算の執行状況を常に確認しながら、計画的に整備していく必要がある。また教員数の減少に伴い、各委員会の役割分担の調整、教員と事務職員との業務分掌の明確化・効率化などについては引き続き検討していく必要があると考えられる。あわせて今後も、丁寧な学部運営の補助及び設備・備品管理と、学部で取り組むべき重点事項への適正な予算配分を行っていきたい。特に学生教育費の執行方法については、次年度も改善を図りたい。

国試対策支援委員会

遠 山　真 世

○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、井上講師、遠山講師、稲垣助教、加藤助教、鈴木助教、田中助教で構成した。後期からは雑賀助教と玉利助教が加わった。

（１）４回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤社養協などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要
４月	国家試験に関するガイダンス（4/6）
５月	学内模擬試験（過去問5/8）
６月	学内模擬試験（過去問6/9）
７月	学内模擬試験（過去問7/3・7/10）、個別面談
８月～９月	「受験の手引」解説（8/31・9/22）
10月	模擬試験（日本ソーシャルワーク教育学校連盟10/26・27） 受験対策直前web講座周知
11月	模擬試験（高知県社会福祉士会11/26） 国試対策講座、個別面談
12月	国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談
１月	国試対策勉強会（1/8-10）、個別面談、自己採点集計 介護福祉士国家試験（1/28）
２月	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験（2/3～2/4）
３月	合格発表（社会福祉士・精神保健福祉士3/15、介護福祉士3/28） 卒業後の手続きに関する説明（3/20）

（２）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（３）2017年度の国家試験合格率

１）社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
97	61	62.9%	67	51	76.1%	30	10	33.3%

合格順位：全国 18 位（既卒含）、全国 30 位（新卒のみ）／214 校（総数での学校数）
合格基準点：99 点（満点 150 点）
全国平均合格率：30.2%
合格順位：全国 4 位／54 校（受験者 50 名以上・新卒）

２）精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
18	18	100%	18	18	100%	0	0	0.0%

合格順位：全国 1 位／104 校（総数での学校数）
合格基準点：93 点（満点 163 点）
全国平均合格率：62.9%

３）介護福祉士の合格率について

総数（新卒）		
受験者数	合格者数	合格率
19	18	94.7%

合格基準点：77 点（満点 125 点）
全国平均合格率：70.8%

○今 後 の 課 題

今年度も、国試対策への意識づけを早い時期に行えるよう、「国試の日」（学内模擬試験）を５月から行い、全体で過去問を解く機会を３回にした。今年度から介護福祉士の国家試験が始まったため、過去問の読解やテキストを用いた復習を行った。昨年度に引き続き、個別面談を前期・後期とも実施し、必要に応じて定期的に面談し相談・助言を行った。面談担当教員で面談記録を共有し、個別の学習状況を把握できるようにするとともに、学習方法について体系的なアドバイスができるようにした。

今年度は特に、卒業論文との両立に苦労し、国試の勉強時間を確保することが難しい学生も多くみられた。今後も合格率のさらなる向上を目指すのであれば、学部全体で国試の勉強に集中できる環境づくりに取り組む必要があると考える。さらに今年度は、問題の傾向と合格基準点が大幅に変わったため、新たな傾向を精査し、今後の対策支援に反映させていく必要があると感じる。

Ⅳ

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士
国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、苦手に感じているものや、勉強の行いにくいもので、対策講座を開講してほしい科目について学生にアンケートを実施し、要望の多かった９科目を先生方に講義をしていただきました。これまでの出題傾向を基に、統計データや新制度、法律、歴史など、テキストのみでは把握することが難しい部分を中心に講義をしていだだきました。そのため、全体の流れの把握や重点を置いて勉強すべき点を捉えることができました。また、分かりやすくまとめられた資料は普段の勉強の一助となり、理解を深めることができたと感じました。講義後でも、質問に対応してくださり曖昧になっている点を払拭することができました。

講義に出席できなかった学生もビデオや資料を使い、忙しい時期ではありましたが、効率的に学習に取り組むことができたのではないかと思います。講義を受けることで点が線となり頭の整理ができたと感じました。

国試対策勉強会について

本年度も、高知県いの町にある宿泊・研修施設を利用して、国家試験に向けた２泊３日の勉強会を行いました。自宅や大学とは異なる雰囲気であり、勉強のみに集中できる環境でした。また、規則正しい生活リズムをもとにしたスケジュールをもとに、早朝から深夜まで、それぞれのペースで勉強に取り組みました。分からない部分があれば、先生方に質問したり、参考書を利用したりすることで１つずつ解決し、時には友人同士で納得がいくまで話し合いました。勉強に行き詰まりを感じた時には、勉強や気分転換の方法について、友人からアドバイスを受け、勉強へのモチベーションを高めました。合宿中は多くの先生方から、差し入れや激励の言葉をいただきました。合宿先の施設職員の方々にも多くの気遣いやサポートをしていただき、たくさんの方が私たちを応援して下さっていることを実感しました。また、一緒に勉強している友人の存在も大きな支えとなりました。

国試合宿を最後までやり遂げることで、１日に勉強できる時間や、自分がどれだけ勉強に向き合う力を持っているのかを改めて知ることができ、国試合宿後の意欲や自信にも繋がりました。国試合宿は試験本番の約１月前です。ラストスパートをかけるきっかけとして、国試合宿にぜひ参加してみてください。

後輩の皆さんへ

大学生活を振り返って、大学４年間はあっという間でしたが、その中でも４回生の１年間は時間の流れを早く感じ、「気付いたら卒業式を迎えていた」というのが正直なところです。４回生になると、卒論、就活、実習、国試などやらなければいけないことがどっと押し寄せてきます。また卒業後の進路に関わってくるものも多く、時には先の見えない不安に押し潰されそうになることもあると思います。けれどそのような時こそ自分の周りには沢山の応援団がいることを忘れないで下さい。家族や、先生、就職支援の職員さん、そして友達... 私もこの１年間沢山の人に助けてもらったのと同時に、人とのつながりの大切さを実感しました。また、この１年を通して培った「常に先を見通して行動する力」や「物事を１つ１つ丁寧にこなす力」など、４回生での経験を通して得たことは、今の私の大きな力になっていると思います。自分を信じて、この１年を全力で駆け抜けて下さい。

国　際　交　流

１．ヴェネチア　カ・フォスカリ大学（イタリア）短期研修

2017 年 9 月 11 日～9 月 21 日の日程で、ヴェネチア　カ・フォスカリ大学短期研修（参加者計 4 名）に社会福祉学部から１名の学生（１回生）が参加した。

（学生による体験記）

私がこの研修に参加したのは、将来、対人職を目指している社会福祉学部の学生として様々な人と出会い、多くの体験の中で自分の視野を広げたいと思ったからである。

最初に訪れたヴェネツィアは「水の都」と呼ばれている。車の代わりに水上バスやゴンドラが交通の便として成り立っており、日本とは全く違う光景を見て気分が高揚した。ヴェネツィアでは、サンマルコ広場やアカデミア橋を訪れたり、協定を結んでいるカ・フォスカリ大学の学生と交流を行ったりした。また、学会や懇親会にも参加させていただき、さまざまな体験や多くの出会いがあった。

私は今回のイタリア研修で様々な経験をし、さらに色々な世界が見てみたいと考えるようになった。実際に現地に行ってみて、インターネットや本だけでは得ることのできないものを得ることができた。今回の研修に関わっていただいた全ての関係者の皆様に感謝をし、恩返ししていく気持ちで今後の学生生活を過ごしたい。

２．国立木浦大学校（韓国）短期研修：2017 年 12 月 17 日～24 日

2017 年 12 月 17 日～12 月 24 日の日程で、国立木浦大学校短期研修（参加者計 5 名）に社会福祉学部から 1 名の学生（1 回生）が参加した。

（学生による体験記）

木浦は、高知県出身の田内千鶴子という女性が、戦前に韓国へ渡り、激動の戦中、戦後にわたり三千人もの孤児を育て「木浦の母」と呼ばれるようになった、高知県とゆかりのある場所である。私たちは、大学にて韓国語や韓国文化を学び、フィールドワークとして庁舎や文化施設、そして田内千鶴子の資料館と今は田内千鶴子の子孫が運営している孤児院にも訪問することができた。韓国語が全くしゃべれない状態で行ったが、コミュニケーションで困ることは一切なかった。現地では日本語のしゃべれ

る事務の方や、日本語を勉強している木浦大学の学生が授業やフィールドワーク、その後の宿舎にもいてくださり、とても助かった。　　今日の日韓関係は決して良好なものとは言えないかもしれない。しかし、それは政治的なある一面であり、実際に韓国へ行ってみて印象は大きく変わった。今回の研修で田内千鶴子から始まった高知と木浦の絆が今、高知県と木浦の姉妹提携につながり、そしてこの関係をより発展させようとする情熱が伝わるとてもいい経験をさせていただいた。お世話になった人たちは皆、すごく歓迎してくださり積極的に友好を深めようとしており、このような高知と木浦の関係が今後の日韓関係の親善に向かうという希望を持つようになった。今回の研修で身に着けた国際的な視点により、今後の大学生活をより意欲的に活動していきたい。

３．慶南科学技術大学校（韓国）短期研修

2017 年 12 月 17 日～12 月 24 日の日程で、慶南科学技術大学校への短期留学研修（参加者計 4 名）に社会福祉学部から 3 名の学生（1 回生 2 名、2 回生 1 名）及び大学院人間生活学研究科院生（社会福祉学領域）1 名が参加した。

（学生による体験記）

私達は、異文化交流から「韓国の文化や暮らし」、「社会問題」、「韓国の福祉制度」を学びたいと思い研修に参加した。この研修で印象が強いものが 2 つある。

1 つ目は、韓国語の授業である。韓国語がうまく話せなかったため、熱心な姿勢で授業に臨んだ。授業の後半には、韓国学生と生活のことなどを詳しく話し合えたので、日本と韓国の文化、考え方の違いを学ぶことができたことが良かった。

2 つ目は、韓国の福祉施設訪問である。今回は、地域社会福祉館・障がい者施設を訪問した。地域社会福祉館では、事例の発見・相談支援などを主に行っており、住民に対する見守り支援が非常に手厚いことが特徴的であった。障がい者福祉館では、保育園・リハビリ・作業所などが１つの施設に設備されており、多様なサービスを受けることができる。また、体育館もあるため、娯楽を楽しむことができる施設であった。これら２つの施設を訪問して、韓国と日本で行っているサービスが違っていて、参考にしたいことも発見できたため、良い経験になったと思う。

今回の研修がこんなに充実した素晴らしいものとなったのは、韓国の先生や学生の方々、高知県立大学の先生、事務員の方々のおかげだと思っている。心から感謝をしている。この研修で学んだことを、今後の学習にいかせるようにし、自身を成長させたいと考えている。

４．　ウボンラーチャタニ大学　（タイ）国際キャンプ参加

2017 年 5 月 27 日～6 月 3 日、ウボンラーチャタニ大学（タイ）が主催する国際キャンプ（The 6th Language and Culture Camp）に社会福祉学部 3 回生が 2 名参加した。

（学生による体験記）

・世界 16 か国から日本人 9 名を含む、およそ 130 名の大学生と院生、それから教師が若干名参加し、プログラムはすべて英語で行われた。キャンプのテーマは多文化理解であり、文化交流パーティーや各国の伝統を紹介する機会が多く、参加者それぞれの伝統文化について知り、体感することができた。他国の学生と生活を共にする中で、国や地域によって生活習慣やライフスタイルが大きく異なり、日本では当たり前のことも、他国ではそうではないことに気付いた。始めは文化の違いに戸惑いながらも、最後はお互いを理解しあうことができたように思う。

・キャンプのハイライトは最終日のグループ発表である。私のグループは「若者がどうしたら村で永住できるか」というテーマのもと約１分間ずつ、役割分担をしながら発表した。メンバーに添削と練習を付き合ってもらい、緊張、焦り、不安もあったが、何より、自分の話す英語が多少なりとも聴衆である他のグループに伝わっていることの嬉しさと、常に活動を支えてくれたグループメンバーへの感謝の思いに満たされた。一方で、日本人は、コミュニケーション下手であるといわれる理由がよく理解できた。しかし、すらすらと会話できなくても他者を思いやる気持ちや、真面目に活動に取り組む姿勢は多くの外国人参加者から評価された。また、様々な専門分野の人たちと過ごすことで、たくさんの視野や考えを手に入れ、新たな発想を持つことができた。

なお、上記すべての短期研修について、個々の参加学生の詳細なレポートを本学国際交流センターのホームページで読むことができる。関心のある方はぜひアクセスしてほしい。

http://www.u-kochi.ac.jp/site/cie/shortstayreport.html

学外イベントへの参加

障害者スポーツ大会にボランティアとして参加しました

2017 年 5 月 28 日（日）、高知県立春野総合運動公園およびボウルかつらしまにて「第 19 回高知県障害者スポーツ大会」が行われ、社会福祉学部の 1 回生がボランティアとして参加しました。このボランティアは、毎年の恒例行事になっています。

毎年開催されるこの大会は、県内から約 1,300 名が参加しており、学生にとって障害のある方とスポーツを通じて交流する貴重な機会となっています。本学学生は春野総合運動公園会場の担当として、陸上やペタンクなどの競技運営や表彰式のサポート、駐車場案内などの役割をこなしました。誘導をしながら選手と交流したり、大きな声で競技を盛り上げたりと、普段とは違った学生の姿が印象的でした。天候にも恵まれ、障害者スポーツについて考えるきっかけにもなり、とても有意義な経験となりました。

第 16 回高知ふくし機器展に参加しました

第 16 回高知ふくし機器展が、高知県ふくし交流プラザで 6 月 17 日（土）～18 日（日）の二日間にわたって開催されました。社会福祉学部の 1～2 回生がボランティアとして参加しました。このボランティアも毎年の恒例行事です。

全国からのたくさんの来場者がいる中で、学生は、受付や福祉機器の体験コーナーなど、それぞれの担当部署で運営をサポートしました。また、最新の車いすや介助用品、自助具などを体験したり、実際に福祉機器を使用されている人のお話を聞いたりするなど、貴重な機会になりました。2 回生のボランティアリーダーは、他の学校も含めた学生ボランティアの代表として開催までの準備やその後の振り返り等にも携わり、当日も学生ボランティアの統括役として活躍しました。

太　鼓　部

太鼓部は現在４回生６人、３回生４人、２回生３人の計１３人で活動をしています。練習は週に１・２回、池キャンパスの体育館で行っています。演奏活動では、紅葉祭・入学式等の学校行事を始め、三里フェアや尾川祭りなど地域のお祭りや、福祉施設でのイベントに参加を通して地域の方々との交流を行っています。

特に昨年度は、ミュージカルオペラ「龍馬」にて劇中演奏と開演前のウェルカム演奏をさせていただきました。２００９年に行われた初演から実に８年ぶりの公演という大変貴重な機会をいただき、部員一同が一層励んで演奏を行いました。出演者の迫力ある演技と合唱、よさこい踊りの熱演をはじめとする、スタッフやサポーターの皆さんで作り上げたステージのパワーに強い刺激を受け､私たちも全力で演奏することが出来ました｡演奏後、観客から大きな拍手と温かいお声がけをたくさんいただき、太鼓の演奏を通じて多くの人に元気と活力を与えることができることを改めて実感しました。

一つの曲を仕上げる際に、叩き方や口伝だけでなく、「魅せる」演奏ができるように意識しています。そのためにも本番に向けて練習と反省を繰り返し、日々向上に努めていくことが必要となります。所属している学部やコースもそれぞれ違うため、限られた時間でどのように曲を構成していくかで話し合いを行うことも多々あります。こうして曲が仕上がったとき、達成した時の感動は非常に大きく部員の一体感がより強くなります。

和太鼓という演奏を通して地域と繋がることができる大切さもまた感じることができ、より練習の励みとなります。

太鼓部では個性豊かな部員と楽しく太鼓を叩いたり､自分たちで企画を立てて親睦を深めたり、より豊かな学生生活を送ることができます。それらの経験は大学を卒業した後も必ず役に立ちます。

太鼓部の良さをより多くの方に知ってもらい、これからも皆で頑張っていきたいです。

池 手 話 サ ー ク ル

私たち、池手話サークルは週１回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えそうな会話文を考え、手話の本を調べて学んだり、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。また、高知県聴覚障害者協会青年部（以下、手話青年部）の方と交流をしながら、楽しく手話を学んでいます。

手話コーラスを披露するのは、３月に行われる耳の日記念集会です。今年度は、耳の日記念集会で「世界に一つだけの花」、「３６５日の紙飛行機」の２曲を手話コーラスで発表しました。手話青年部の方々と一緒に練習を行い、演出なども考えました。発表では、観客の皆さんが手話コーラスを真似して一緒に行ってくれ、温かい雰囲気の中で発表を終えることができました。また、青年部の方々とは、毎年交流会を行っており、今年度はバドミントンとボッチャを行い、昼食を食べながらの交流をして楽しみました。さらに、耳の日記念集会に向け、練習を兼ねた交流会も行いました。青年部の方々との交流は、手話の本を使うよりも大きな学びがあり、日常的に手話を用いている皆さんとの関わりから、多くの経験をさせていただいています。

手話サークルとして活動していくなかで、多くの方々との出会いがあり、手話でつながる楽しさを感じることができました。今後も、手話を通したつながりを大切にして活動していきたいと思います。

また同時に、サークル規模の拡大もできればと考えています。現在、社会福祉学部の学生を中心に活動しています。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきますので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思います。よろしくお願いします。

イ　ケ　あ　い

2012 年より活動を開始した、イケあい地域災害学生ボランティアセンター（以下：イケあい）は東日本大震災の復興ボランティアに参加した学生らによって作られた防災サークルです。団体の目的は、災害時にスムーズに支援に入れるよう日頃から地域との信頼関係を築くことや、災害ボランティアセンター（以下：災害 VC）で中核となれる人材を育成すること、活動や情報の発信によって防災啓発を行うことです。

こうした目標を達成するために、たくさんの地域、団体と協力しながら活動しています。イケあいは、三里地区の住民の方々とよく活動させて頂いています。三里地区では、地域の方々と鍋を囲みながら、交流を深める DoNabe net in 高知の実施や、売店や地域住民の発表の場所であるイベント、三里フェアへの参加、災害 VC 模擬運営などを行っています。地域と交流することも大切ですが、イケあいはその中にも防災を取り入れる工夫を考え、実践しています。

また、学内の活動も行っています。その活動のひとつとして、11 月 5 日に医療センターとの合同災害訓練を行いました。実際に災害 VC を立ち上げ、運営を行いました。企画段階から、先生方、大学院生、他団体と話し合いを重ね、改めてイケあいの役割は何かを考えながら取り組むことが出来ました。

合同災害訓練を通して、部員が災害 VC についての知識を深めることにつながっただけではなく、部員以外にも災害 VC の認知度を高め、災害時に活用できる体制づくりのきっかけにもなったのではないかと感じています。

これからも「楽しいから始まる防災を大切に！」をモットーに、高知県で災害から生き抜くためにはどうすればいいのかを考え、地域に寄り添いながら活動していきたいと思います。

ハ モ ☆ イ ケ

ハモ☆イケは高知医療センターでボランティアを行っている「ハーモニーこうち」と共にボランティア活動を行っているサークルです。2017 年度のメンバーは社会福祉学部の４回生２名、３回生５名、２回生５名、1 回生７名の合計１９名で構成されていました。

主なボランティア内容は、

・正面玄関や花壇の清掃
・花の植替えや水やり
・入院患者の入院室までの案内
・外来患者の案内
・図書サービス
・小児の見守りや作業
・高知工科大学のインターンシップの指導・補助
・バザーの準備、当日の手伝いや片付け
・バザーの反省会兼交流会
・クリスマスツリーの設置、片付け

などがあります。

同サークルに入会後は、まず車椅子・視覚障害者の手引きの研修と、高知医療センターの方々による研修を受けます。その後一人ひとりボランティアを行うに当っての目標を決め、心構えを持って活動を始めます。

それぞれのボランティアは活動内容、時間帯、時期が異なるため、メンバーの予定に合わせて各自で積極的にボランティアに行くという、個人参加型のサークルです。そのため集団としての活動というよりも、個人あるいは数人の規模で活動を行っています。

ボランティアを通して､職員やボランティア関係者､患者の方々と交流することができ、自身の考えを深めることができます。また、医療チームの一員として活動を行うという責任を持つことで、責任感と協調性を高めることもできます。

2017 年度は各自担当曜日を設定し、正面玄関の清掃や花の水やりを継続的に行うことにより、患者さんに気持ちよく来院していただけるよう取り組みました。また、前年度は設置することができなかったクリスマスツリーを院内ロビーに設置することができ、患者さんや職員の方々にも喜んでいただくことができました。

３月に行われた高知医療センターでのハーモニーこうち総会では、部員３名が高知医療センター長から特別表彰を受け､ハモ☆イケ全体の活動についても評価をいただきました。

2018 年度もメンバーひとりひとりが目標をかかげ前年度の反省を活かし、職員やボランティア関係者、患者の方々との交流を大切にしながら活動していきたいと思います。

かんきもん（土佐弁：元気者）

ボランティアサークル「**かんきもん**」です。かんきもんは、児童から高齢者まで誰もが守り助け合う『共生社会づくり』を目的に活動しています。
「援農」「YCPK」「タウンモビリティ」「学習支援」「傾聴」「シグマ」と 6 つの活動を行っています。

◇援農隊 and 地域交流

四万十市や安芸市などの中山間地域を訪れ、農作業を行うなど地域貢献に取り組んでいます。また、日曜市や県立大学の学園祭で地域の特産品を販売しており、地域の魅力を発信しています。

◇Young Crime Prevention in Kochi:若者防犯ボランティア in Kochi（YCPK）

三里地区の小学生の登下校時の見守り活動を定期的に行い、地域の活性化や防犯意識の向上に取り組んでいます。平成 28 年には「防犯かるた」を学生が手作りし、様々なイベントで紹介しています。

◇タウンモビリティ

市内中心商店街の一角を拠点とする移動支援の NPO 活動に協力しながら、障害者や要介護高齢者、赤ちゃん連れの母親などの買い物支援を行っています。

◇学習支援

太平洋学園、土佐希望の家、土佐市などで学習支援を行っています。土佐市では子どもの居場所づくりの一環として子どもやその保護者が参加できるイベントを企画運営しました。

◇傾聴

講師をお招きし傾聴の目的や方法、効果などを学んだ上で、グループホームや一人暮らしの高齢者・障害者の自宅を訪問し、コミュニケーションを図る活動をしています。

◇シグマ

女性と子ども達の生活向上を目的に活動しています。DV 防止のキャンペーンに参加し、街頭でティッシュを配ったり、子ども達と七草粥を探して交流を図ったりします。

四万十市西土佐大宮での田植え

YCPK 防犯フォーラムへの参加

かんきもんでのボランティアを通じて、自分の興味・関心を広げ、
机上では学びきれないことを実体験として得てもらいたいと思います。

SOCIETY FOR EVERYONE

高知県立大学国際協力サークル Society For Everyone は、国際協力について考える団体です。私たちは、イギリスに本拠地を持つ、Oxfam という NGO 団体の理念に基づいて活動しています。

Oxfam は「貧困のない公正な社会の実現」を目指しており、募金活動や人道支援、チャリティーコンサートなど、様々な活動をしています。しかし、Oxfam の活動は日本ではまだあまり浸透していないほか、日常生活において貧困の現状について情報を得られる機会は少ないです。

そのため SFE では、国際的な現状や課題についての気づきをより多くの人に起こすことを目標に活動していますとしています。貧困を抜け出し、豊かな生活を得るためには、世界中の人が参加する協力体制が必要です。オックスファム・クラブとして食糧問題を体感、貧困問題を体感、そしてメディアやニュースも活用しながら活動を発信し、高知というコミュニティから変革を図っています。

私たちは、貧困に関するワークショップやフォトアクションを学内外で行っているほか、地産地消を推進することを目的に南国市の農家さんと共同でサツマイモを育て、それを学祭で販売したり、大学の生協ショップでフェアトレードのチョコレートを販売するなど、社会の動きや部員の興味関心に合わせた幅広い活動を行っています。

現在部員数は４回生７名、３回生４名、２回生７名、１回生４名、工科大生２名の計２４名で、高知県立大学両キャンパスと香美キャンパスのそれぞれで活動しています。

高知から世界を変えることを目指して、身近なことから始められる国際協力の輪を広げるために今年度も充実した活動を行っていきたいと思います。

ボランティア活動

片　岡　妙　子

○本年度の取り組み状況

学部教員、福祉実習支援室を通じてボランティアの情報を提供するとともに、学生が参加した実績について情報集約を行った。

○本年度のボランティア参加状況

日　時	種別・主催者・企画名	内　　容	人数
4 月 22 日	特別養護老人ホーム	レクリエーションボランティア	12
5 月 13 日	津野町船戸地区茶畑ウォーキング	体験型観光ボランティア	4
5 月 20 日	佐川町佐川地区夢まちランド	佐川町佐川地区夢まちランド	4
5 月 28 日	佐川町佐川地区夢まちランド	地域交流イベントボランティア	5
5 月 28 日	第 18 回高知県障害者スポーツ大会	運営補助・競技補助	72
5 月 28 日	特別養護老人ホーム	感謝祭ボランティア	5
6 月 10 日	土佐市学習支援	児童の学習支援ボランティア	3
6 月 17 日	四万十市西土佐地区大宮地域	田植えボランティア	12
6 月 17 日	土佐市学習支援	児童の学習支援ボランティア	3
6 月 18 日	本山町汗見川地区	地域運動会ボランティア	4
6 月 17 日	特別養護老人ホーム	環境整備ボランティア	1
6 月 17～18 日	第 16 回高知福祉機器展	運営補助	72
6 月 24 日	南海学園	施設イベントボランティア	4
7 月 8 日	土佐市学習支援	児童の学習支援ボランティア	3
7 月 15～17 日	三原村地域活動	地域福祉・地域づくりボランティア（伝統文化の継承、健康体操考案、地域 PR 動画の作成）	6
7 月 16 日	児童養護施設	夏祭りボランティア	2
7 月 17 日	障害者福祉サービス事業所	休日活動ボランティア	1
7 月 22 日	介護老人福祉施設	納涼祭ボランティア	10
7 月 29 日	北川村加茂地区夏祭り	地域の夏祭りボランティア	2
8 月 1 日	高知市旭地区夏祭り	地域の夏祭りボランティア	4
8 月 13 日	土佐町夏祭り	地域の夏祭りボランティア	2
9 月 8 日	四万十町・梼原町・津野町老人クラブ地域交流	地域交流イベントボランティア	1
9 月 10 日	安芸市東川地区　幡種ボランティア	農作業ボランティア（入河内大根の幡種作業）	1
9 月 23～24 日	土佐清水市斧積地区	地域福祉計画地域版作成ワークショップへの参加協力	5

9 月 24 日	障害者支援施設	秋祭りボランティア	2
9 月 10 日	特別養護老人ホーム	環境整備ボランティア	1
9 月 9 日	特別養護老人ホーム	秋祭りボランティア	1
10 月 8 日	安芸市東川地区運動会	地域運動会ボランティア	2
10 月 18 日	高知県高知若草養護学校 国立高知病院分校	修学旅行ボランティア	1
10 月 29 日	三原村総社祭	地域伝統文化の継承ボランティア	6
10 月 31 日	安芸市東川地区　獅子舞踊り練習	地域伝統文化の継承ボランティア	4
10 月 31 日	安芸市東川地区　獅子舞踊り本番	地域伝統文化の継承ボランティア	6
11 月 1～2 日	高知県高知若草養護学校 土佐希望の家分校	修学旅行ボランティア	2
11 月 7 日	土佐市ゆうやけ食堂（子ども食堂高齢者版）	独居高齢者への傾聴ボランティア	4
11 月 14 日	三原村総社祭	地域伝統文化の継承ボランティア	6
11 月 12 日	介護老人福祉施設	開設 20 周年記念祭	4
2 月 17 日	高知龍馬マラソン	準備、参加賞引換、会場案内等	4
12 月 27 日	特別養護老人ホーム	餅つき大会ボランティア	7
2 月 3 日	高知市旭地区　くらし何でも相談会・子どもの居場所づくり・個別訪問	炊き出し、子どもの居場所づくり、個別訪問ボランティア	5
3 月 21～22 日	三原村健康体操・PR 動画発表	地域福祉･地域づくりボランティア（健康体操の考案、地域 PR 動画の作成）	6
合計			301 名

延べ 301 名がボランティアに参加した。ボランティア先は高齢者施設や障害者支援施設、地域活動が多い。ボランティア内容は、レクリエーションや施設が行っているお祭りの運営補助、地域活動の運営補助や地域交流などであった。地域におけるボランティアでは、学部教員の引率によるものも多く、イベントに限らず地域福祉に関連するものもあった。

例年 1 回生が参加している障害者スポーツ大会、福祉機器展にはほぼ全員の学生が参加し､ボランティアを通して障害への理解を深められる機会となったとの声が聞かれていた。また、実習先となっている施設へのボランティア参加もあり、単発的なボランティア活動だけでなく、定期的に行うボランティア活動もみられた。

V

卒業論文題目一覧(2017年度)

平成２９年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

教員氏名	題　　目
井上　健朗	MSWの服装を通して考える援助観について
	ターミナルケアにMSWが介入する意義について ―病院の機能分化における違いに着目して―
	医療福祉士論争の意義について ―MSWの国家資格化をめぐる言説の分析―
	終末期がん患者に対するチーム・アプローチにおけるMSWの役割 ―急性期病院と緩和ケア病棟のMSWの役割の違いに焦点を当てて―
河内　康文	障害者支援施設で利用される食器具に関する一考察
	障害者の社会参加を支えるボランティアの定着に関する一考察 ―福祉を学ぶ学生に焦点をあてて―
	知的障害者に対する偏見・差別の解消に向けて －福祉教育のなかでの接触体験に焦点を当てて－
杉原　俊二	「こどものまち」に関わることで見られる成長 ―社会参加と社会性の発達に焦点を当てて―
	高知県におけるこども食堂の現状と課題
	児童養護施設職員のストレス要因と対策に関する研究
	児童養護施設における就学・就労支援に関する研究
	放課後等デイサービスにおける支援内容と課題 ―発達障害を抱える子どもに対する支援―
鈴木　孝典	相談支援専門員による発達障害児とその母親に対する支援 ―福祉サービスの利用開始時期に着目して―
	我が国における「自立」観に関する一考察 ―障害者福祉に焦点を当てて―
	大学生が感じるストレスへの自己認識と対処方法及び生活の捉え方の関係性 ―学年ごとの比較から―
	当事者性を持つ支援者とクライエントの関係構築に関する一考察 ―自助グループに着目して―
	予防的社会福祉概念の今日的意義 ―岡村重夫の地域福祉論を手掛かりに―
田中　きよむ	若年性認知症者とその家族の居場所づくり －認知症カフェに焦点を当てて－
	中山間地域における学校を拠点とする地域づくり
	貧困問題と教育格差に関する一考察 －子どもの学習支援に焦点を当てて－
遠山　真世	在宅知的障害者の親の課題と今後の支援についての一考察
	施設に入所している重症心身障害児者の「地域と関わる支援」について ―在宅生活者と比較して―
	障害者の「自立」の考え方について
	障害者の性における尊厳獲得に向けた一考察 ―性介助の現場から―
	特別支援学校高等部在学中の進路選択における家庭と学校の連携に関する研究 ―生徒・保護者が抱える課題と望む支援について―
長澤　紀美子	アルコール依存症の女性ミーティングに参加する女性が 嗜癖を必要とした背景と回復過程に関する一考察
	災害時における母子家庭の困難と支援 ―東日本大震災を経験した保育所での子育て支援の例から―
	性別違和を抱える青年期の当事者の居場所に関する一考察 ―家族と家族以外からの受容に着目して―
	ダブルケアラーの精神的負担感に対する支援 ―ケアラーズカフェにおけるダブルケアラーへの聞き取り調査をもとに―
	配偶者と死別した独居男性高齢者への支援 ―閉じこもり状態からの回復過程に着目して―

西内　章	高齢者スポーツの参加者と環境に関する研究
	災害復旧に向けた被災地の住民及び社会福祉協議会の取り組みに関する研究
	小学校初年次における学級づくりの取り組みに関する研究 ―SC・SSWerとの連携に向けた課題分析―
	道徳拠点校における道徳教育と福祉教育の位置付けに関する研究
西梅　幸治	回復期リハビリテーション病棟における医療ソーシャルワーカーの支援方法に関する研究 ―患者に対する個別化による支援に焦点化して―
	稼働年齢層の生活困窮者に対する自立支援に関する研究 ―ストレングス視点からのアプローチに着目して―
	生活困窮者家庭の子どもへの学習支援に関する研究 ―ストレングスを活かした支援方法に着目して―
	ソーシャルワークにおけるレジリエンスに関する研究 ―社会的養護の子どもたちへの支援に焦点化して―
	妊娠期からの虐待予防に関する研究 ―母親になる過程での支援に焦点をあてて―
	ひきこもり当事者への就労支援に向けた研究 ―アウトリーチによる支援方法に焦点をあてて―
鳩間　亜紀子	高齢者施設における学生ボランティア受け入れの意義に関する研究
福間　隆康	医療ソーシャルワーカーのコンピテンシーに関する一考察 －ベテラン期のMSWを対象とした質的調査より－
	子育てと仕事の両立に関する一考察 －民間企業に勤める女性への質的調査より－
	男性が育児休業を取得しやすい職場づくりに関する研究 －一般企業で働く一般職男性および人事担当者を対象とした質的調査－
	知的障害者のモチベーションに関する一考察 －特例子会社で働く知的障害者を対象としたインタビュー調査から－
	未婚者の交際を継続させるには －20～40代の社会人既婚者へのインタビュー調査から－
丸山　裕子	あったかふれあいセンターにおけるコミュニティワークに関する一考察 －「悩めるわかもん集まれ！地域センパイプロジェクト」の提案－
	就学前児童とその親への総合的支援 －ソーシャルワーカーの必要性と今後の展望－
	動物が人に及ぼす影響、成果、実践 - くらし、いやし、そだち -
	ピアサポーターを軸とした社会的ひきこもり支援の一考察 －「バトンリレー　－繋ぐバトンの輪－」の試み－
宮上　多加子	認知症高齢者が施設に入所する時に必要とされる情報
	認知症高齢者を在宅で介護する家族の介護継続意志について －義理の関係に着目して－
三好　弥生	介護職に対するグリーフケアに関する研究
	介護職の仕事継続に関する研究 －高齢者施設における介護職のやりがいについて－
	重度要介護高齢者の生きがい支援に関する考察
山村　靖彦	学生ボランティアと被災地住民との会話がもたらす効果
	再犯者支援に関する一考察 ―刑務所の機能に着目して―
	地域福祉における住民主体の検討 -住民と専門職との協働による展開－
	人と人との「つながり」の機能に関する一考察 －地域で暮らし続けるための強みとして－
	対人援助における「プルースト現象」の活用について －リラックス効果や自己肯定感をもたらすものとして－
	福祉避難所における発達障害児への支援

編 集 後 記

社会福祉学部報第20号をお届けします。

本学部報は、平成29年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会や学生による活動の実績などをまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。本学部は、これまで定員拡充や共学化をはじめ、いくつもの変革を伴いながら歩みを進めて参りました。今年度は、学部創設20年の節目を迎え、在学生・卒業生・教員のネットワーク構築の契機となる20周年記念事業を開催しました。

当日は、全国から多くの卒業生・修了生が、そして在学生も多数集まり盛会となりました。卒業生・修了生によるシンポジウムでは、在学時に取り組んだことや卒業後の経過、現状のやりがい・生きがいについて熱心にフロアに語りかけました。フロアからの質疑もあり、自由闊達で熱気に満ちたシンポジウムとなりました。会の後半は、高齢者福祉・児童福祉などの領域別で卒業生同士、在学生も交えて意見を交わし合い、今後のキャリアビジョンを再考すると共に、一人ひとりが新たな決意を固める有意義な機会となりました。卒業生と共に学生時代を懐かしみ、旧交を温めながら楽しいひとときを過ごすなかで、開設以来の学生の伸び伸びとした気風や、きめ細やかな少人数制教育など、よき伝統を守り続けていく意義を改めて見直すことができました。

本学部は、開設以来、地域の関係機関や多くの関係者のご支援ご協力のもと、高知県はもとより国内外で活躍する社会福祉専門職を養成するという使命を果たしてきました。また、多くの卒業生が様々な現場で活躍し、学部生に卒後の道を拓いてくれています。今後は、さらに卒業生ともネットワークを築き、より良い教育体制や専門職養成のあり方を模索しながら、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思います。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員会　西梅 幸治

高知県立大学社会福祉学部報

第２０号

発行日：2018年6月1日

発行者：宮上 多加子（学部長）

編 集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515　高知県高知市池2751-1

Tel　088-847-8700（大学代表）

Tel　088-847-8757（学部代表）

Fax　088-847-8672（学部専用）